
紀の川市
子ども・子育て支援事業計画における
ニーズ調査 結果報告書

平成 27 年3月
紀の川市

目 次

I 調査の概要	
1. 調査の目的	1
2. 調査概要	1
3. 報告書の見方	1
4. 用語の定義	2
5. 回答要約	3
II 調査の結果	9
(1) お住まいの地域について	9
(2) 子どもの生年月日及び就学・未就学について	9
(3) きょうだいの人数及び末子の年齢について	10
(4) 回答者について	11
(5) 回答者の配偶関係について	11
(6) 子育て(教育を含む)を主に行っている方について	12
(7) 子育て(教育を含む)に日常的に関わっている方について	12
(8) 子育て(教育を含む)に、強く影響すると思われる環境について	13
(9) 子どもをみてもらえる親族・知人について	13
(10) 祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況について	14
(11) 友人・知人にお子さんをみてもらっている状況について	15
(12) 子どもの子育て(教育を含む)をする上で、気軽に相談できる人について	15
(13) 子どもの子育て(教育を含む)に関して、気軽に相談できる先について	16
(14) 母親の現在の就労状況(自営業、家族従事者含む)について	17
(15) 母親の週当たりの就労日数、1日当たりの就労時間(残業時間を含む)について	18
(16) 母親が就労のため家を出る時刻と帰宅時刻について	19
(17) 父親の現在の就労状況(自営業、家族従事者含む)について	20
(18) 父親の週当たりの就労日数、1日当たりの就労時間(残業時間を含む)について	21
(19) 父親が就労のため家を出る時刻と帰宅時刻について	22
(20) フルタイムへの転換希望について	23
(21) 就労希望について	24
(22) 幼稚園や保育所などの定期的な教育・保育事業の利用について	26
(23) 平日利用している教育・保育の事業について	27
(24) 平日に定期的に利用している教育・保育の事業の利用頻度と利用希望について	28
(25) 現在、利用している教育・保育事業の実施場所について	30
(26) 平日の定期的な教育・保育事業の利用理由について	30

(27) 平日の定期的な教育・保育事業を利用していない理由について.....	31
(28) 平日の教育・保育の事業として、定期的に利用したいと考える事業について.....	32
(29) 教育・保育事業を利用したい場所について.....	33
(30) 現在の地域子育て支援拠点事業の利用について.....	33
(31) 地域子育て支援拠点事業の利用意向について.....	34
(32) 子育て支援事業の認知度、利用度、利用意向度について.....	35
(33) 土曜日と日曜日・祝日における定期的な教育・保育事業の利用希望について.....	38
(34) 毎週ではなく、たまに利用したい理由について.....	40
(35) 長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用希望について.....	41
(36) 毎日ではなく、たまに利用したい理由について.....	42
(37) この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことについて.....	42
(38) 病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合の対処方法について.....	43
(39) できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思ったかについて.....	44
(40) 病児・病後児の子どもを預ける場合希望する事業形態について.....	45
(41) 利用したいと思わないと思われる理由について.....	46
(42) 病児・病後児を他人に預けた際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思われましたか.....	47
(43) 休んで看ることは非常に難しいと思われる理由について.....	48
(44) 私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業について.....	49
(45) 現在利用していない理由について.....	50
(46) 私用、親の通院、不定期の就労等の目的での、年間必要利用日数について.....	51
(47) 子どもを預ける望ましい事業形態について.....	52
(48) この1年間に、保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族の病気など)により、あて名のお子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことの有無について.....	52
(49) その場合の困難度について.....	54
(50) 小学校低学年(1～3年生)での放課後(平日の小学校終了後)の過ごし方について.....	54
(51) 小学校高学年(4～6年生)での放課後(平日の小学校終了後)の過ごし方について.....	56
(52) 土曜日と日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用希望について.....	58
(53) 長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望について.....	60
(54) 子どもが生まれた時の育児休業の取得について.....	61
(55) 育児休業給付、健康保険及び厚生年金保険の保険料の免除についての認知度.....	63
(56) 育児休業取得後の職場への復帰について.....	63
(57) 育児休業から職場に復帰したタイミングについて.....	64
(58) 育児休業の実際の取得と希望について.....	64

(59) 勤め先に育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、預けたい希望の期間について	66
(60) 希望の時期に職場復帰しなかった理由について	67
(61) 希望より遅く復帰した理由について	68
(62) 育児休業からの職場復帰時の短時間勤務制度の利用について	69
(63) 短時間勤務制度を利用しなかった(利用できなかった)理由について	70
(64) 子どもが1歳になるまでに必ず利用できる(預ける)事業があっても、1歳になるまで育児休業を取得するかについて	71
(65) 地域における子育ての環境や支援への満足度について	71
(66) 自由記載について	72
参考資料	73

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、平成 26 年度に行う「子ども・子育て支援事業計画」の策定資料として、保育ニーズや紀の川市の子育て支援サービスの利用状況や利用意向、また、子育て世帯の生活実態、要望・意見などを把握することを目的に、市民意向調査（アンケート調査）として実施しました。

2. 調査概要

- 調査地域：紀の川市全域
- 調査対象者：紀の川市内在住の「就学前児童」をお持ちの世帯・保護者（就学前児童調査）
紀の川市内在住の「小学生」をお持ちの世帯・保護者（就学児童調査）
- 抽出方法：住民基本台帳より、就学前児童（0歳～5歳）1,000 人、
就学児童（6歳～9歳）500 人の合計 1,500 人を無作為抽出
- 調査期間：平成 26 年2月 17 日～平成 26 年2月 28 日
- 調査方法：郵送配布・郵送回収

調査票調査対象者数

	配布数	有効回収数	有効回収率
就学前児童	1,000	415	41.5%
就学児童	500	217	43.4%
合 計	1,500	632	42.1%

3. 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答【SA】（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答【MA】（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N(number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

4. 用語の定義

幼稚園 : 学校教育法に定める、3～5歳児に対して学校教育を行う施設
(学校教育法第 22 条)

保育所 : 児童福祉法に定める、保育に欠ける0～5歳児に対して保育を行う
施設(児童福祉法第 39 条)

認定こども園: 幼稚園と保育所の機能を併せ持つ施設
(就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に
関する法律第2条第6項)

子育て : 教育・保育その他の子どもの健やかな成長のために行われる支援

教育 : 問 11 までにおいては家庭での教育を含めた広い意味、問 12 以降に
おいては幼児期の学校における教育の意味で用いています。

5. 回答要約

(1) お住まいの地域について

問1 お住まいの地区として当てはまる答えの番号1つに○をつけてください。

住居地域についてみると就学前児童では「打田地域」が約半数ともっとも多くなっており、就学児童では「貴志川地域」が3割を超え、もっとも多くなっています。

(2) お子さんご家族の状況について

問3 あて名のお子さんのきょうだいは何人いらっしゃいますか。あて名のお子さんを含めた人数を数字でご記入ください。2人以上のお子さんがいらっしゃる場合は、末子の方の生年月をご記入ください。

就学前児童では「2人」がもっとも多く4割程度となっており、次いで「1人」が2割を超え高くなっています。就学児童では「2人」が4割強ともっとも多くなっており、次いで「3人」が3割程度となっています。

(3) 子どもの育ちをめぐる環境について

問7 現在、あて名のお子さんの子育て(教育を含む)に日常的に関わっている方はどなた(施設)ですか。お子さんからみた関係で当てはまる番号すべてに○をつけてください。

就学前児童では「父母ともに」が6割近くともっとも多くなっており、次いで「保育所」が半数近く、「祖父母」が3割強となっています。

就学児童では「小学校」が7割近くともっとも多く、次いで「父母ともに」が5割強、「母親」が4割近くとなっています。

問9 日頃、あて名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

就学前児童・就学児童ともに同じ傾向を示しており、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」がもっとも多くそれぞれ6割前後となっており、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が就学前児童では4割、就学児童では3割強、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」がそれぞれ1割前後となっています。

また一方で、「いずれもない」がそれぞれ5%程度おられます。

問10 あて名のお子さんの子育て(教育を含む)をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前児童・就学児童ともに「いる／ある」と答えられた方が9割近くおられる一方で、「いない／ない」と答えられた方が5%前後おられます。

問 10 で「1.いる／ある」に○をつけた方のみ

問 10-1 お子さんの子育て(教育を含む)に関して、気軽に相談できる先は、誰(どこ)ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

就学前児童・就学児童ともに「祖父母等の親族」が就学前児童で9割近く、就学児童で8割ともっとも多くなっており、次いで就学前児童では「友人や知人」が8割弱、「保育士」が3割程度となっています。就学児童では「友人や知人」が8割近く、「小学校教諭」が3割を超えています。

(4) 保護者の就労状況について

問 12 あて名のお子さんの保護者の現在の就労状況(自営業、家族従事者含む)をうかがいます。

母親の就労状況をみると、就学前児童では「以前は就労していたが、現在は就労していない」がもっとも多く4割近くにのぼり、次いで「パート・アルバイト等(フルタイム以外の就労)で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が3割近く、「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が2割程度となっています。就学児童では「パート・アルバイト等(フルタイム以外の就労)で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」がもっとも多く半数近くに上っており、次いで「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が3割弱、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が2割弱となっています。

父親の就労状況では就学前児童・就学児童ともに8割を超える方が「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)で就労しており、産休・介護休業中ではない」となっています。

問 13 フルタイムへの転換希望はありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

母親についてみると就学前児童・就学児童ともに同じ傾向を示しており、「パート・アルバイト等(フルタイム以外)の就労を続けることを希望」がもっとも多くそれぞれ半数を超えており、次いで「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)への転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が3割前後、「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)への転換希望があり、実現できる見込みがある」が5%程度となっています。

(5) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

問 15 現在、あて名のお子さんは幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

就学前児童への質問で、「利用している」が6割、「利用していない」が4割となっています。

問 15-1 あて名のお子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

教育・保育事業の利用についてみると、「認可保育所(公立・私立含む)」がもっとも多く8割近くにのぼり、次いで「幼稚園(通常の就園時間の利用)」が15%となっています。また、「幼稚園の預かり保育」「事業所内保育施設」「認可外保育施設」「その他の認可外の保育施設」「ファミリー・サポート・センター」にも若干数ではありますが回答がありました。

問 16 現在、利用している、利用していないにかかわらず、あて名のお子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担(利用料金)が発生します。認可保育所の場合、世帯収入に応じた利用料が設定されています。

利用希望についてみると、「認可保育所(公立・私立含む)」が7割を超えもっとも多く、次いで「幼稚園(通常の就園時間の利用)」が2割を超え、実際に利用している状況を聞いた問15-1と同様の傾向を示しています。

また、それ以外の事業についても実際の利用より利用希望の方が高くなっている傾向が見られ、特に「幼稚園の預かり保育」「認定こども園」「ファミリー・サポート・センター」では1割前後の希望があり、「事業所内保育」も若干ではありますが、ニーズがあります。

(6) 地域の子育て支援事業の利用状況について

問 17 あて名のお子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業を利用していますか。次の中から、利用されているものすべてに○をつけてください。また、おおよその利用回数(頻度)を数字でご記入ください。

地域子育て支援拠点事業の利用についてみると「利用していない」が8割を超えており、「地域子育て支援拠点事業」「ながやま子育て支援センター」を利用していると答えた方の合計は1割強となっています。

問 18 問 17 のような地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いませんか。当てはまる番号一つに○をつけて、おおよその利用回数(頻度)を数字でご記入ください。

今後の利用希望についてみると「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が半数を超え、もっとも多くなっていますが、「利用していないが、今後利用したい」「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」と答えた方も4割弱おられます。

問 19 下記の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。①～⑦の事業ごとに、A～Cのそれぞれについて、「はい」「いいえ」のいずれかに○をつけてください。なお、事業によっては、お住まいの地域で実施されていないものもあります。

認知度についてみると「知っている」と答えた方の割合が多いのは就学前児童・就学児童ともに「桃山子育て支援センター／那賀子育て支援センター」「赤ちゃん広場・子育て教室」「保健センター(保健師)の情報・相談事業」「保育所や幼稚園の園庭等の開放」となっています。就学児童での認知度は高いのですが、就学前児童では低いのが「教育相談員・スクールカウンセラー」、就学前児童・就学児童ともに認知度が低いのは「家庭児童相談室(子育て支援課内)」「ファミリー・サポート・センター」「和歌山県子ども・女性・障害者相談センターの相談事業」という傾向が見られます。

実際の利用度を見ると「赤ちゃん広場・子育て教室」では利用度が高い傾向が見られますが、それ以外では「いいえ(利用したことがない)」が高くなっています。

一方で利用意向(今後利用したい)をみると、就学前児童では「保育所や幼稚園の園庭等の開放」が利用意向がもっとも高くなっていますが、それ以外では「いいえ」の割合が高くなっている傾向が見られます。

(7)土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望について

問 20 あて名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育事業の利用希望はありますか(一時的な利用は除きます)。希望がある場合は、利用したい時間帯(24 時間制)をご記入ください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担(料金未定)が発生します。

土曜日の利用希望を見ると就学前児童・就学児童ともに「利用する必要はない」がそれぞれ7割前後と多くなっています。「ほぼ毎週利用したい」「月に1～2回は利用したい」と答えた方の合計は、就学前児童で3割強、就学児童で2割弱となっています。

日曜日・祝日についても同様の傾向が見られますが就学前児童・就学児童ともに「利用する必要はない」が8割を超え、土曜日より1割ほど高くなっています。

問 21 あて名のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。希望がある場合は、利用したい時間帯(24 時間制)をご記入ください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担(金額未定)が発生します。

長期休暇中の教育・保育事業の利用希望についてみると「利用する必要はない」が4割となっていますが、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」「休みの期間中、週に数日利用したい」と何らかの形で利用したいと答えた方も半数弱おられます。

問 22 この1年間に、あて名のお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことはありますか。

「あった」と答えた方の方が多く、就学前児童で6割を超えています。

(8) 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

問 23 あて名のお子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不
定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。ある場合は、当てはまる番号すべ
てに○をつけ、1年間の利用日数(おおよそ)を数字でご記入ください。

就学前児童・就学児童ともに「利用していない」がそれぞれ9割近くに上っておりもっとも多くなっている
一方で、就学前児童では「一時預かり」「幼稚園の預かり保育」「ファミリー・サポート・センター(そらま
めサポート)」「ベビーシッター」なども若干の利用があります。

問 25 この1年間に、保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族の病気など)により、あて名のお子さん
を泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありましたか(預け先が見つからなかった
場合も含みます)。あった場合は、この1年間の対処方法として当てはまる番号すべてに○をつけ、そ
れぞれの日数も数字でご記入ください。

就学前児童・就学児童ともに「なかった」が7割前後と多くなっている一方、2割前後の方が「あった」
と答えられています。

(9) 放課後の過ごし方について

問 26 あて名のお子さんについて、小学校低学年(1～3年生)のうちは、放課後(平日の小学校終了
後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。当てはまる番号すべてに○をつけ、それぞ
れ希望する週当たり日数を数字でご記入ください。また、「放課後児童クラブ」の場合には、利用を希
望する時間も数字でご記入ください。時間は必ず(例)18 時のように 24 時間制でご記入ください。
「放課後児童クラブ」…地域によって学童保育などと呼ばれています。保護者が就労等により昼間家
庭にいない場合などに、指導員の下、子どもの生活の場を提供するものです。事業の利用にあたって
は、一定の利用料(8,000 円/月、減免有り)がかかります。

就学前児童・就学児童ともに同じ傾向を示しており、「自宅」がもっとも多く6割前後、次いで「習い事」
が半数近く、「放課後児童クラブ[学童保育]」が4割程度、「祖父母宅や友人・知人宅」が3割程度とな
っています。

問 27 あて名のお子さんについて、小学校高学年(4～6年生)になったら、放課後(平日の小学校終
了後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。当てはまる番号すべてに○をつけ、それ
ぞれの週当たり日数を数字でご記入ください。また、「放課後児童クラブ」の場合には利用を希望する
時間も数字でご記入ください。時間は、必ず(例)18 時のように 24 時間制でご記入ください。※将来の
ことになりますが、現在お考えのイメージでお答えください。

就学前児童・就学児童ともに「自宅」がもっとも多く7割近くに上っており、次いで「習い事」が6割前後、
「祖父母宅や友人・知人宅」が就学前児童では4割弱、就学児童では3割弱、「放課後児童クラブ[学童
保育]」が3割弱となっています。

(10) 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

問 30 あて名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。母親、父親それぞれについて、当てはまる番号1つに○をつけ、該当する数字をご記入ください。また、取得していない方はその理由をご記入ください。

母親では就学前児童・就学児童ともに6割前後の方が「働いていなかった」と答えられており、取得した方は就学前児童で3割弱、就学児童で2割強となっています。

父親では「取得した」と答えた方が就学前児童で3名、就学児童で1名おられました。

問 30-7 育児休業からの職場復帰時には、短時間勤務制度を利用しましたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

短時間勤務制度の利用についてみると母親では「利用したかったが、利用しなかった(利用できなかった)」がもっとも多く4割を超えており、「利用した」方は3割弱となっています。

父親では「利用する必要がなかった」と答えた方が就学前児童で2名、就学児童で1名おられました。

問 30-8 短時間勤務制度を利用しなかった(利用できなかった)理由は何ですか。当てはまる理由をすべてに○をつけてください。

短時間勤務制度を利用しなかった(利用できなかった)理由についてみると、母親では就学前児童・就学児童ともに同じ傾向を示しており「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」がそれぞれ7割、8割強ともっとも多く、次いで「仕事が忙しかった」がそれぞれ6割弱、4割、「短時間勤務にすると給与が減額される」がそれぞれ4割弱、2割強となっています。

父親での有効回答は得られませんでした。

問 31 お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度について当てはまる番号に1つに○をつけてください。

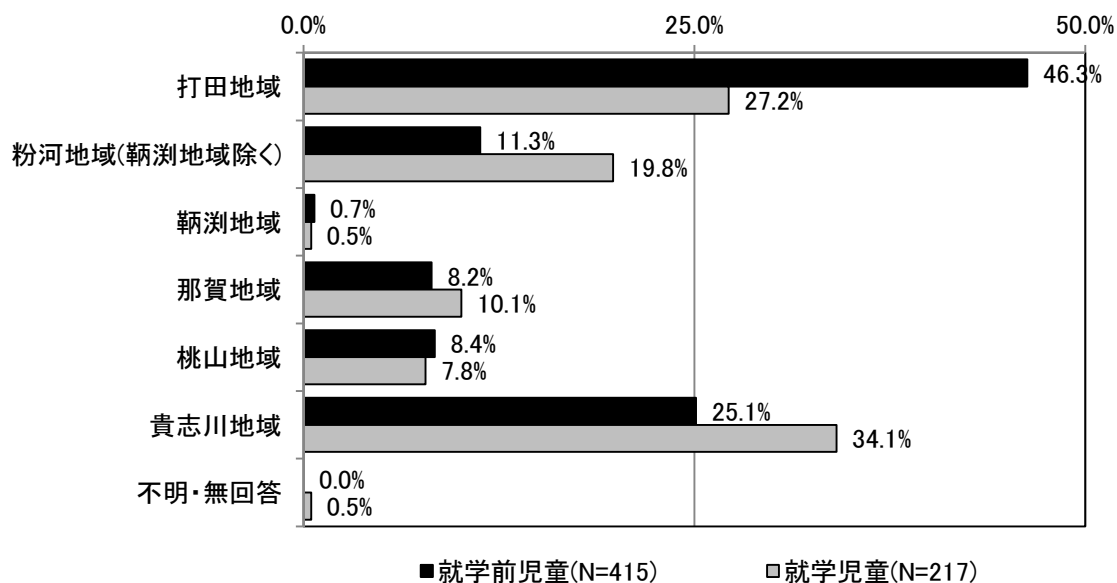
就学前児童・就学児童ともに「普通」と答えられた方がもっとも多く、それぞれ半数近くに達している一方で、満足度が高い4と5を選ばれた方の合計と満足度が低い1と2を選ばれた方は同じぐらいの割合ですが、就学児童では満足度が高いと答えられた方の割合が少し低くなっています。

Ⅱ 調査の結果

(1) お住まいの地域について

【問1】SA

住居地域については、就学前児童で「打田地域」が 46.3%と最も多く、次いで「貴志川地域」が 25.1%、「粉河地域(鞆渚地域除く)」が 11.3%となっています。就学児童では「貴志川地域」が 34.1%と最も多く、次いで「打田地域」が 27.2%、「粉河地域(鞆渚地域除く)」が 19.8%となっています。

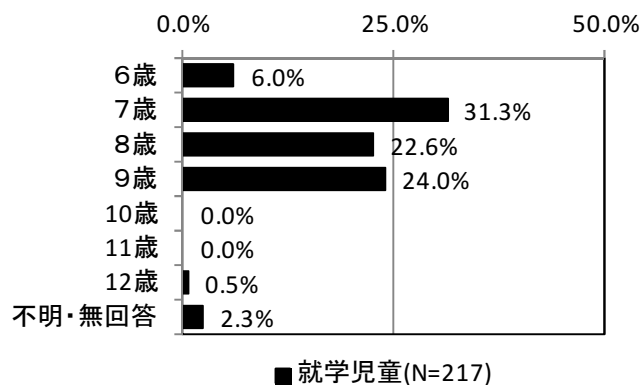
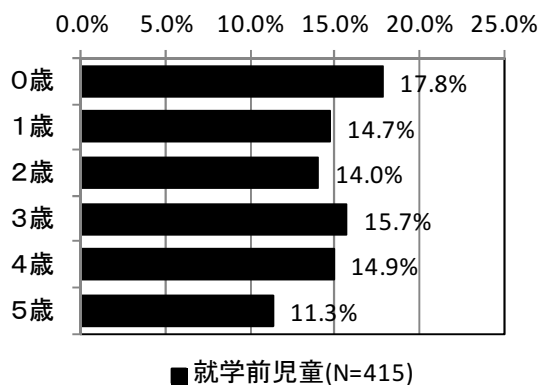


(2) 子どもの年齢及び就学・未就学について

【問2】N・SA

子どもの年齢については、就学前児童で「0歳」が 17.8%と最も多く、次いで「3歳」が 15.7%、「4歳」が 14.9%となっています。就学児童では「7歳」が 31.3%と最も多く、次いで「9歳」が 24.0%、「8歳」が 22.6%となっています。

就学、未就学については未就学(就学前児童)が、415名、就学児童が217名となっています。以降、就学前児童及び就学児童の区分けについてはこの設問で判断しています。

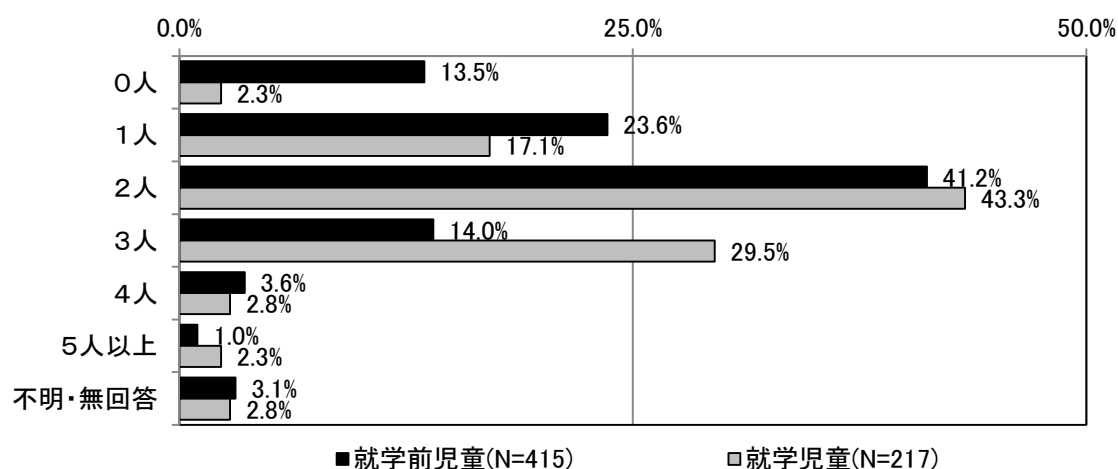


(3) きょうだいの人数及び末子の年齢について

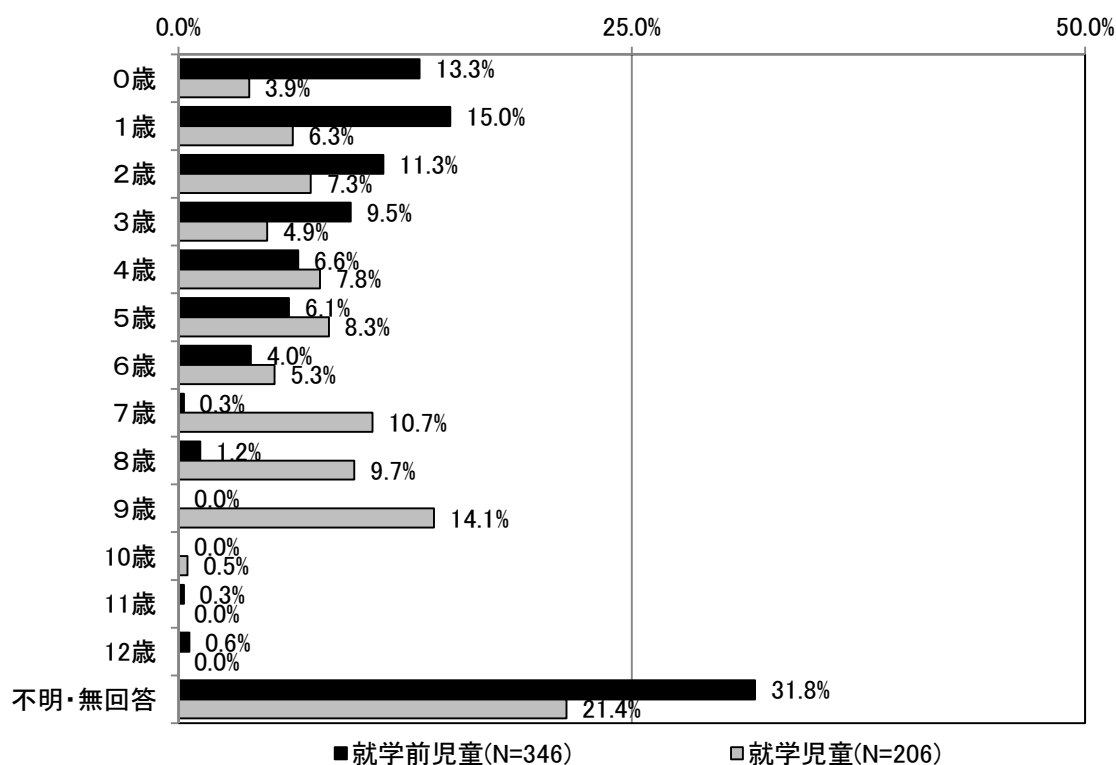
【問3】 N

きょうだいの人数については、就学前児童で「2人」が41.2%と最も多く、次いで「1人」が23.6%、「3人」が14.0%となっています。設問では「あて名のお子さんを含めた人数」となっていますが、それ以外ととらえた方がおられたようです。ゆえに設問として「0人」という回答は不適切ですが、掲載しています。就学児童では「2人」が43.3%と最も多く、次いで「3人」が29.5%、「1人」が17.1%となっています。

また末子の年齢については就学前児童では「1歳」、就学児童では「9歳」が最も多くなっています。



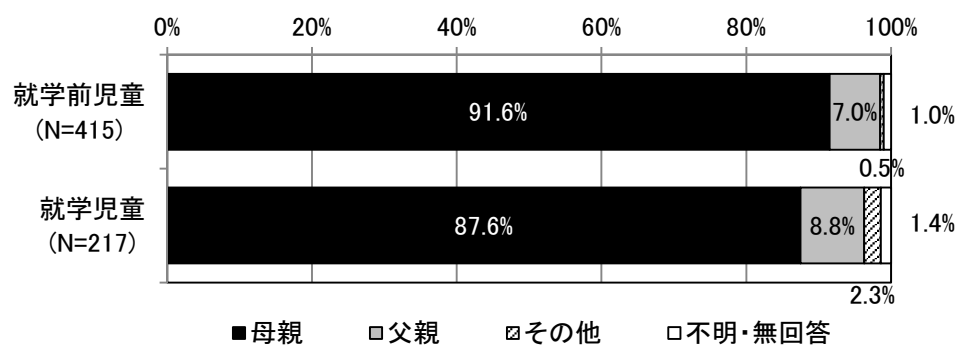
【末子の年齢】



(4) 回答者について

【問4】 SA

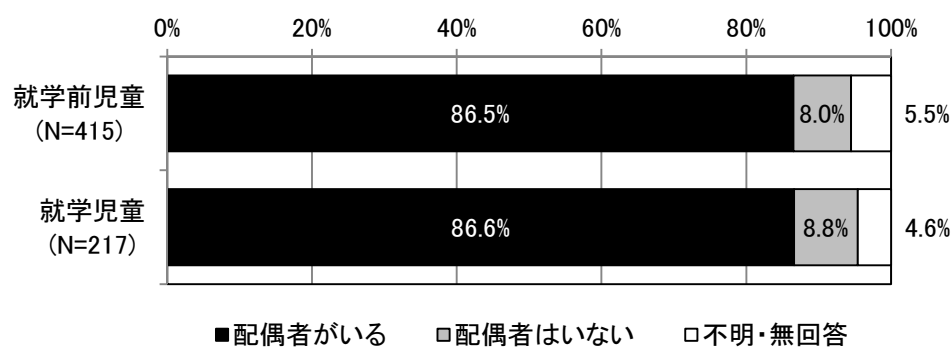
回答者についてでは、就学前児童、就学児童ともに「母親」がそれぞれ 91.6%、87.6%ともっとも多く
なっています。



(5) 回答者の配偶関係について

【問5】 SA

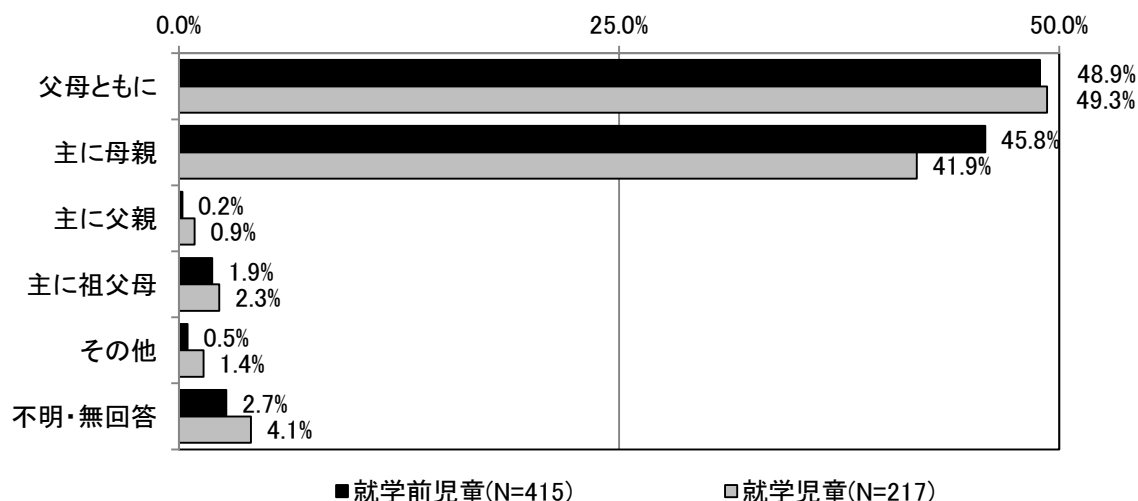
配偶者の有無についてでは、就学前児童、就学児童ともに「配偶者がいる」がそれぞれ 86.5%、
86.6%となっている一方で、「配偶者はいない」と答えた方はそれぞれ 8.0%、8.8%となっています。



(6) 子育て(教育を含む)を主に行っている方について

【問6】 SA

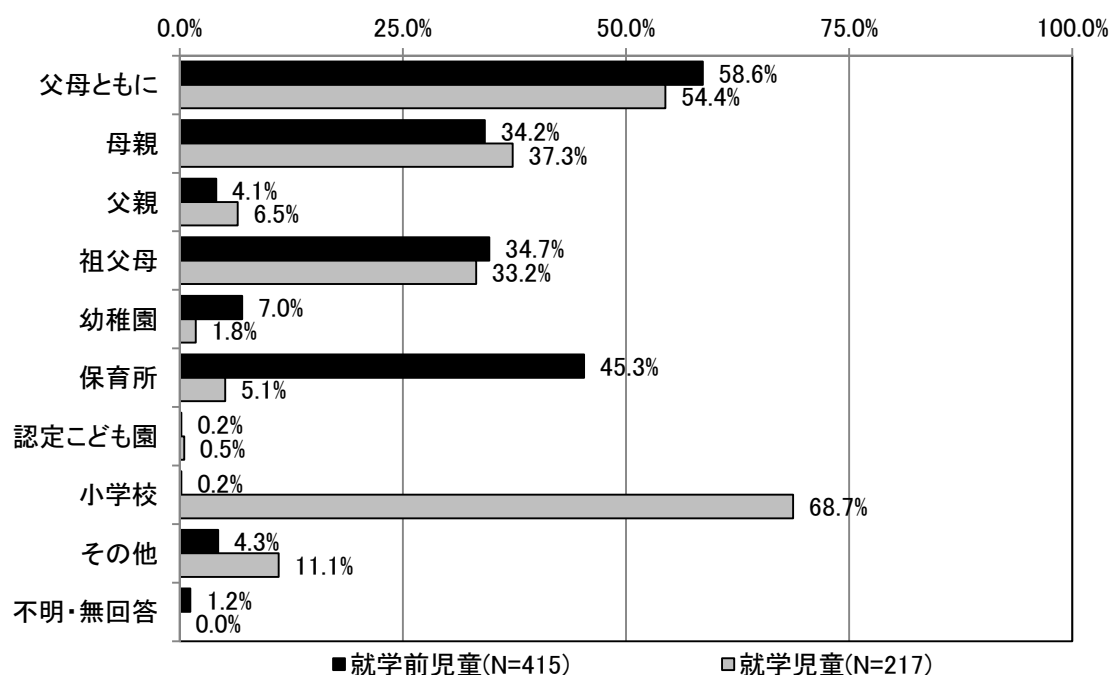
子育て(教育を含む)を主に行っている方についてでは、就学前児童、就学児童ともに「父母ともに」がそれぞれ 48.9%、49.3%と最も多く、次いで「主に母親」がそれぞれ 45.8%、41.9%となっています。



(7) 子育て(教育を含む)に日常的に関わっている方について

【問7】 MA

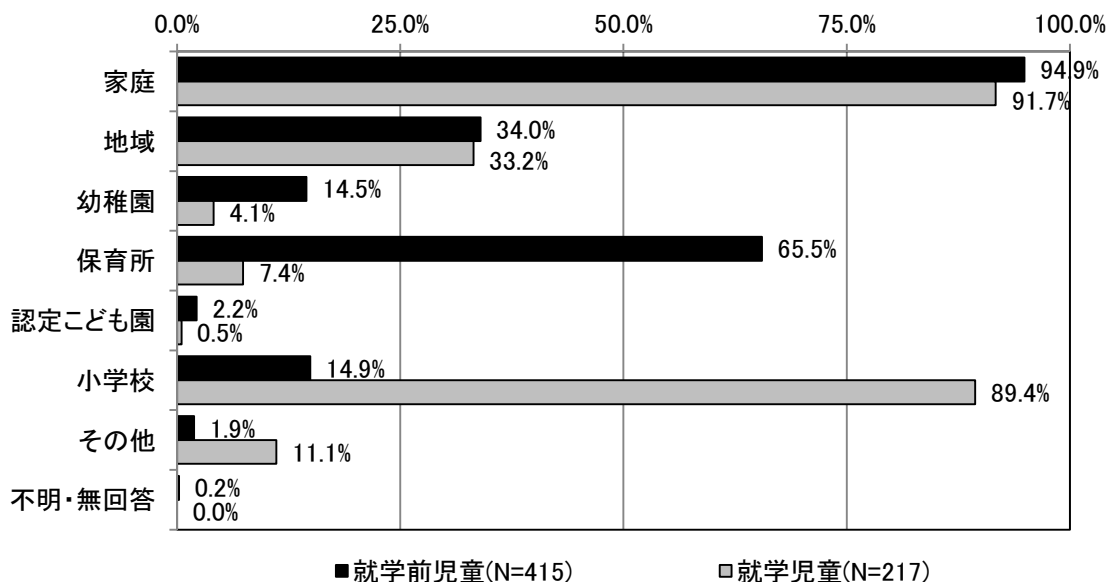
子育て(教育を含む)に日常的に関わっている方についてでは、就学前児童で「父母ともに」が 58.6%と最も多く、次いで「保育所」が 45.3%、「祖父母」が 34.7%となっています。就学児童では「小学校」が 68.7%と最も多く、次いで「父母ともに」が 54.4%、「母親」が 37.3%となっています。



(8) 子育て(教育を含む)に、強く影響すると思われる環境について

【問8】 MA

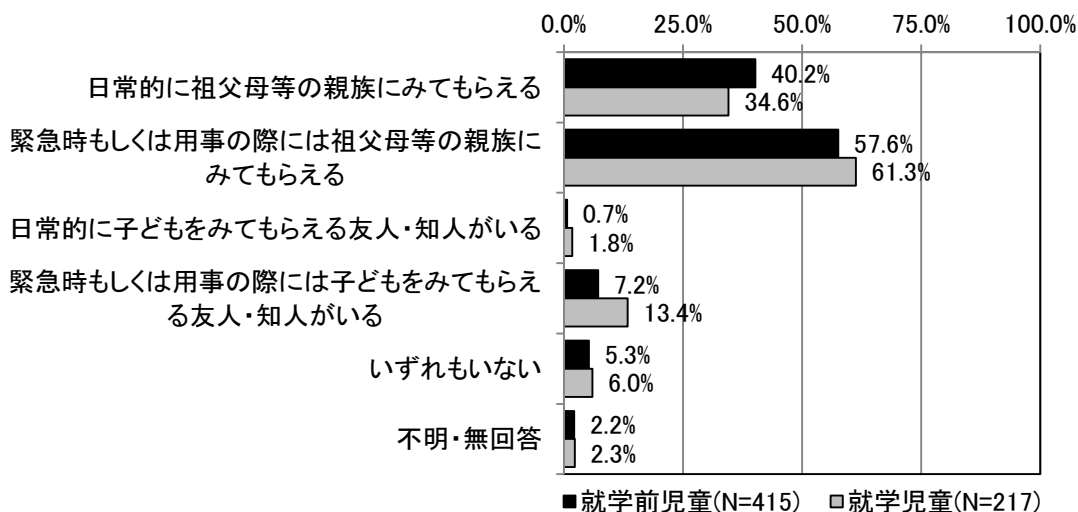
子育て(教育を含む)に、強く影響すると思われる環境については、就学前児童で「家庭」が94.9%ともっとも多く、次いで「保育所」が65.5%、「地域」が34.0%となっています。就学児童では「家庭」が91.7%ともっとも多く、次いで「小学校」が89.4%、「地域」が33.2%となっています。



(9) 子どもをみてもらえる親族・知人について

【問9】 MA

子どもをみてもらえる親族・知人については、就学前児童、就学児童ともに「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」がそれぞれ57.6%、61.3%ともっとも多く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」がそれぞれ40.2%、34.6%、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」がそれぞれ7.2%、13.4%となっています。一方で「いずれもない」と答えた方がそれぞれ5.3%、6.0%おられます。

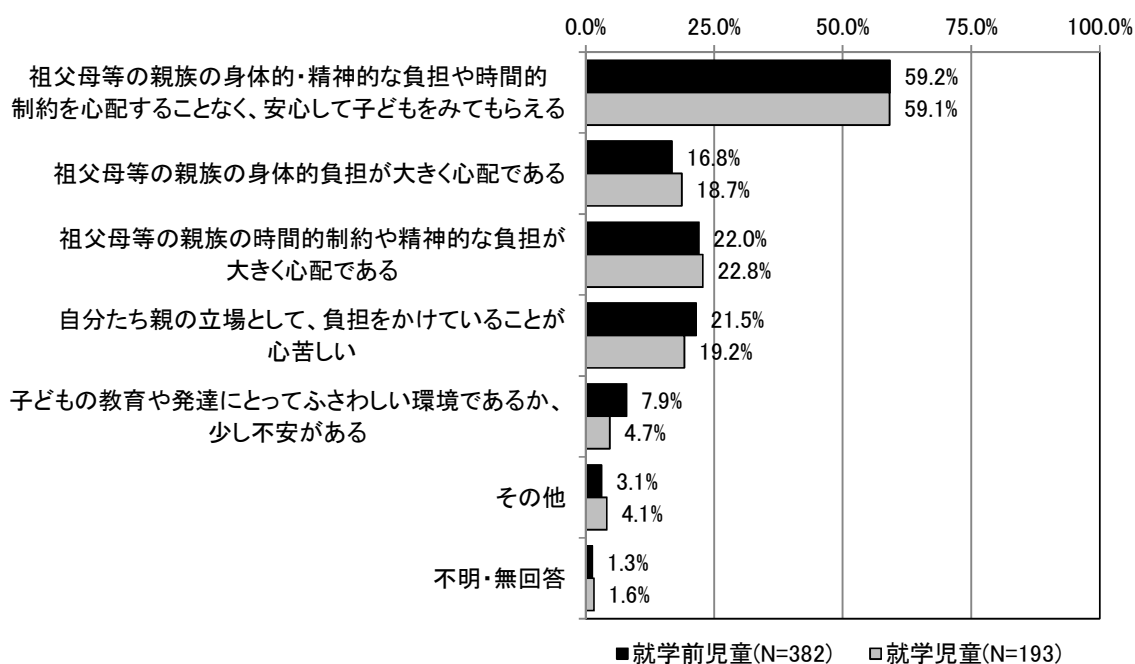


(9)で「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」または「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」に○をつけた方のみ

(10) 祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況について

【問9-1】MA

祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況についてについては、就学前児童、就学児童ともに「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」がそれぞれ 59.2%、59.1%と最も多く、次いで「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」がそれぞれ 22.0%、22.8%、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」がそれぞれ 21.5%、19.2%となっています。

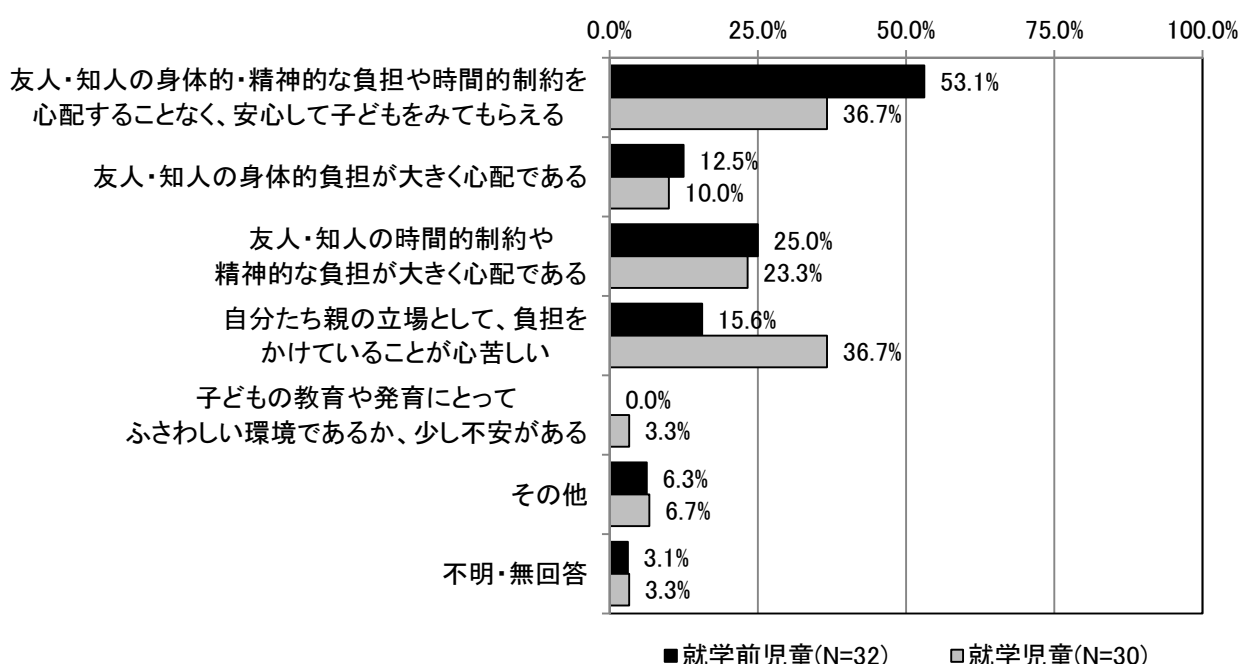


(9) で「日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる」または「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」に○をつけた方のみ

(11) 友人・知人にお子さんをみてもらっている状況について

【問9-2】 MA

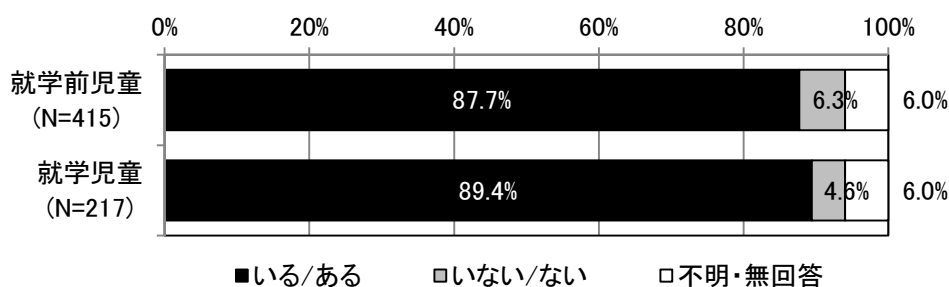
友人・知人にお子さんをみてもらっている状況についてでは、就学前児童で「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が53.1%と最も多く、次いで「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が25.0%、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が15.6%となっています。就学児童では「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」がともに36.7%と最も多く、次いで「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が23.3%となっています。



(12) 子どもの子育て(教育を含む)をする上で、気軽に相談できる人・場所について

【問10】 SA

子どもの子育て(教育を含む)をする上で、気軽に相談できる人・場所についてでは、就学前児童、就学児童ともに「いる／ある」がそれぞれ87.7%、89.4%、「いない／ない」がそれぞれ6.3%、4.6%となっています。



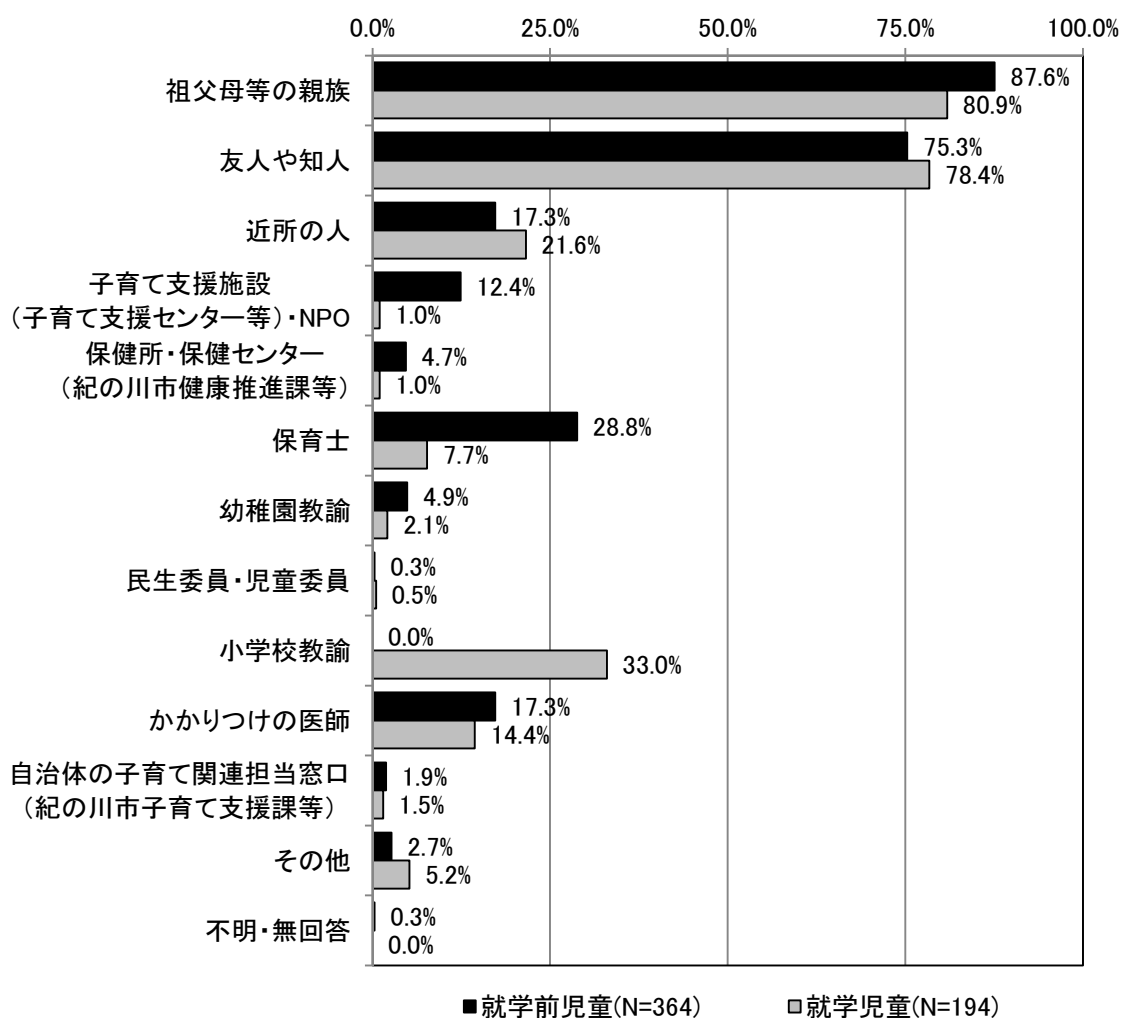
(12) で「いる／ある」に○をつけた方のみ

(13) 子どもの子育て(教育を含む)に関して、気軽に相談できる先について

【問 10-1】 MA

子どもの子育て(教育を含む)に関して、気軽に相談できる先については、就学前児童で「祖父母等の親族」が 87.6%と最も多く、次いで「友人や知人」が 75.3%、「保育士」が 28.8%となっています。

就学児童では「祖父母等の親族」が 80.9%と最も多く、次いで「友人や知人」が 78.4%、「小学校教諭」が 33.0%となっています。



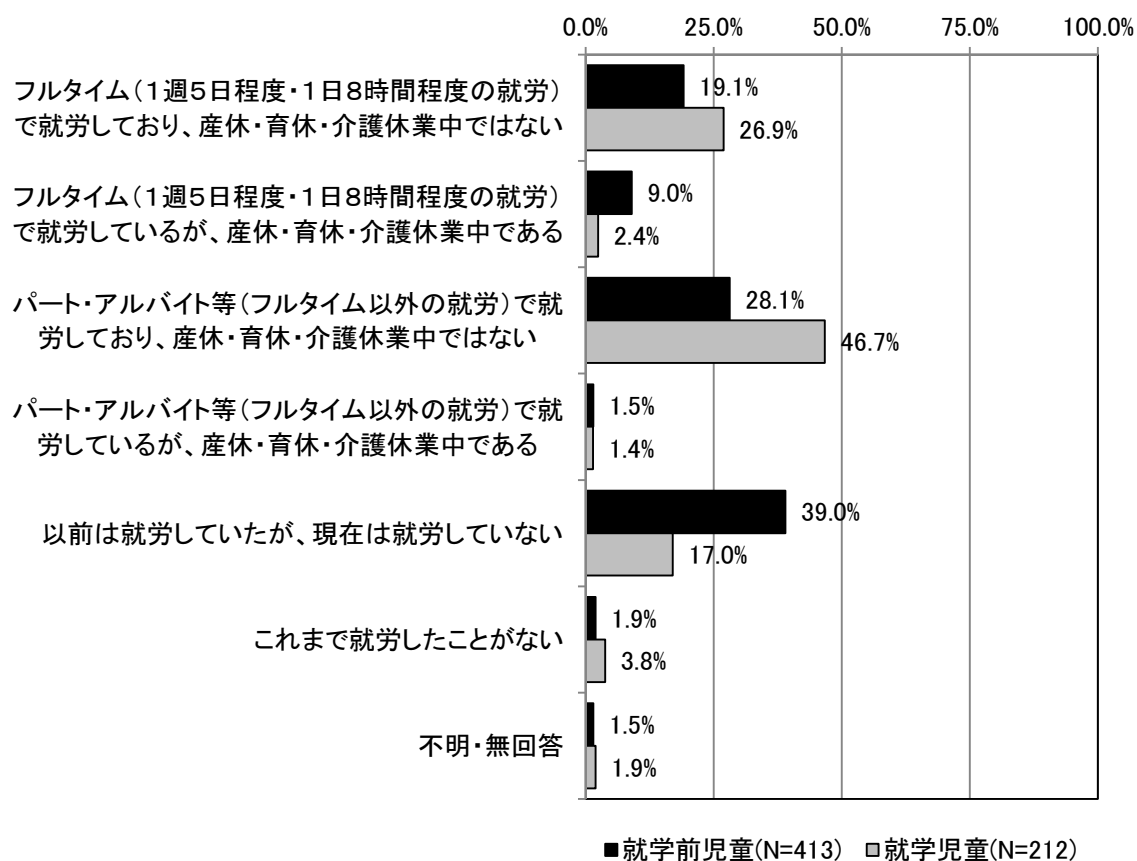
(4) で「その他」に○をつけた方は回答不要、父子家庭の場合は記入不要

(14) 母親の現在の就労状況(自営業、家族従事者含む)について

【問 12(1)】 SA

母親の現在の就労状況(自営業、家族従事者含む)については、就学前児童で「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 39.0%と最も多く、次いで「パート・アルバイト等(フルタイム以外の就労)で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が 28.1%、「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が 19.1%となっています。

就学児童では「パート・アルバイト等(フルタイム以外の就労)で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が 46.7%と最も多く、次いで「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が 26.9%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 17.0%となっています。



(14) で「就労している」(産休・育休・介護休業中を含む) に○をつけた方のみ

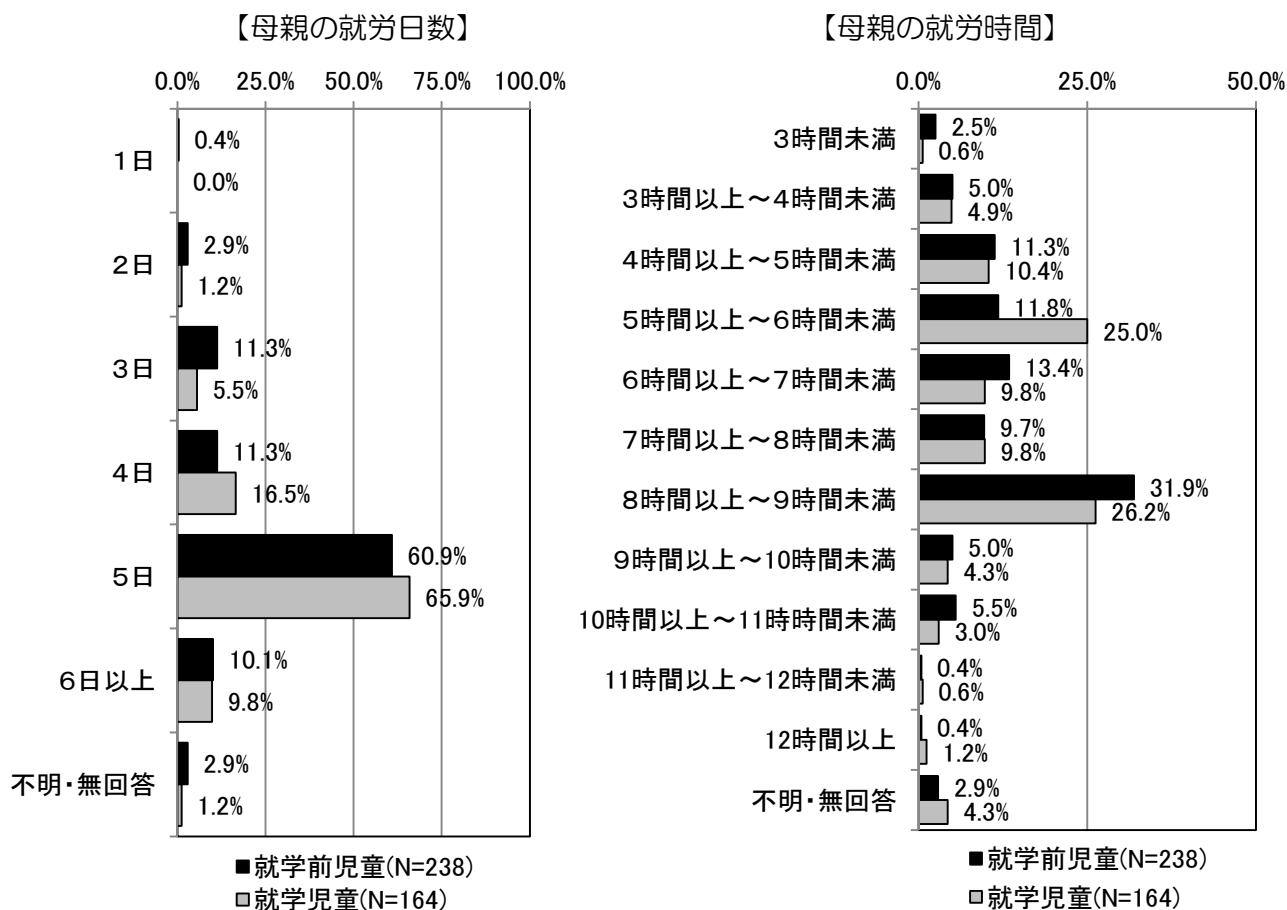
(15) 母親の週当たりの就労日数、1日当たりの就労時間(残業時間を含む)について

【問 12(1)-1】 N

母親の週当たりの就労日数については、就学前児童で「5日」が 60.9%と最も多く、次いで「3日」、「4日」がともに 11.3%となっています。就学児童では「5日」が 65.9%と最も多く、次いで「4日」が 16.5%、「6日以上」が 9.8%となっています。

1日当たりの就労時間(残業時間を含む)では就学前児童で「8時間以上～9時間未満」が 31.9%と最も多く、次いで「6時間以上～7時間未満」が 13.4%、「5時間以上～6時間未満」が 11.8%となっています。

就学児童では「8時間以上～9時間未満」が 26.2%と最も多く、次いで「5時間以上～6時間未満」が 25.0%、「4時間以上～5時間未満」が 10.4%となっています。



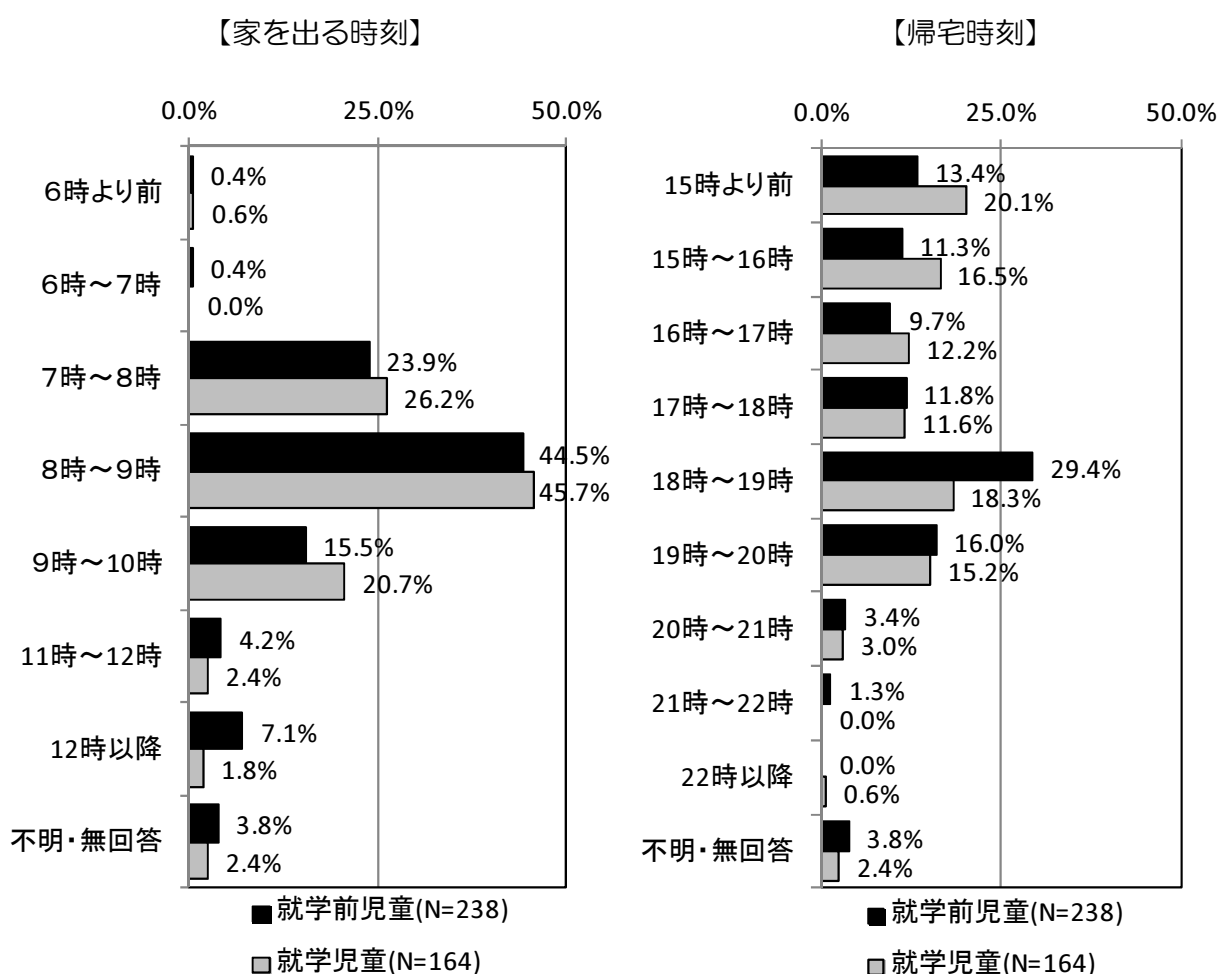
(14) で「就労している」(産休・育休・介護休業中を含む)に○をつけた方のみ

(16) 母親が就労のため家を出る時刻と帰宅時刻について

【問 12(1)-2】 N

母親が就労のため家を出る時刻と帰宅時刻については、家を出る時刻では就学前児童、就学児童ともに「8時～9時」がそれぞれ 44.5%、45.7%ともっとも多く、次いで「7時～8時」がそれぞれ 23.9%、26.2%、「9時～10時」がそれぞれ 15.5%、20.7%となっています。

帰宅時間では就学前児童で「18時～19時」が29.4%ともっとも多く、次いで「19時～20時」が16.0%、「15時より前」が13.4%となっています。就学児童では「15時より前」が20.1%ともっとも多く、次いで「18時～19時」が18.3%、「15時～16時」が16.5%となっています。

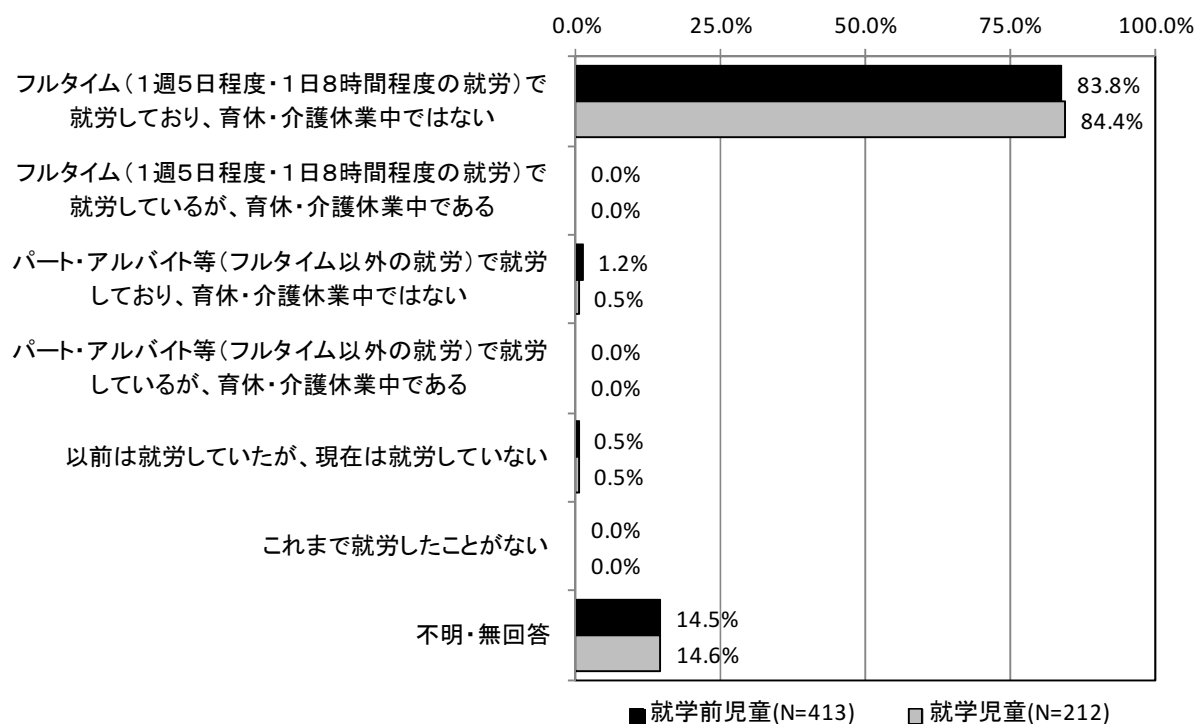


母子家庭の場合は記入不要

(17) 父親の現在の就労状況(自営業、家族従事者含む)について

【問 12(2)】 SA

父親の現在の就労状況(自営業、家族従事者含む)については、就学前児童、就学児童ともに「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)で就労しており、育休・介護休業中ではない」がそれぞれ 83.8%、84.4%と最も多くなっています。



(17) で「就労している」(育休・介護休業中を含む) に○をつけた方のみ

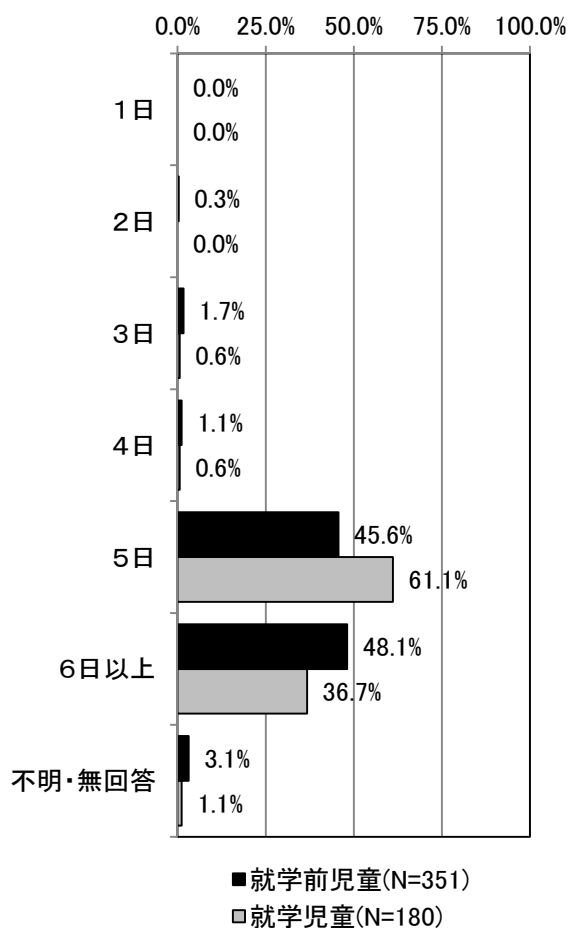
(18) 父親の週当たりの就労日数、1日当たりの就労時間(残業時間を含む)について

【問 12(2)-1】 N

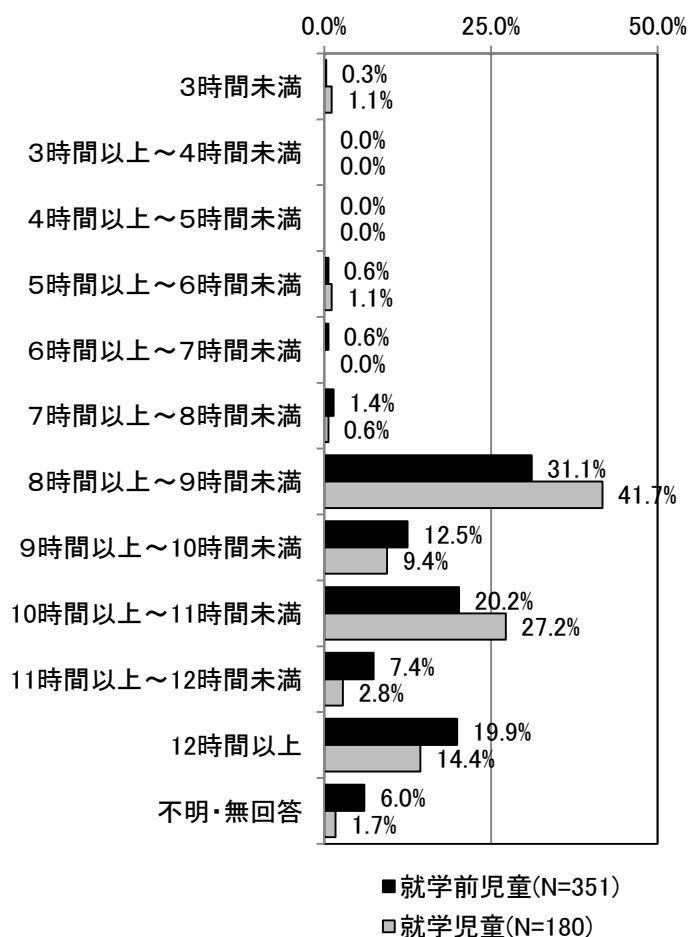
父親の週当たりの就労日数についてでは、就学前児童で「6日以上」が48.1%と最も多く、次いで「5日」が 45.6%となっています。就学児童では「5日」が 61.1%と最も多く、次いで「6日以上」が 36.7%となっています。

1日当たりの就労時間(残業時間を含む)では、就学前児童、就学児童ともに「8時間以上～9時間未満」がそれぞれ 31.1%、41.7%と最も多く、次いで「10 時間以上～11 時間未満」がそれぞれ 20.2%、27.2%、「12 時間以上」がそれぞれ 19.9%、14.4%となっています。

【父親の就労日数】



【父親の就労時間】



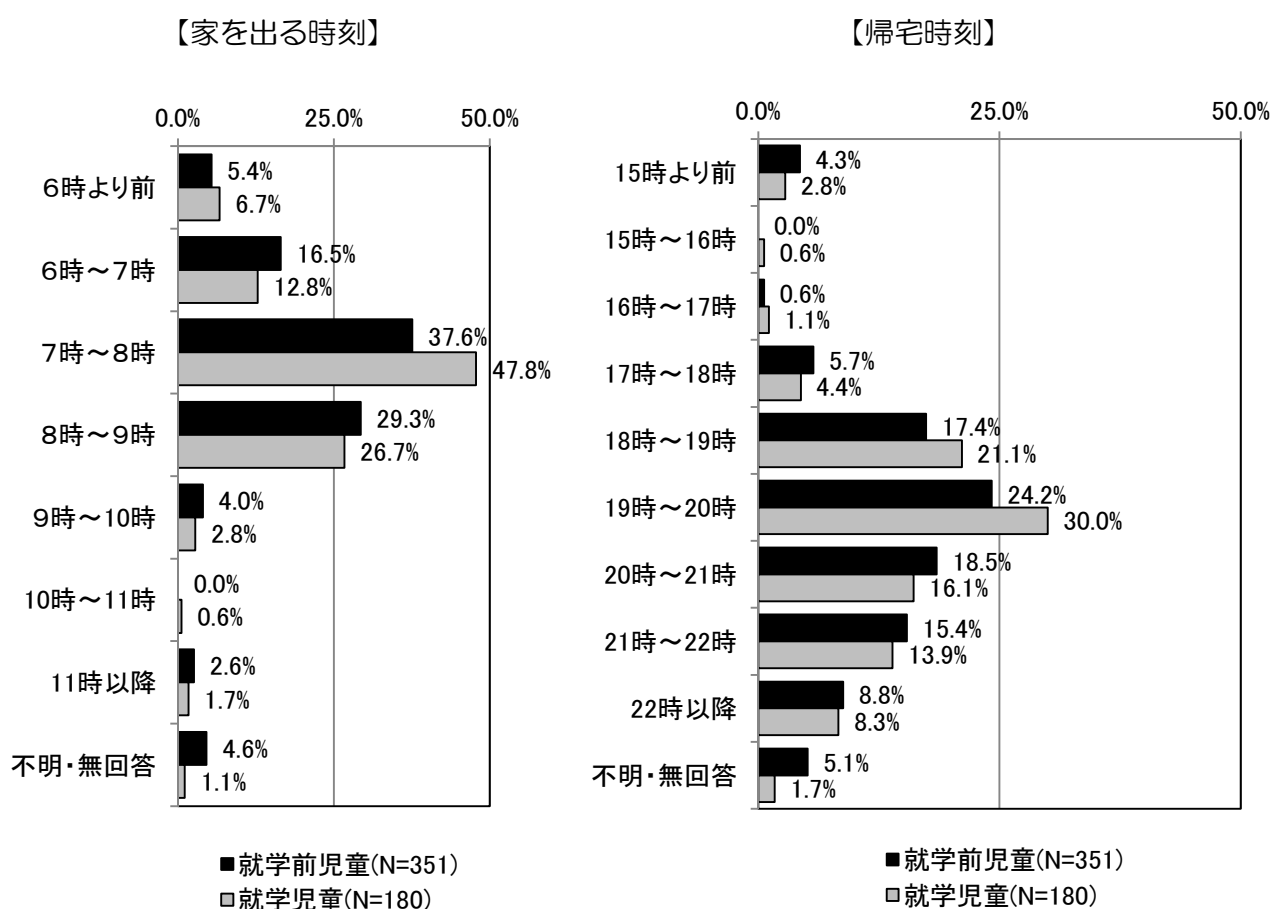
(17) で「就労している」(育休・介護休業中を含む)に○をつけた方のみ

(19) 父親が就労のため家を出る時刻と帰宅時刻について

【問 12(2)-2】 N

父親が就労のため家を出る時刻については、就学前児童、就学児童ともに「7時～8時」がそれぞれ 37.6%、47.8%ともっとも多く、次いで「8時～9時」がそれぞれ 29.3%、26.7%、「6時～7時」がそれぞれ 16.5%、12.8%となっています。

帰宅時刻については、就学前児童で「19 時～20 時」が 24.2%ともっとも多く、次いで「20 時～21 時」が 18.5%、「18 時～19 時」が 17.4%となっています。就学児童では「19 時～20 時」が 30.0%ともっとも多く、次いで「18 時～19 時」が 21.1%、「20 時～21 時」が 16.1%となっています。

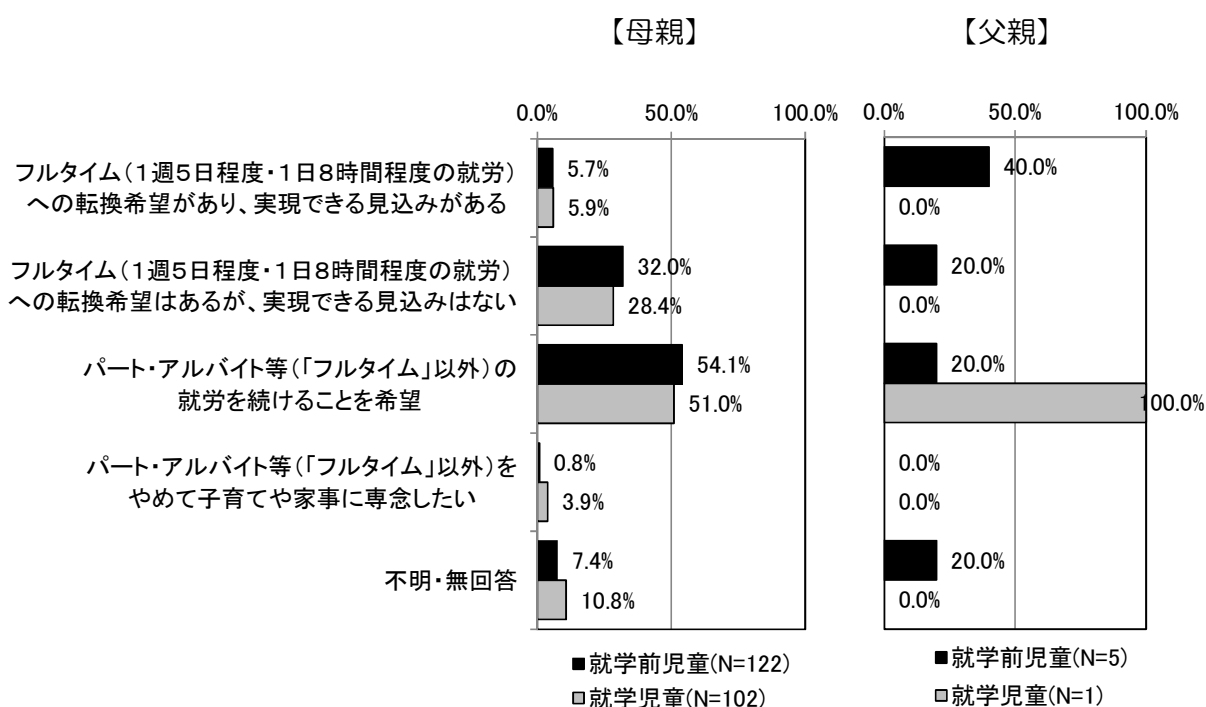


(14) または (17) で「パート・アルバイト等で就労している」に○をつけた方のみ
(20) フルタイムへの転換希望について

【問13】SA

フルタイムへの転換希望についてでは、母親では就学前児童、就学児童ともに「パート・アルバイト等(「フルタイム」以外)の就労を続けることを希望」がそれぞれ 54.1%、51.0%ともっとも多く、次いで「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)への転換希望はあるが、実現できる見込みはない」がそれぞれ 32.0%、28.4%、「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)への転換希望があり、実現できる見込みがある」がそれぞれ 5.7%、5.9%となっています。

父親では就学前児童で「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)への転換希望があり、実現できる見込みがある」が 40.0%ともっとも多くなっています。就学児童では「パート・アルバイト等(「フルタイム」以外)の就労を続けることを希望」に1名の回答がありました。



(14) または (17) で「以前は就労していたが、現在は就労していない」または「これまで就労したことがない」に○をつけた方のみ

(21) 就労希望について

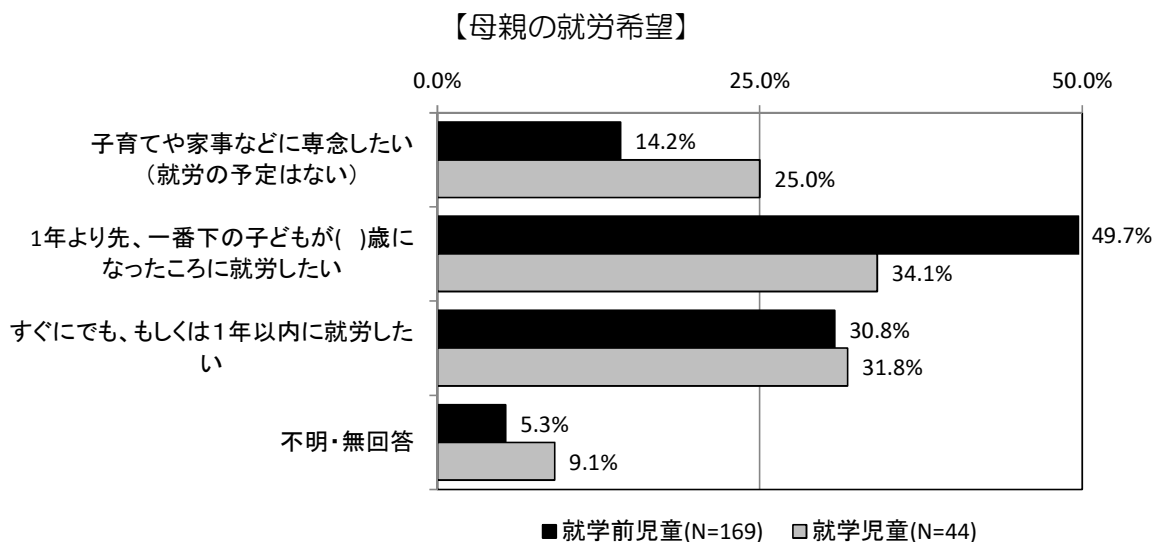
【問 14】 SA・N

母親の就労希望についてでは、就学前児童、就学児童ともに「1年より先、一番下の子どもが()歳になったところに就労したい」がそれぞれ 49.7%、34.1%ともっとも多く、その時の子どもの年齢では就学前児童で「3歳」がもっとも多くなっています。次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」がそれぞれ 30.8%、31.8%、「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」がそれぞれ 14.2%、25.0%となっています。

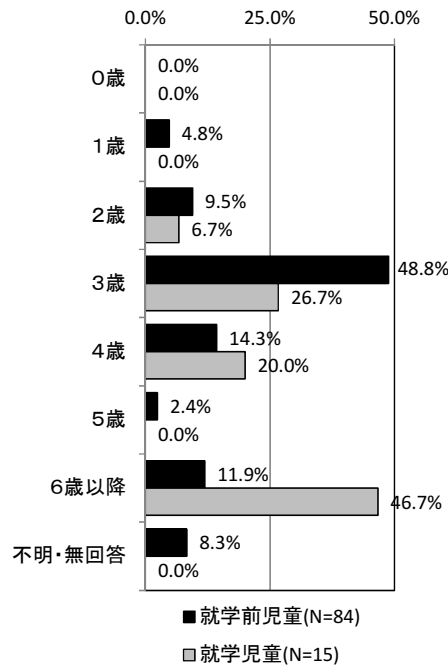
希望の就労形態としては就学前児童、就学児童ともに「パートタイム、アルバイト等」がそれぞれ 78.8%、85.7%ともっとも多く、次いで「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)」がそれぞれ 19.2%、14.3%となっています。

就労希望日数では、就学前児童で「5日」、就学児童で「3日」がもっとも多くなっており、就労希望時間では就学前児童で「5時間以上～6時間未満」、就学児童で「4時間以上～5時間未満」、「5時間以上～6時間未満」がともにもっとも多くなっています。

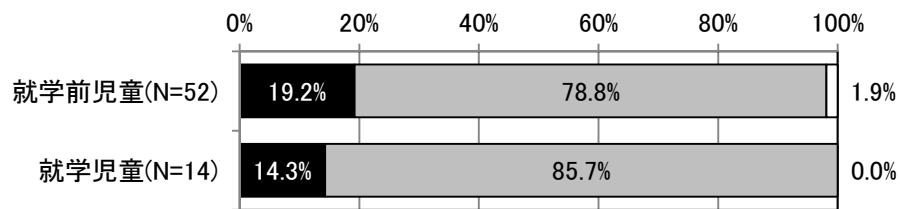
父親の就労希望についてでは、就学前児童で有効回答は得られませんでした。就学児童では1名の方が「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と答えられています。また、その際の就労形態としては「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)」を希望されており、日数、時間については回答が得られませんでした。



【母親が就労希望する子どもの年齢】

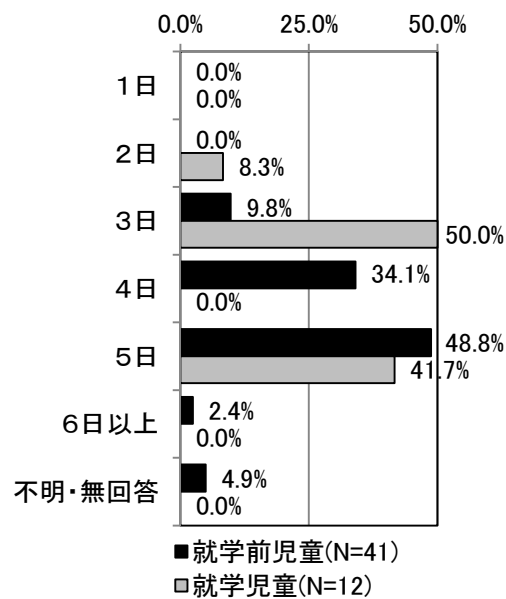


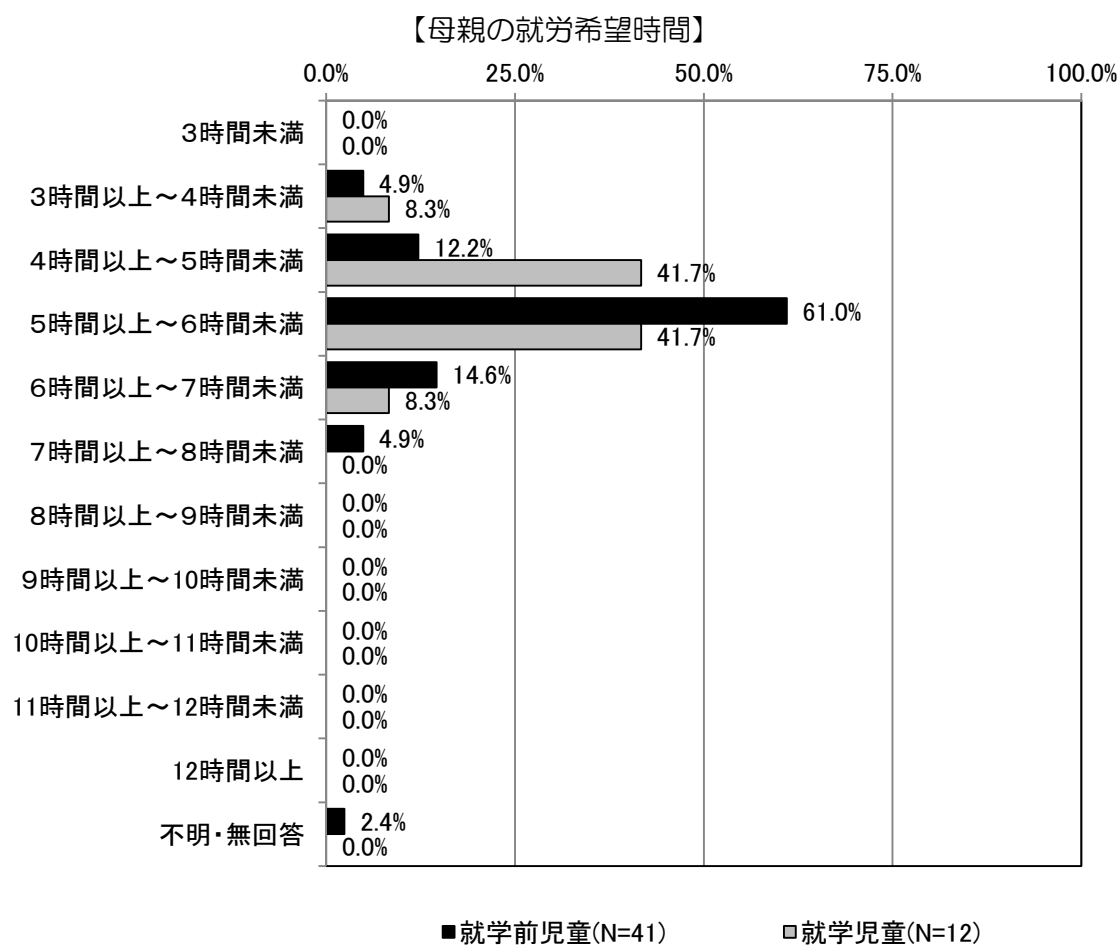
【母親の就労希望形態】



- フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)
- パートタイム、アルバイト等
- 不明・無回答

【母親の就労希望日数】



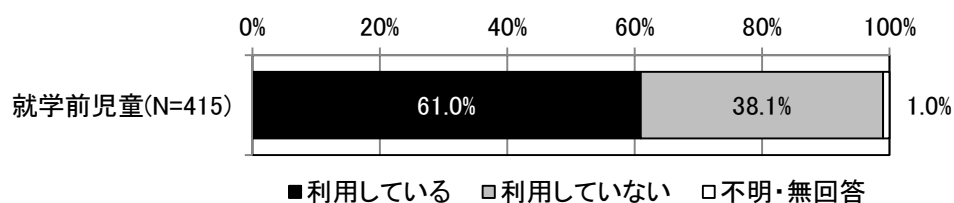


就学前児童のみ

(22) 幼稚園や保育所などの定期的な教育・保育事業の利用について

【問15】 SA

幼稚園や保育所などの定期的な教育・保育事業の利用については、「利用している」が 61.0%、「利用していない」が 38.1%となっています。

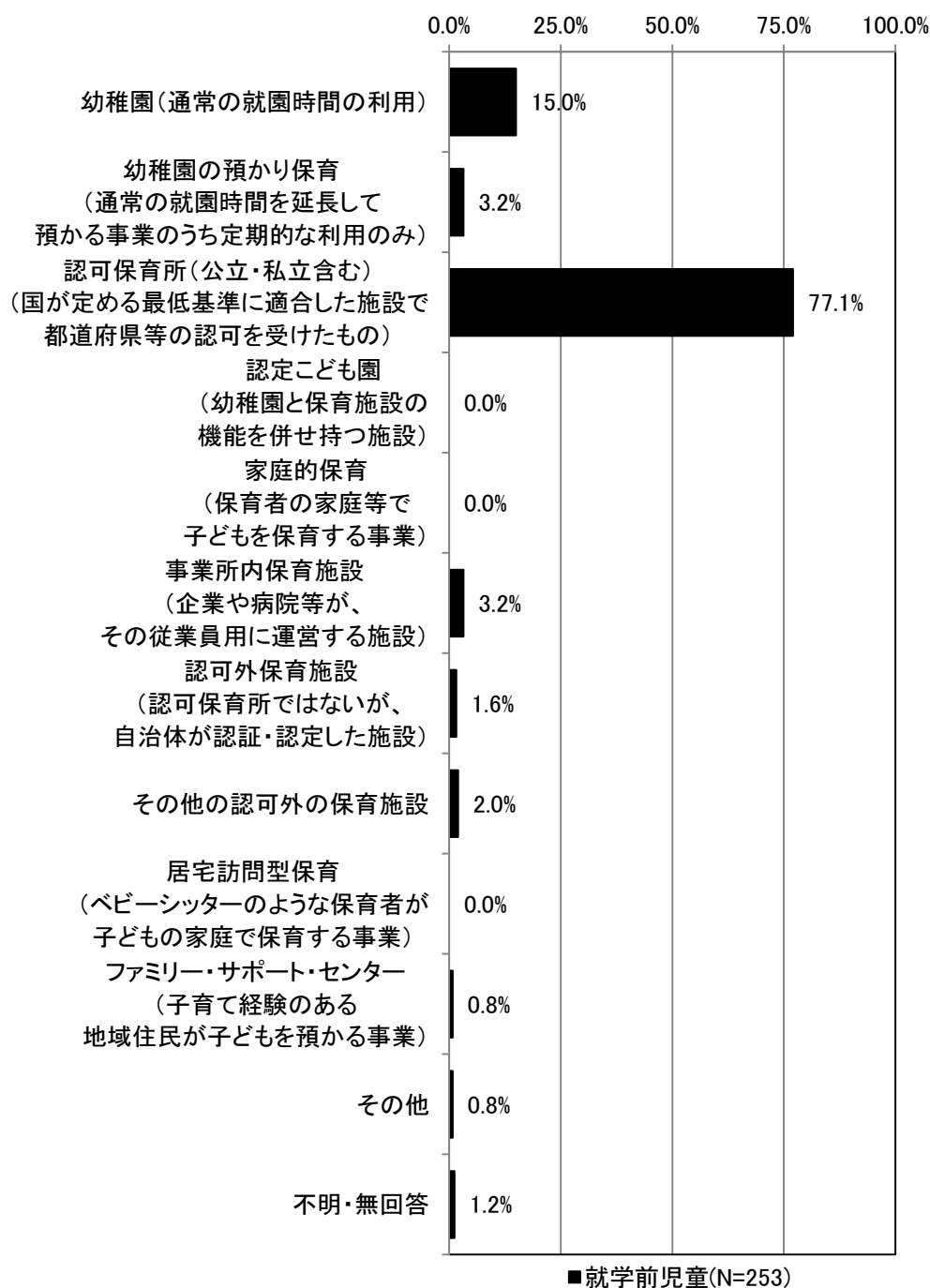


(22) で「利用している」に○をつけた方のみ

(23) 平日利用している教育・保育の事業について

【問 15-1】 MA

平日利用している教育・保育の事業については、「認可保育所(公立・私立含む)(国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの)」が 77.1%と最も多く、次いで「幼稚園(通常の就園時間の利用)」が 15.0%、「幼稚園の預かり保育(通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ)」、「事業所内保育施設(企業や病院等が、その従業員用に運営する施設)」がともに 3.2%となっています。



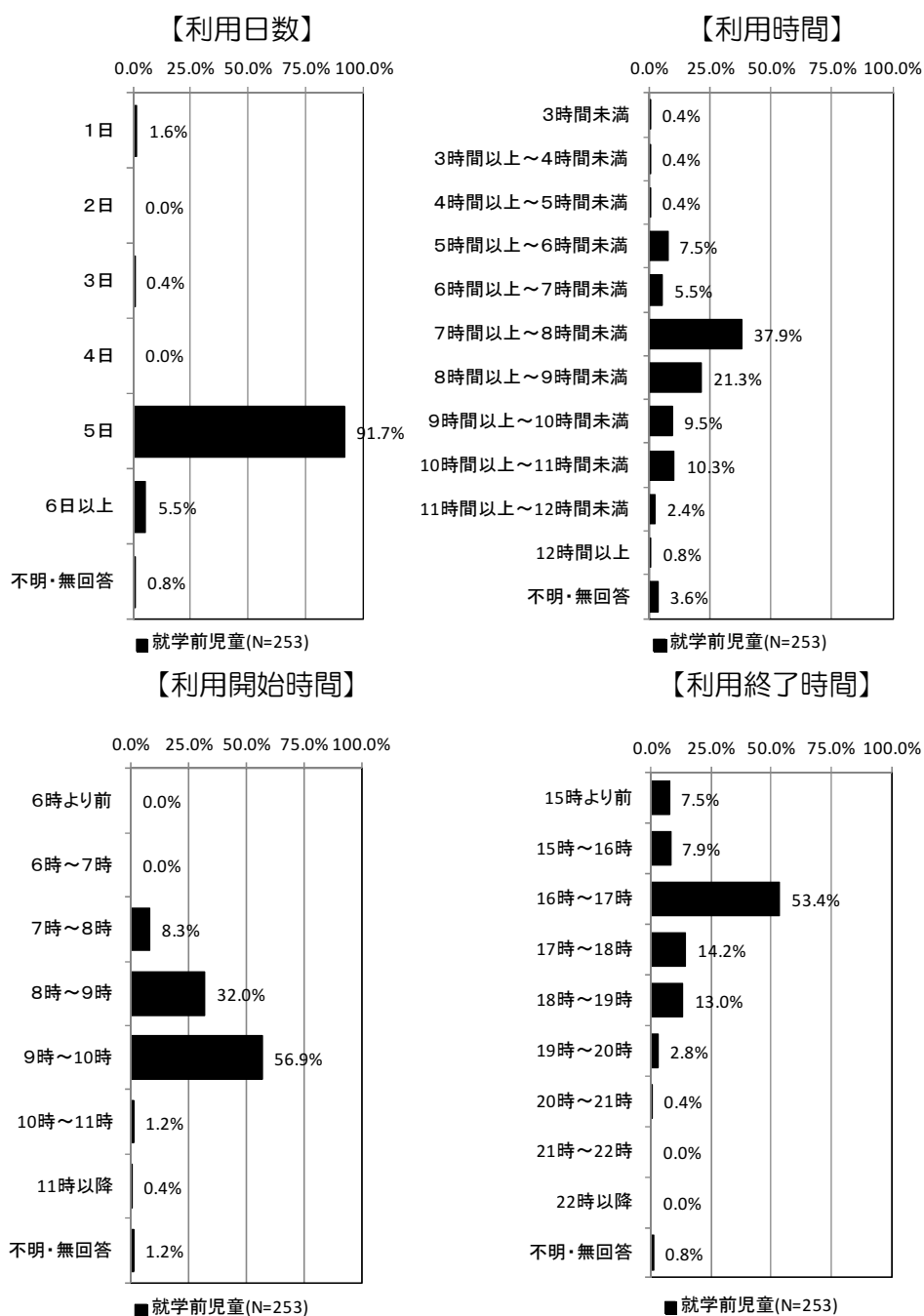
(22) で「利用している」に○をつけた方のみ

(24) 平日に定期的に利用している教育・保育の事業の利用頻度と利用希望について

【問 15-2】 N

平日に定期的に利用している教育・保育の事業の利用頻度について、利用日数では、「5日」が91.7%と最も多く、利用時間では「7時間以上～8時間未満」が37.9%、利用開始時間では「9時～10時」が56.9%、利用終了時間では「16時～17時」が53.4%と最も多くなっています。

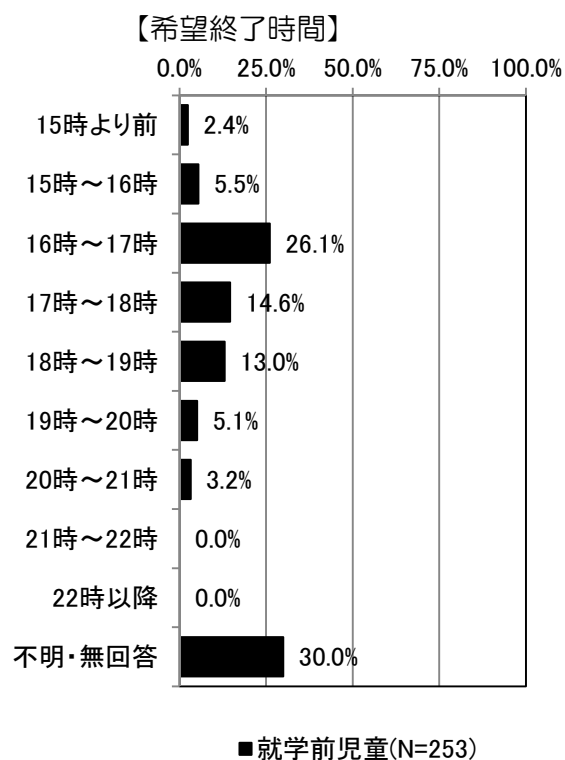
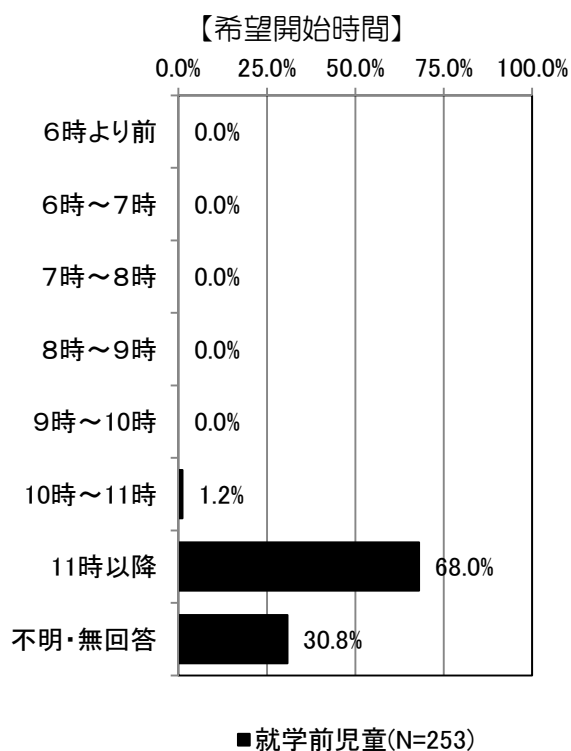
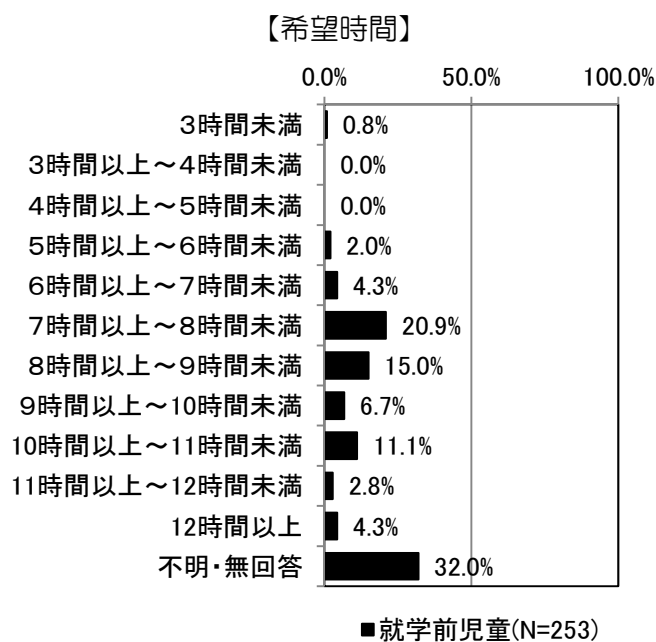
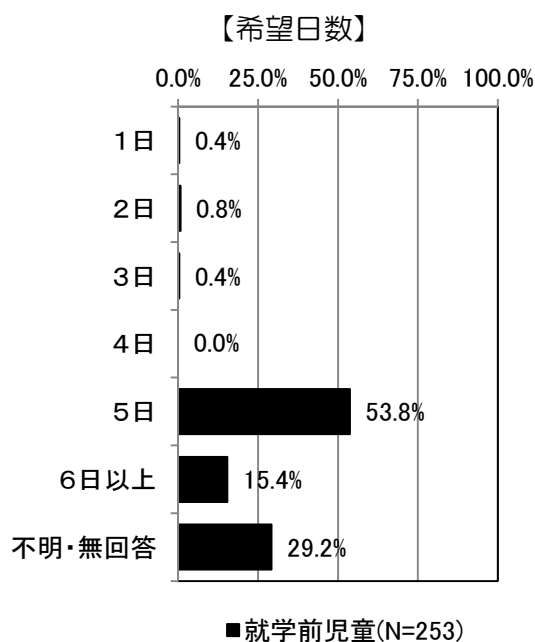
【平日の利用頻度】



平日に定期的にご利用している教育・保育の事業の利用希望について、希望日数では、「5日」が53.8%と最も多く、希望時間では「7時間以上～8時間未満」が20.9%、希望開始時間では「11時以降」が68.0%、希望終了時間では「16時～17時」が26.1%と最も多くなっています。

不明・無回答が多くなっているのは、現在の利用状況と希望が変わらなかった場合、省略した可能性があると考えられます。

【平日の利用希望】

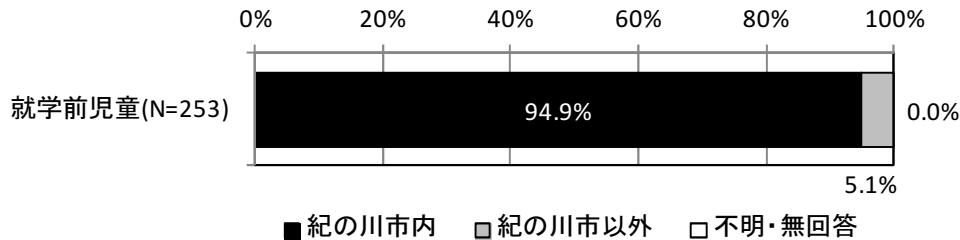


(22) で「利用している」に○をつけた方のみ

(25) 現在、利用している教育・保育事業の実施場所について

【問 15-3】 SA

現在、利用している教育・保育事業の実施場所については、「紀の川市内」が 94.9%、「紀の川市以外」が 5.1%となっています。

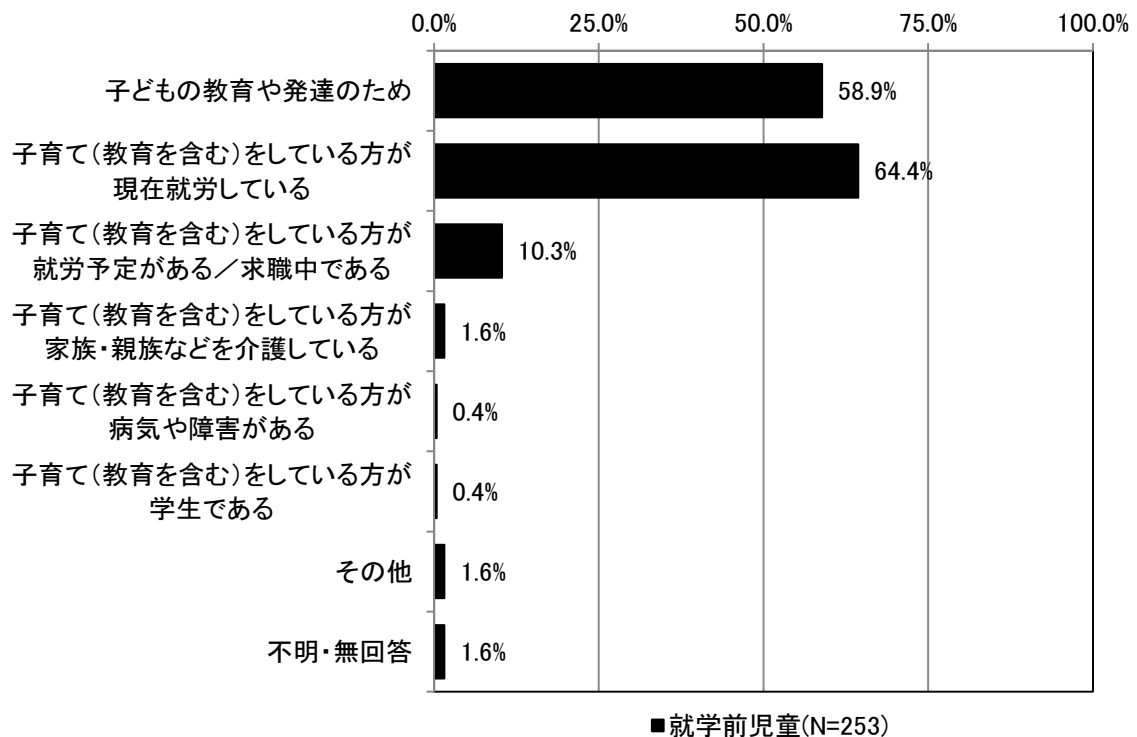


(22) で「利用している」に○をつけた方のみ

(26) 平日の定期的な教育・保育事業の利用理由について

【問 15-4】 MA

平日の定期的な教育・保育事業の利用理由については、「子育て(教育を含む)をしている方が現在就労している」が 64.4%と最も多く、次いで「子どもの教育や発達のため」が 58.9%、「子育て(教育を含む)をしている方が就労予定がある／求職中である」が 10.3%となっています。



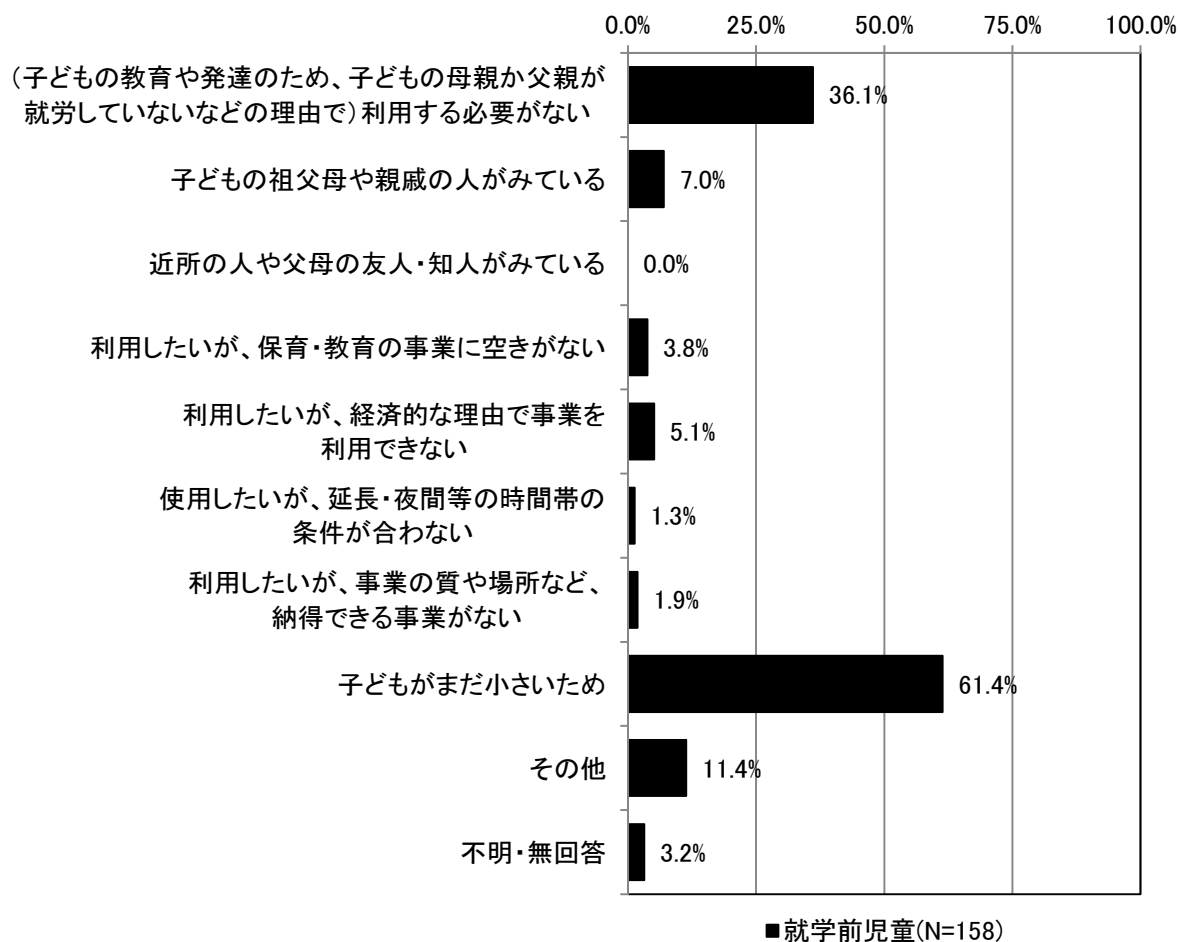
(22) で「利用していない」に○をつけた方のみ

(27) 平日の定期的な教育・保育事業を利用していない理由について

【問 15-5】 MA

平日の定期的な教育・保育事業を利用していない理由については、「子どもがまだ小さいため」が 61.4%と最も多く、次いで「(子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で)利用する必要がない」が 36.1%、「その他」が 11.4%となっています。

その他の回答では、「4月から保育園に入所予定」というご意見が多く見られました。

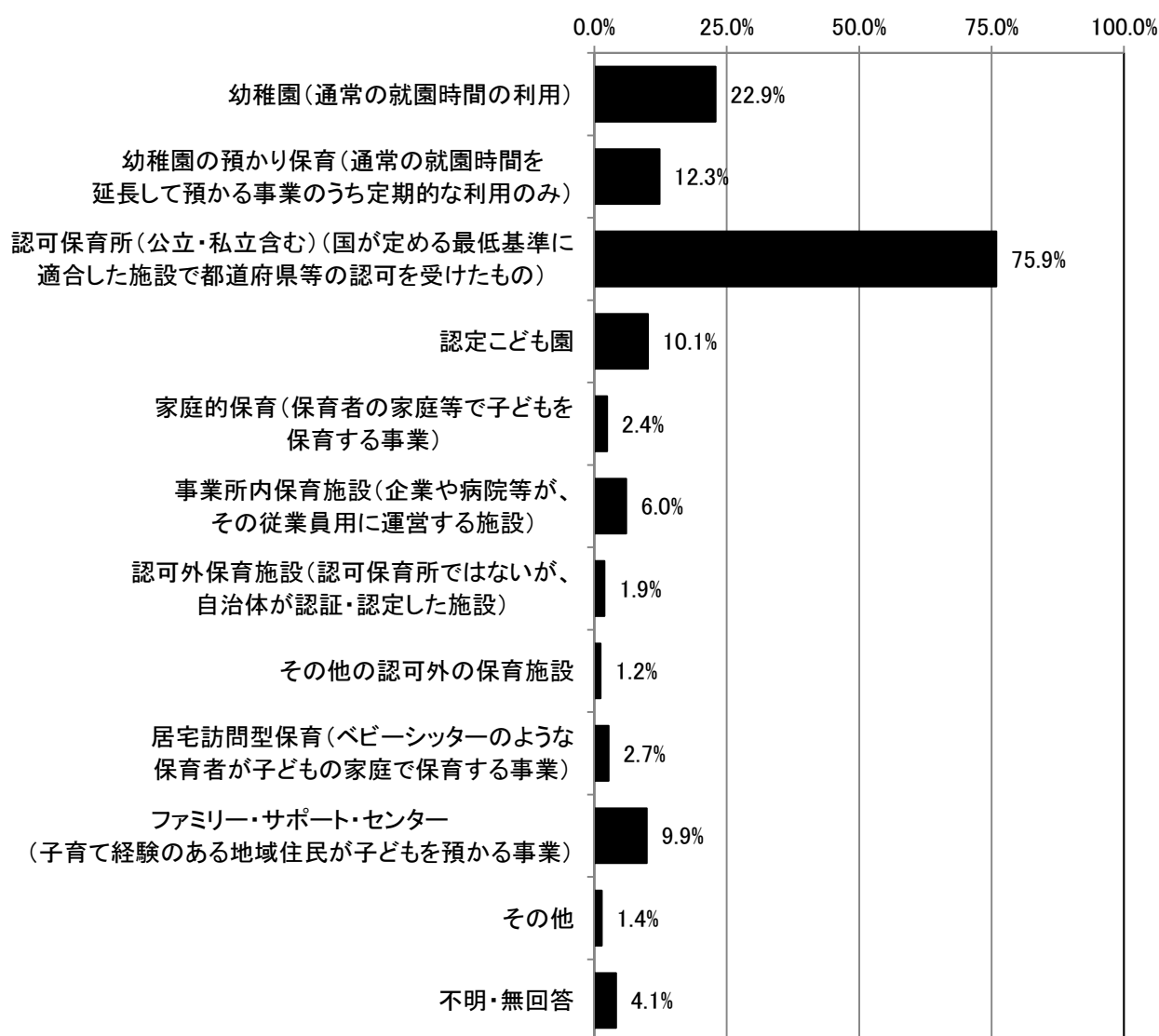


就学前児童のみ

(28) 平日の教育・保育の事業として、定期的に利用したいと考える事業について

【問 16】 MA

平日の教育・保育の事業として、定期的に利用したいと考える事業については、「認可保育所(公立・私立含む)(国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの)」が 75.9%と最も多く、次いで「幼稚園(通常の就園時間の利用)」が 22.9%、「幼稚園の預かり保育(通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ)」が 12.3%となっています。

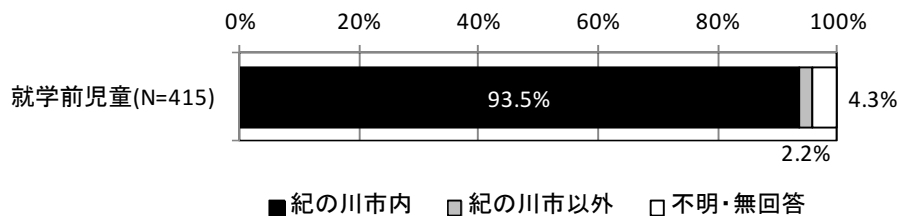


■就学前児童(N=415)

(29) 教育・保育事業を利用したい場所について

【問 16-1】 SA

教育・保育事業を利用したい場所については、「紀の川市内」が93.5%、「紀の川市以外」が2.2%となっており、和歌山市、岩出市、紀美野町、かつらぎ町が挙げられています。

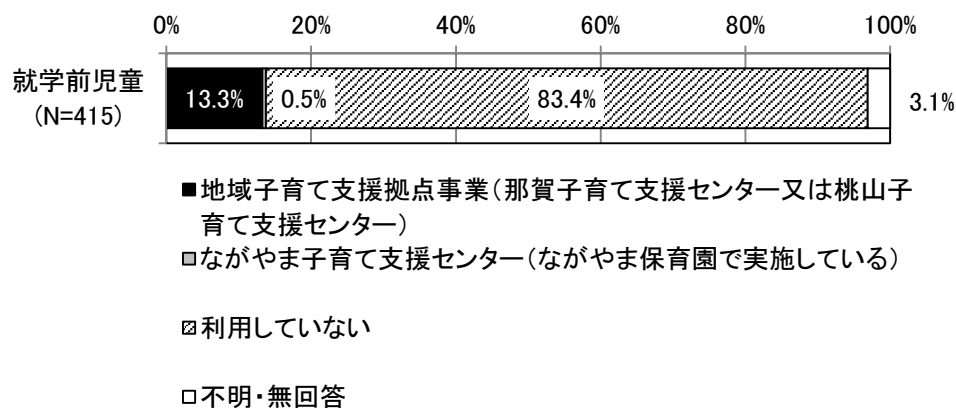


(30) 現在の地域子育て支援拠点事業の利用について

【問 17】 MA・N

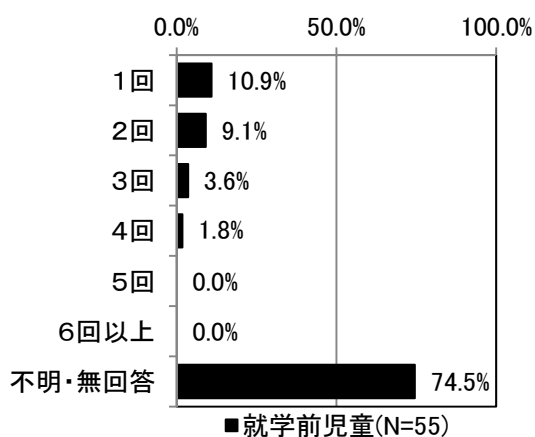
現在の地域子育て支援拠点事業の利用については、「利用していない」が83.4%と最も多く、次いで「地域子育て支援拠点事業（那賀子育て支援センター又は桃山子育て支援センター）」が13.3%となっています。

また、「地域子育て支援拠点事業」の週当たりの利用回数は「1回」が、月当たりでは「1～2回」が最も多くなっており、「ながやま子育て支援センター」では有効な回答が得られませんでした。

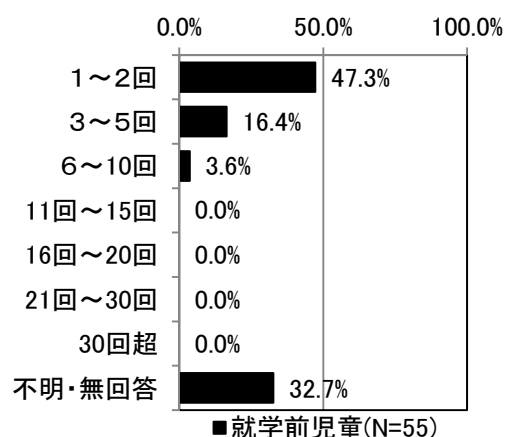


【地域子育て支援拠点事業】

【週当たりの利用回数】



【月当たりの利用回数】

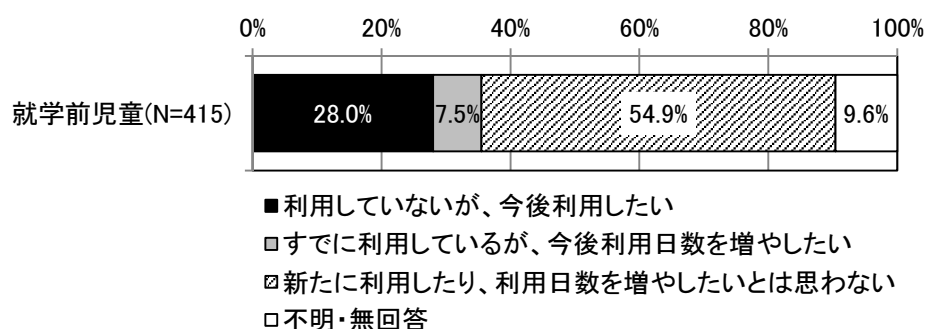


(31) 地域子育て支援拠点事業の利用意向について

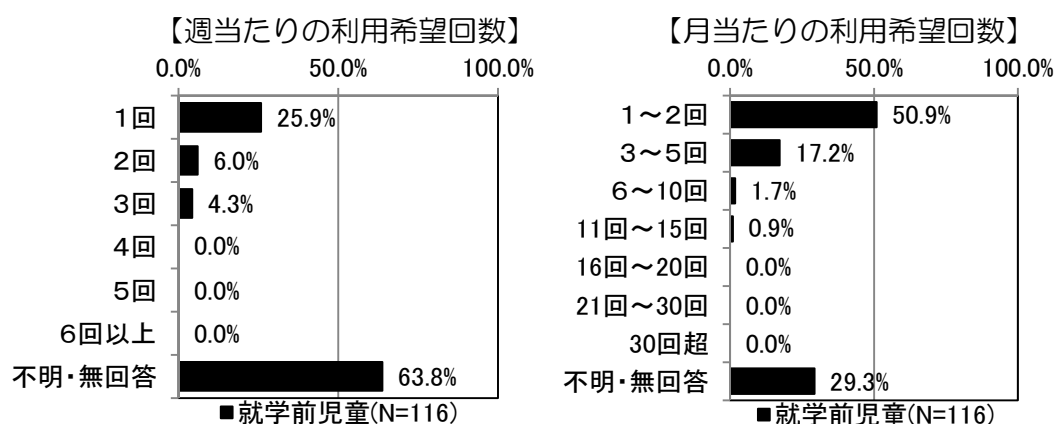
【問 18】 SA・N

地域子育て支援拠点事業の利用意向については、「新たに利用したり、利用日数を増やしたい」とは思わない」が 54.9%と最も多く、次いで「利用していないが、今後利用したい」が 28.0%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が 7.5%となっています。

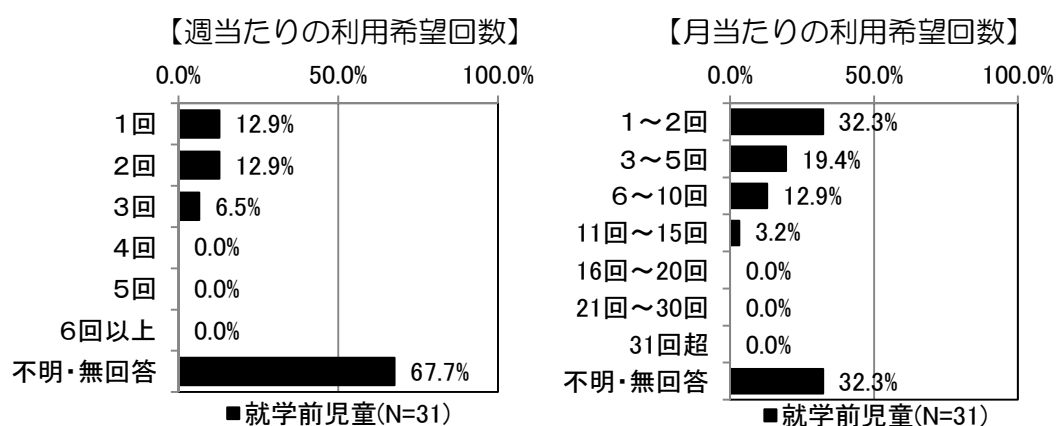
「利用していないが、今後利用したい」では、週当たりの利用希望回数は「1回」、月当たりの利用希望回数は「1～2回」が最も多く、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」では、週当たりの利用希望回数は「1回」、「2回」がともに、月当たりの利用希望回数は「1～2回」が最も多くなっています。



【利用していないが、今後利用したい】



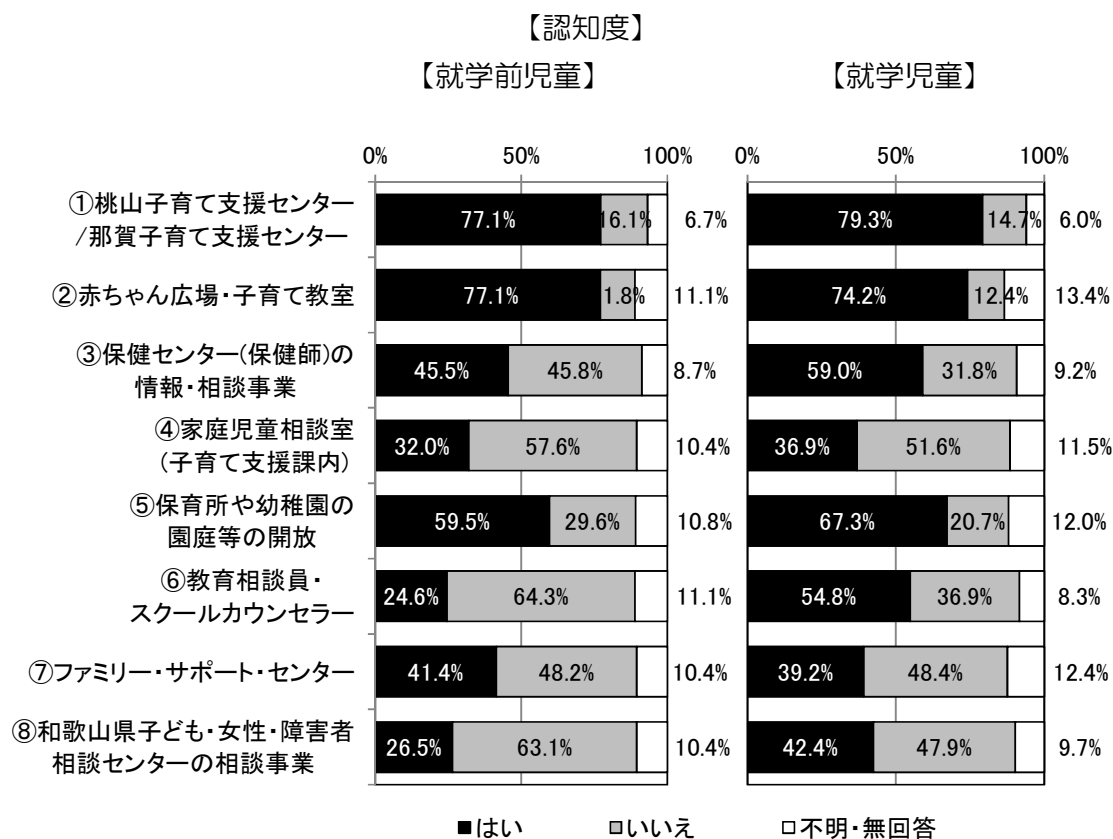
【すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい】



(32) 子育て支援事業の認知度、利用度、利用意向度について

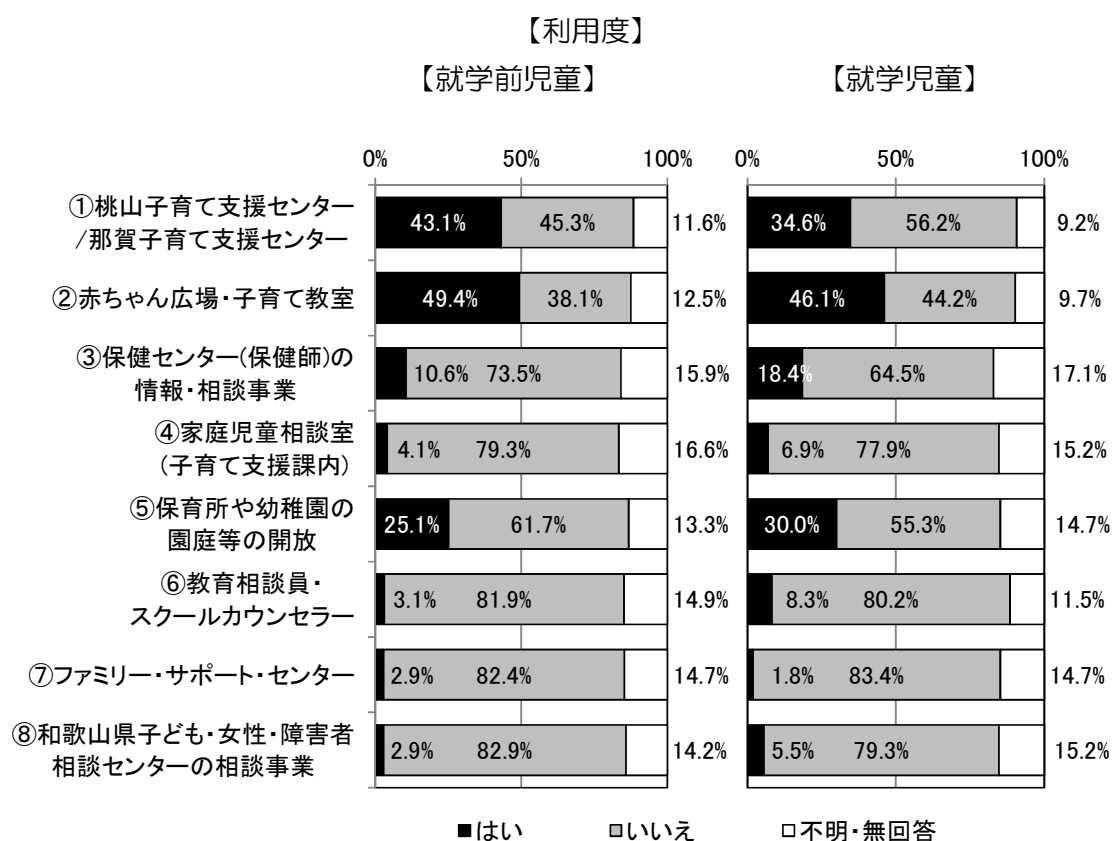
【問 19】 SA

子育て支援事業の認知度についてでは、就学前児童、就学児童ともに同じような傾向を示していますが、「⑥教育相談員・スクールカウンセラー」については就学前児童の認知度が、就学児童の約半分となっています。また、「②赤ちゃん広場・子育て教室」、「⑦ファミリー・サポート・センター」ではそのほかは就学児童の認知度が高いのに比べて就学前児童の認知度が高くなっています。

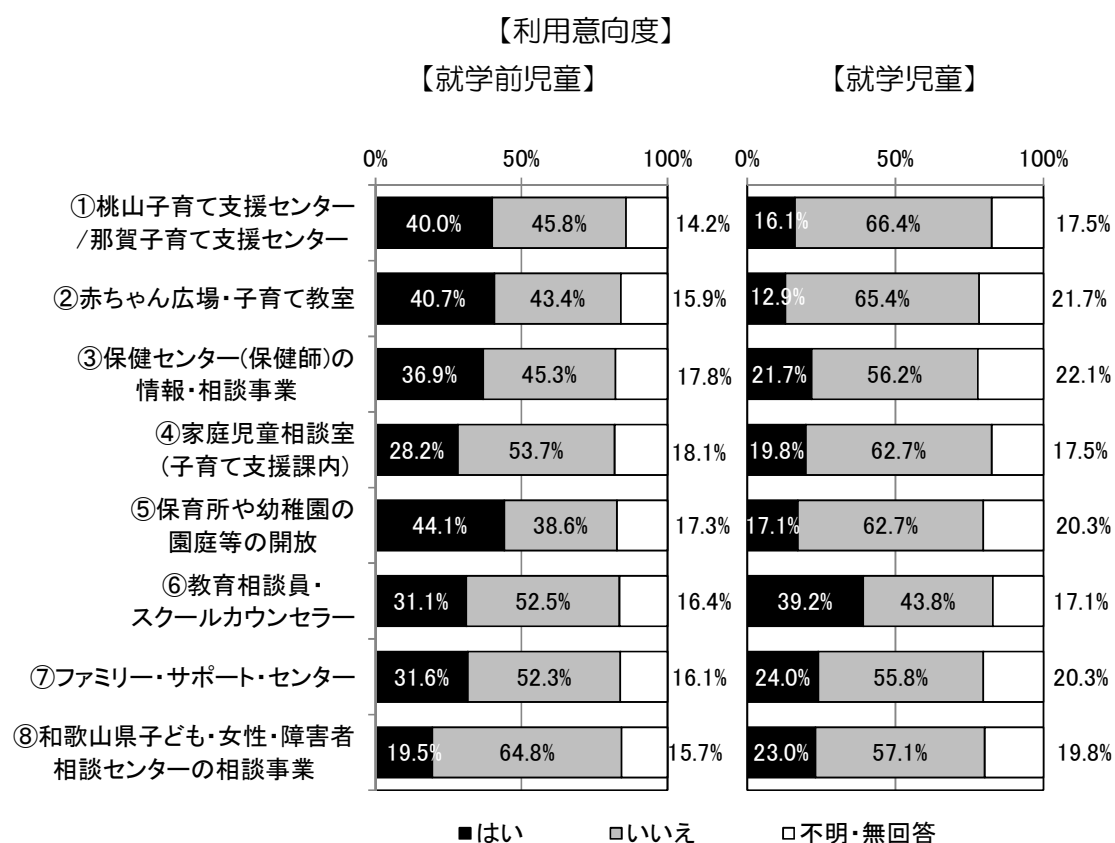


【問 19】 SA

子育て支援事業の利用度についてでは、就学前児童、就学児童ともに同じような傾向を示していますが、認知度に比べ利用度は低い傾向が見られます。また、「①桃山子育て支援センター/那賀子育て支援センター」、「②赤ちゃん広場・子育て教室」では就学前児童の利用度が若干高く、「③保健センター(保健師)の情報・相談事業」、「⑤保育所や幼稚園の園庭等の開放」では就学児童の利用度が高くなっています。



子育て支援事業の利用意向度については、全体的に就学前児童の利用意向度が高くなっていますが、「⑥教育相談員・スクールカウンセラー」、「⑧和歌山県子ども・女性・障害者相談センターの相談事業」では就学児童の利用意向度の方が高くなっています。

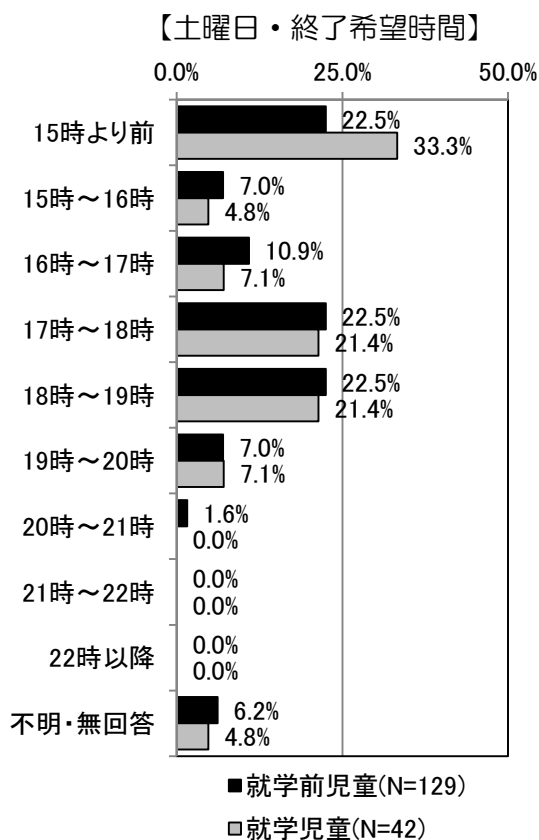
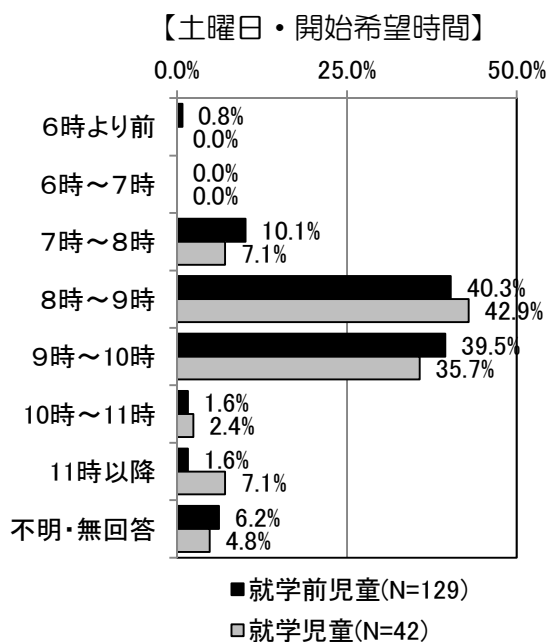
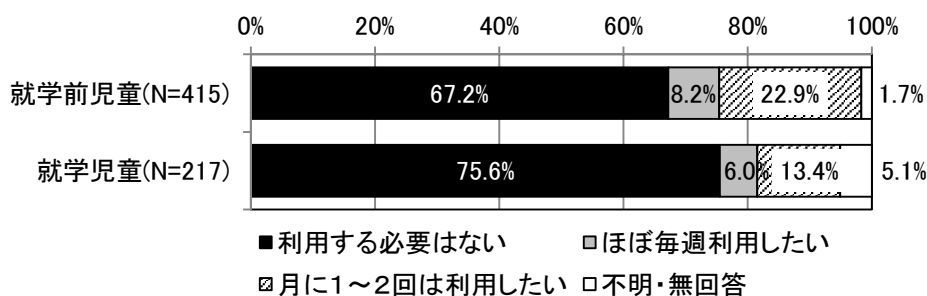


(33) 土曜日と日曜日・祝日における定期的な教育・保育事業の利用希望について

【問 20】 SA・N

土曜日における定期的な教育・保育事業の利用希望については、就学前児童、就学児童で同様の傾向を示しており、「利用する必要はない」がそれぞれ 67.2%、75.6%ともっとも多く、次いで「月に1～2回は利用したい」がそれぞれ 22.9%、13.4%となっています。

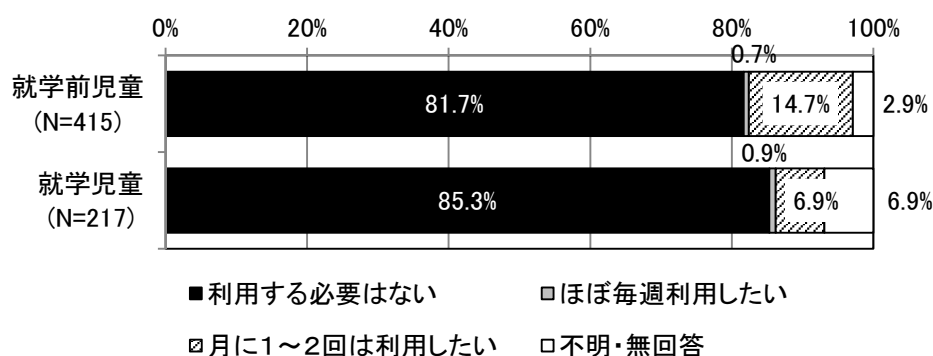
また、開始希望時間は就学前児童、就学児童ともに「8時～9時」がもっとも多くなっており、終了希望時間は就学前児童で「15時より前」、就学児童で「15時～16時」がもっとも多くなっていきます。



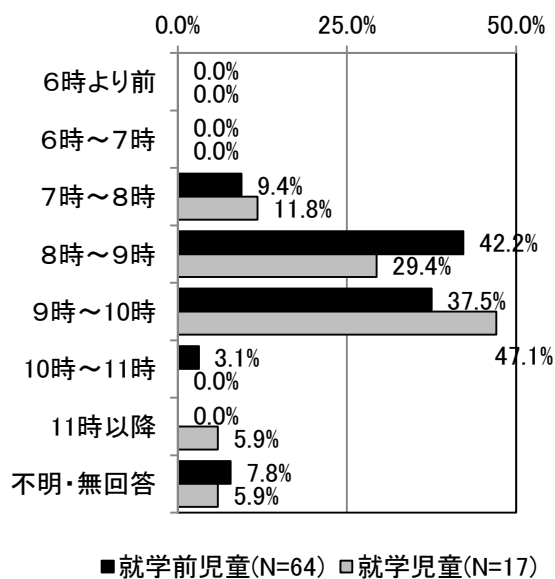
【問 20】 SA・N

日曜日・祝日における定期的な教育・保育事業の利用希望についてでは、就学前児童、就学児童で同様の傾向を示しており、「利用する必要はない」がそれぞれ 81.7%、85.3%ともっとも多く、次いで「月に1～2回は利用したい」がそれぞれ 14.7%、6.9%となっています。

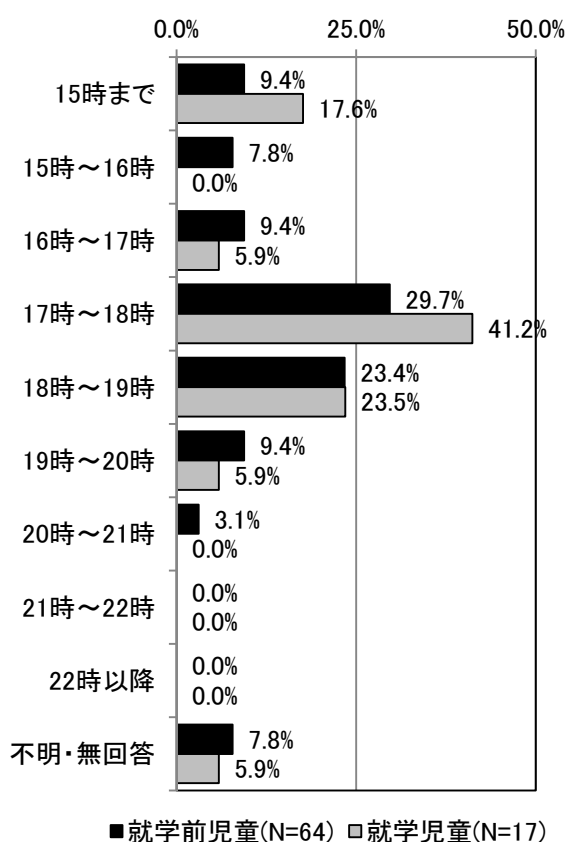
また、開始希望時間は就学前児童で「8時～9時」、就学児童で「9時～10時」がもっとも多くなっており、終了希望時間は就学前児童、就学児童ともに「17時～18時」がもっとも多くなっています。



【日曜日・祝日・開始希望時間】



【日曜日・祝日・終了希望時間】



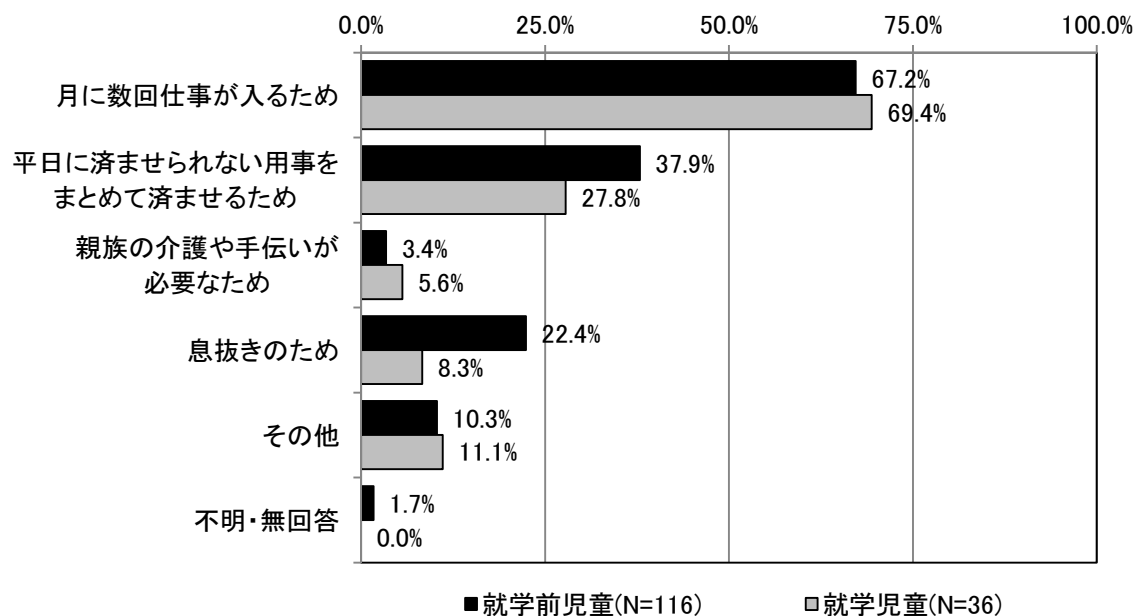
(33) の土曜日もしくは日曜日・祝日で、「月に1～2回は利用したい」に○をつけた方のみ

(34) 毎週ではなく、たまに利用したい理由について

【問 20-1】 MA

毎週ではなく、たまに利用したい理由についてでは、就学前児童、就学児童ともに「月に数回仕事が入るため」がそれぞれ67.2%、69.4%ともっとも多く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」がそれぞれ37.9%、27.8%となっています。

その他では「土曜日、父母とも働いているので」などの意見がありました。



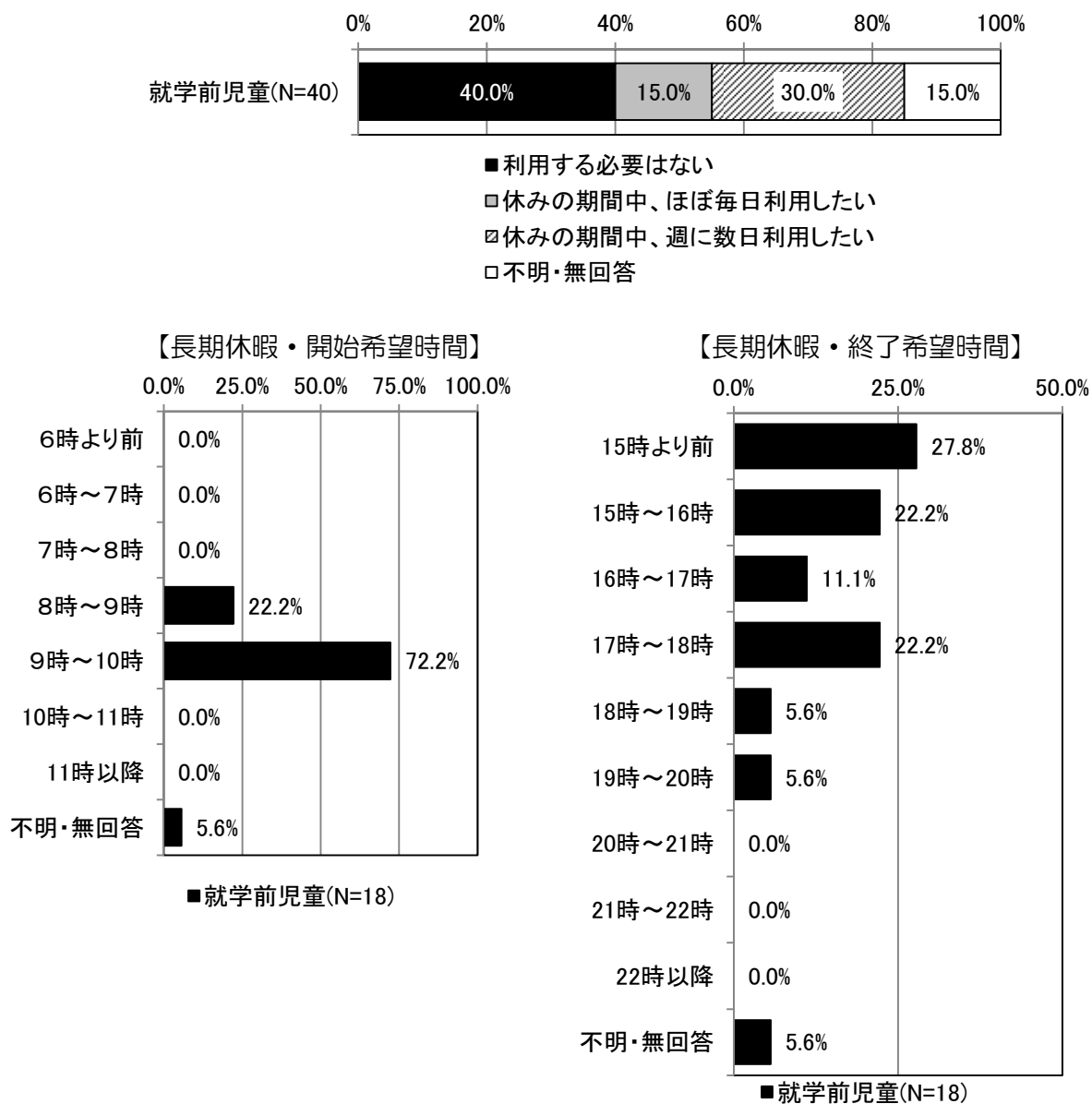
「幼稚園」を利用されている方のみ

(35) 長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用希望について

【問 21】 SA・N

長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用希望については、「利用する必要はない」が 40.0% ともっとも多く、次いで「休みの期間中、週に数日利用したい」が 30.0%、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が 15.0%となっています。

また、開始希望時間は「9時～10 時」、終了希望時間は「15 時より前」がもっとも多くなっています。



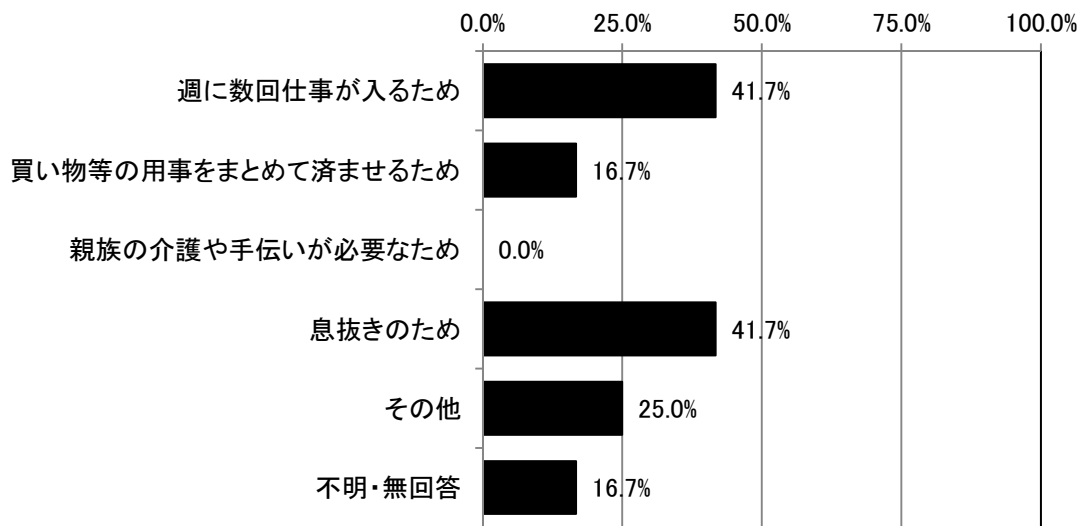
(35) で、「休みの期間中、週に数日利用したい」に○をつけた方のみ

(36) 毎日ではなく、たまに利用したい理由について

【問 21-1】 MA

毎日ではなく、たまに利用したい理由についてでは、「週に数回仕事が入るため」、「息抜きのため」がともに 41.7%と最も多く、次いで「その他」が 25.0%となっています。

その他の回答では「仕事がしやすくなる」、「他の子どもと遊ぶため」などの意見がありました。



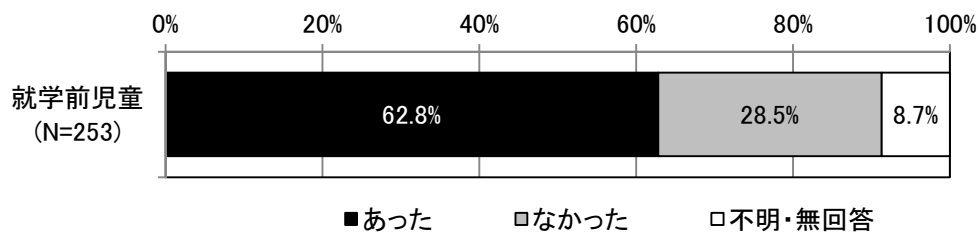
■就学前児童(N=12)

(22) で「利用している」に○をつけた方のみ

(37) この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことについて

【問 22】 SA

この1年間に、子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことについてでは、「あった」が 62.8%、「なかった」が 28.5%となっています。



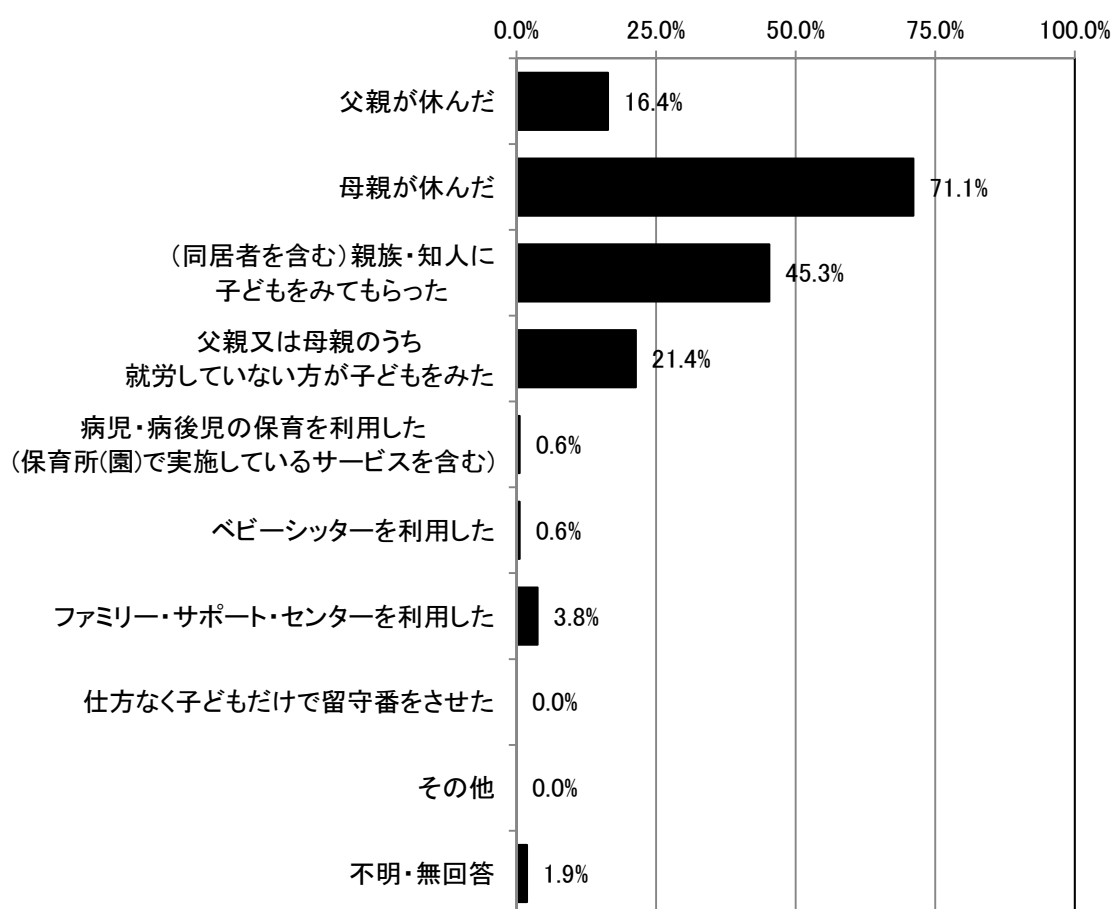
■あった □なかった □不明・無回答

(38) 病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合の対処方法について

【問 22-1】 MA・N

病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合の対処方法については、「母親が休んだ」が 71.1%と最も多く、次いで「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」が 45.3%、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」が 21.4%となっています。

また、それらで対処した日数は「1～2日」、「3～5日」が全体的に多いものの、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」では、「6～10日」がもっとも多くなっています。



■就学前児童(N=159)

【対処した日数】

	父親が休んだ		母親が休んだ		(同居者を含む) 親族・知人に子どもを みてもらった	
	就学前児童		就学前児童		就学前児童	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1～2日	11	42.3	23	20.4	21	29.2
3～5日	4	15.4	40	35.4	26	36.1
6～10日	6	23.1	24	21.2	10	13.9
11～20日	0	0.0	10	8.8	8	11.1
21～30日	0	0.0	3	2.7	0	0.0
31日以上	1	3.8	2	1.8	0	0.0
不明・無回答	4	15.4	11	9.7	7	9.7
サンプル数(%ベース)	26	100.0	113	100.0	72	100.0

	父親又は母親の うち就労していない 方が子どもをみた		病児・病後児の保育 を利用した(保育所 (園)で実施している サービスを含む)		ベビーシッターを利用 した	
	就学前児童		就学前児童		就学前児童	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1～2日	5	14.7	0	0.0	1	100.0
3～5日	9	26.5	1	100.0	0	0.0
6～10日	11	32.4	0	0.0	0	0.0
11～20日	4	11.8	0	0.0	0	0.0
21～30日	1	2.9	0	0.0	0	0.0
31日以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	4	11.8	0	0.0	0	0.0
サンプル数(%ベース)	34	100.0	1	100.0	1	100.0

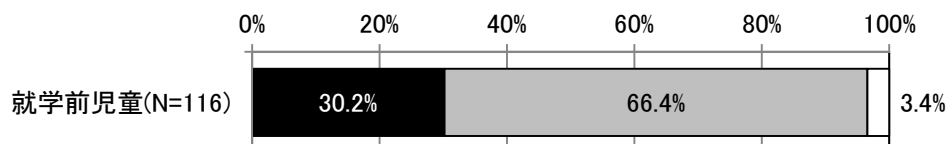
	ファミリー・サポート・ センターを利用した		仕方なく子供だけで 留守番させた		その他	
	就学前児童		就学前児童		就学前児童	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1～2日	4	66.7	0	0.0	0	0.0
3～5日	1	16.7	0	0.0	0	0.0
6～10日	0	0.0	0	0.0	0	0.0
11～20日	0	0.0	0	0.0	0	0.0
21～30日	0	0.0	0	0.0	0	0.0
31日以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	1	16.7	0	0.0	0	0.0
サンプル数(%ベース)	6	100.0	0	0.0	0	0.0

(38) で「父親が休んだ」「母親が休んだ」のいずれかに○をつけた方のみ

(39) できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思っ
たかについて

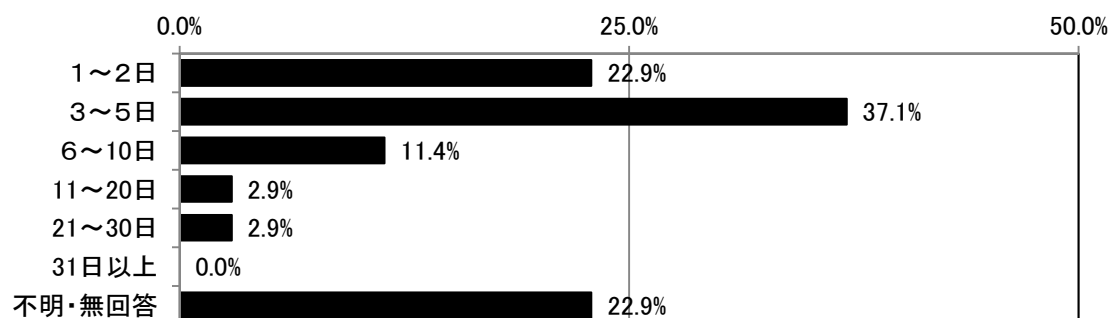
【問 22-2】 SA

できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思ったかについてでは、「できれば病児・
病後児保育施設等を利用したい」が 30.2%、「利用したいとは思わない」が 66.4%となっています。



- できれば病児・病後児保育施設等を利用したい
- 利用したいとは思わない
- 不明・無回答

また、できれば利用したい方の利用希望日数については「3～5日」がもっとも多くなっています。

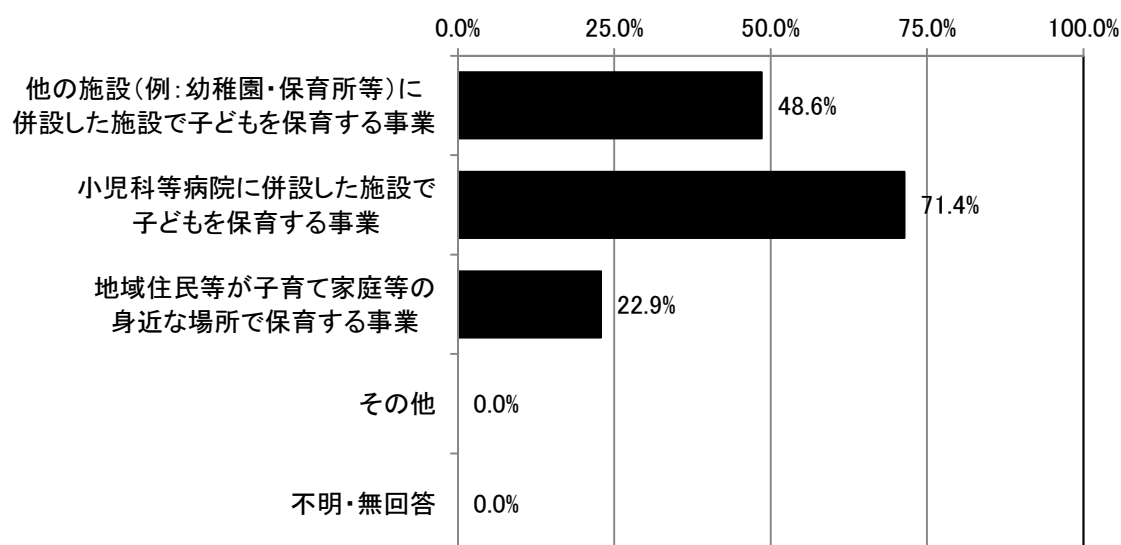


■就学前児童(N=35)

(39) で「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」に○をつけた方のみ

(40) 病児・病後児の子どもを預ける場合希望する事業形態について

病児・病後児の子どもを預ける場合希望する事業形態については、「小児科等病院に併設した施設で子どもを保育する事業」が 71.4%と最も多く、次いで「他の施設(例:幼稚園・保育所等)に併設した施設で子どもを保育する事業」が 48.6%、「地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業」が 22.9%となっています。



■就学前児童(N=35)

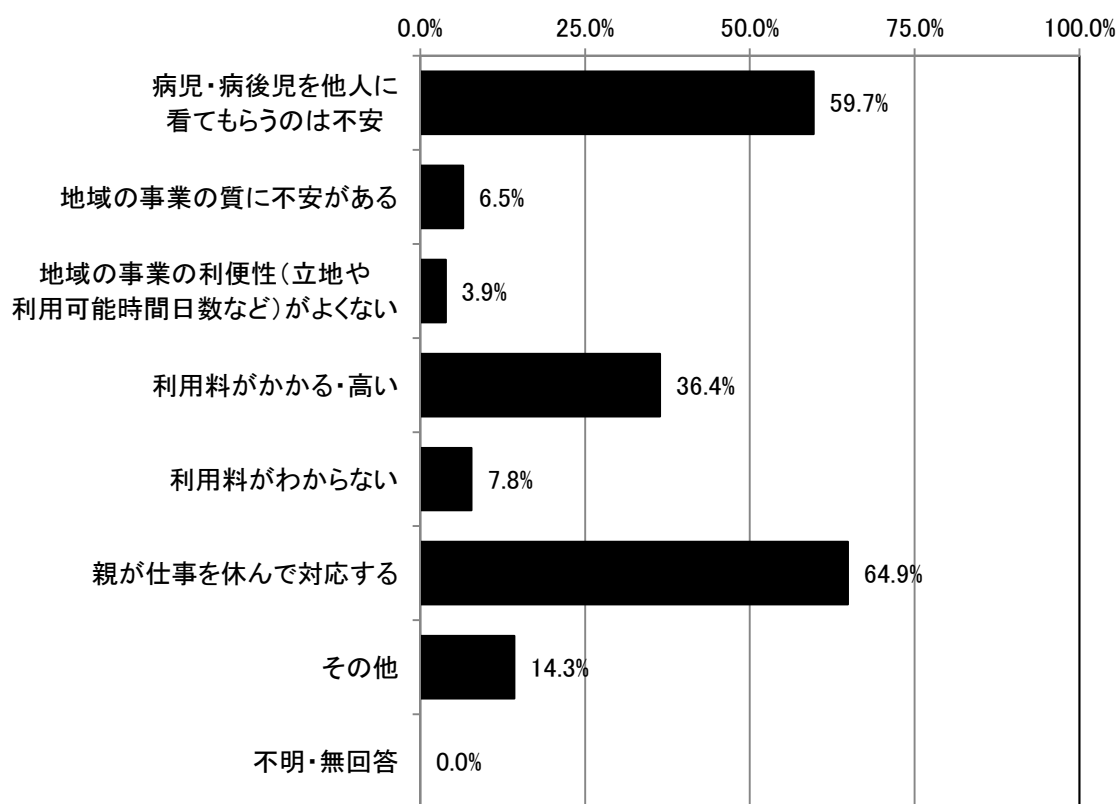
(39) で「利用したいとは思わない」に○をつけた方のみ

(41) 利用したいとは思わない理由について

【問 22-4】 MA

利用したいとは思わない理由についてでは、「親が仕事を休んで対応する」が 64.9%ともっとも多く、次いで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が 59.7%、「利用料がかかる・高い」が 36.4%となっています。

その他の回答では「子どもがかわいそう、不安がる」、「親族にみてもらえる」などの意見がありました。



■就学前児童(N=77)

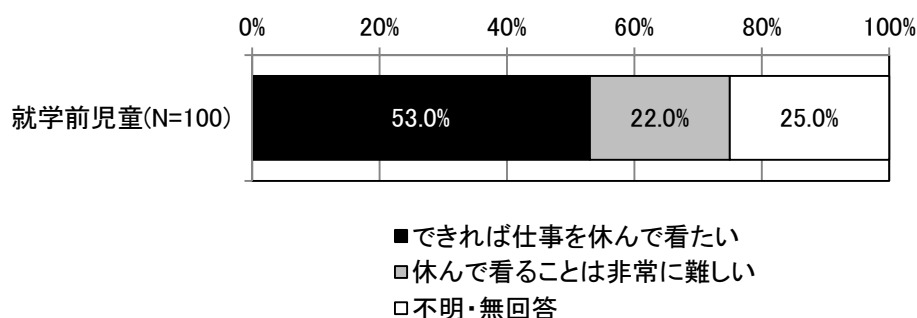
(38)で「父親が休んだ」「母親が休んだ」以外に○をつけた方のみ

(42) 病児・病後児を他人に預けた際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思われましたか

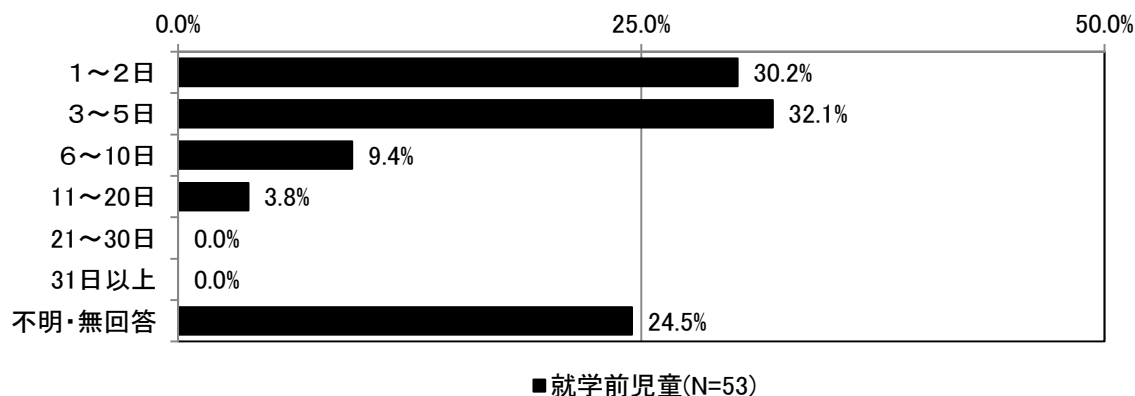
【問 22-5】 SA・N

病児・病後児を他人に預けた際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思われましたかについてでは、「できれば仕事を休んで看たい」が 53.0%、「休んで看することは非常に難しい」が 22.0%となっています。

また、「できれば仕事を休んで看たい」と答えた方の日数では、「3～5日」がもっとも多くなっています。



【できれば仕事を休んで看たい日数】



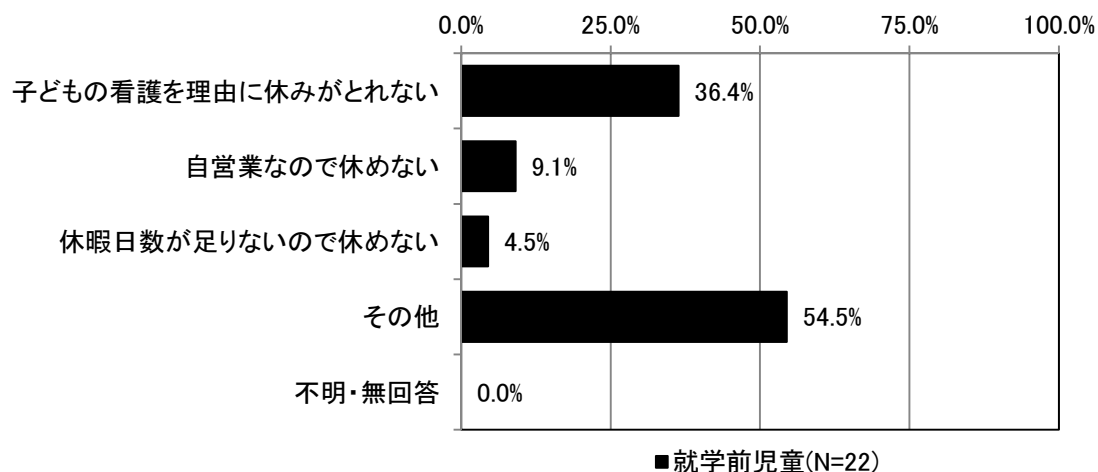
(42) で「休んで看することは非常に難しい」に○をつけた方のみ

(43) 休んで看することは非常に難しいと思われる理由について

【問 22-6】 MA

休んで看することは非常に難しいと思われる理由についてでは、「その他」が 54.5%と最も多く、次いで「子どもの看護を理由に休みがとれない」が 36.4%、「自営業なので休めない」が 9.1%となっています。

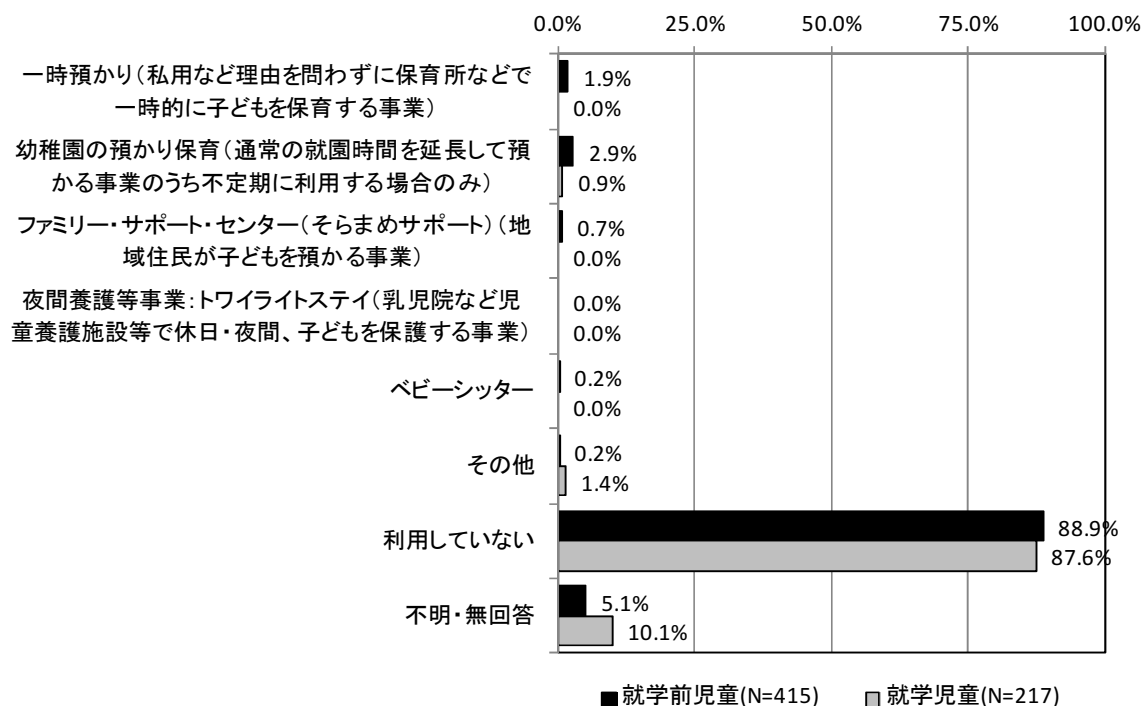
その他の回答では「業務上休みづらい」、「仕事が忙しい」と答えた方が多くおられました。



(44) 私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期的に利用している事業について

【問 23】 MA・N

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期的に利用している事業については、就学前児童、就学児童ともに「利用していない」がそれぞれ 88.9%、87.6%と最も多くなっています。



【不定期利用の事業・日数】

カテゴリ	一時預かり				幼稚園の預かり保育			
	就学前児童		就学児童		就学前児童		就学児童	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1～2日	1	12.5	0	0.0	2	16.7	1	50.0
3～5日	3	37.5	0	0.0	5	41.7	1	50.0
6～10日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
11～20日	0	0.0	0	0.0	3	25.0	0	0.0
21～30日	1	12.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
31日以上	3	37.5	0	0.0	1	8.3	0	0.0
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	1	8.3	0	0.0
サンプル数(%ベース)	8	100.0	0	0.0	12	100.0	2	100.0

カテゴリ	ファミリー・サポート・センター				夜間養護等事業:トワイライトステイ			
	就学前児童		就学児童		就学前児童		就学児童	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1～2日	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3～5日	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6～10日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
11～20日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
21～30日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
31日以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
サンプル数(%ベース)	3	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

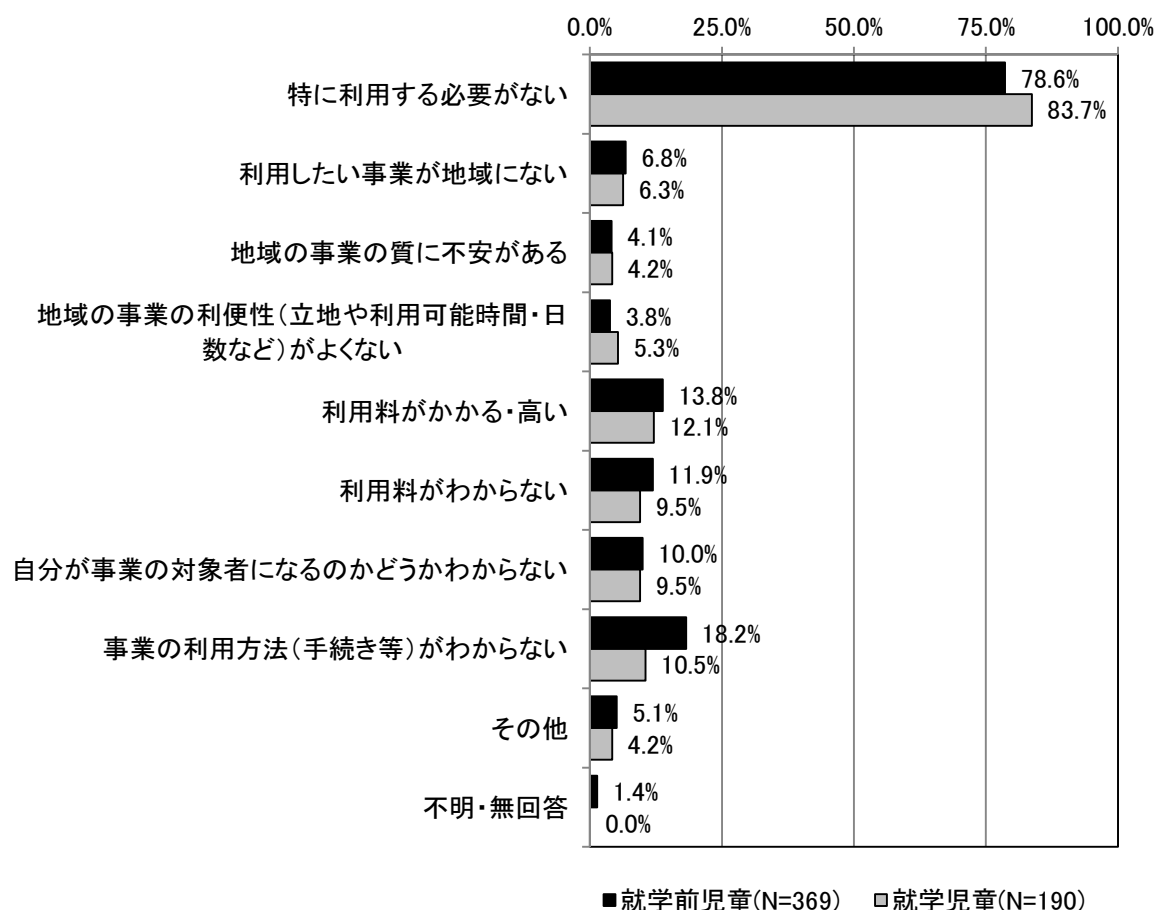
カテゴリ	ベビーシッター				その他			
	就学前児童		就学児童		就学前児童		就学児童	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1～2日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3
3～5日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6～10日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
11～20日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
21～30日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
31日以上	1	100.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	1	100.0	1	33.3
サンプル数(%ベース)	1	100.0	0	0.0	1	100.0	3	100.0

(44) で「利用していない」に○をつけた方のみ

(45) 現在利用していない理由について

【問 23-1】 MA

現在利用していない理由については、就学前児童、就学児童ともに「特に利用する必要がない」がそれぞれ 78.6%、83.7%ともっとも多く、次いで就学前児童では「事業の利用方法(手続き等)がわからない」が 18.2%、「利用料がかかる・高い」が 13.8%となっており、就学児童では「利用料がかかる・高い」が 12.1%、「事業の利用方法(手続き等)がわからない」が 10.5%となっています。



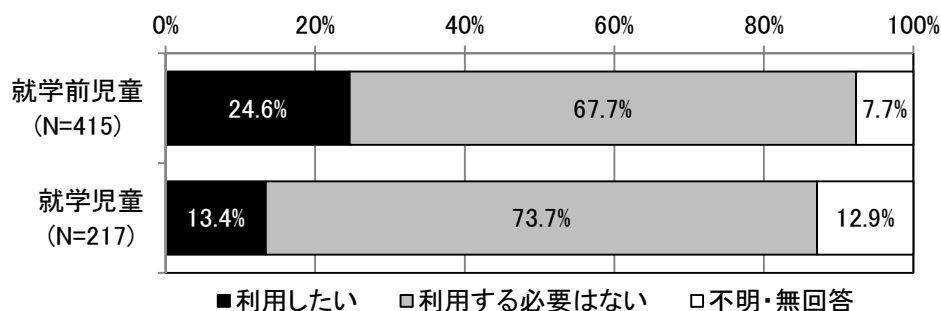
(46) 私用、親の通院、不定期の就労等の目的での、事業の利用希望と年間必要日数について

【問 24】 SA・MA・N

私用、親の通院、不定期の就労等の目的での、事業の利用希望についてでは、就学前児童で「利用したい」が 24.6%、「利用する必要はない」が 67.7%となっています。就学児童では「利用したい」が 13.4%、「利用する必要はない」が 73.7%となっています。

年間必要日数については就学前児童では「私用(買物、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の習い事等)、リフレッシュ目的」で「3～5日」が 33.3%、「冠婚葬祭、学校行事、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の通院等」で「3～5日」が 47.3%、「不定期の就労」で「6～10日」が 25.0%とともっとも多くなっています。

就学児童では「私用(買物、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の習い事等)、リフレッシュ目的」で「1～2日」、「6～10日」がともに 33.3%、「冠婚葬祭、学校行事、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の通院等」で「3～5日」、「6～10日」がともに 31.3%、「不定期の就労」で「3～5日」が 37.5%とともっとも多くなっています。



カテゴリ	私用(買物、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の習い事等)、リフレッシュ目的				冠婚葬祭、学校行事、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の通院等			
	就学前児童		就学児童		就学前児童		就学児童	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1～2日	7	13.0	4	33.3	7	12.7	4	25.0
3～5日	18	33.3	3	25.0	26	47.3	5	31.3
6～10日	11	20.4	4	33.3	12	21.8	5	31.3
11～20日	8	14.8	1	8.3	4	7.3	1	6.3
21～30日	1	1.9	0	0.0	2	3.6	0	0.0
31日以上	3	5.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	6	11.1	0	0.0	4	7.3	1	6.3
サンプル数(%ベース)	54	100.0	12	100.0	55	100.0	16	100.0

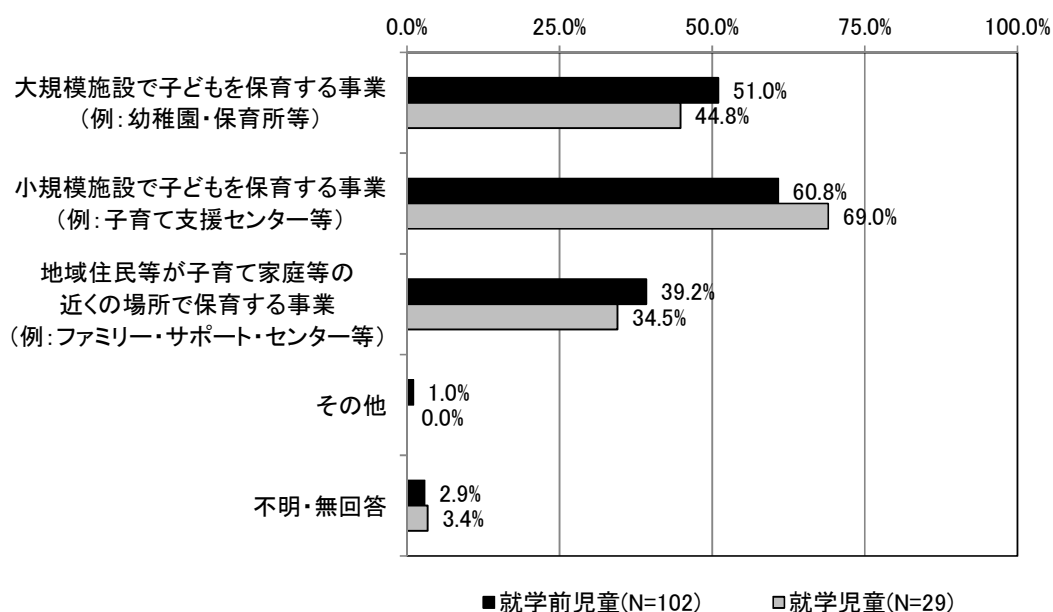
カテゴリ	不定期の就労				その他			
	就学前児童		就学児童		就学前児童		就学児童	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1～2日	4	11.1	1	6.3	0	0.0	0	0.0
3～5日	3	8.3	6	37.5	1	20.0	2	50.0
6～10日	9	25.0	2	12.5	0	0.0	0	0.0
11～20日	6	16.7	1	6.3	1	20.0	0	0.0
21～30日	3	8.3	2	12.5	0	0.0	1	25.0
31日以上	5	13.9	1	6.3	1	20.0	0	0.0
不明・無回答	6	16.7	3	18.8	2	40.0	1	25.0
サンプル数(%ベース)	36	100.0	16	100.0	5	100.0	4	100.0

(46) で「利用したい」に○をつけた方のみ

(47) 子どもを預ける望ましい事業形態について

【問 24-1】 MA

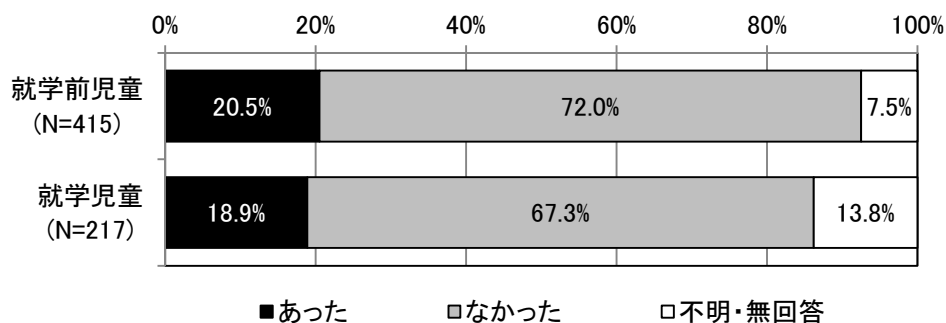
子どもを預ける望ましい事業形態については、就学前児童、就学児童ともに「小規模施設で子どもを保育する事業(例:子育て支援センター等)」がそれぞれ 60.8%、69.0%ともっとも多く、次いで「大規模施設で子どもを保育する事業(例:幼稚園・保育所等)」がそれぞれ 51.0%、44.8%、「地域住民等が子育て家庭等の近くで保育する事業(例:ファミリー・サポート・センター等)」がそれぞれ 39.2%、34.5%となっています。



(48) この1年間に、保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族の病気など)により、あて名のお子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことの有無について

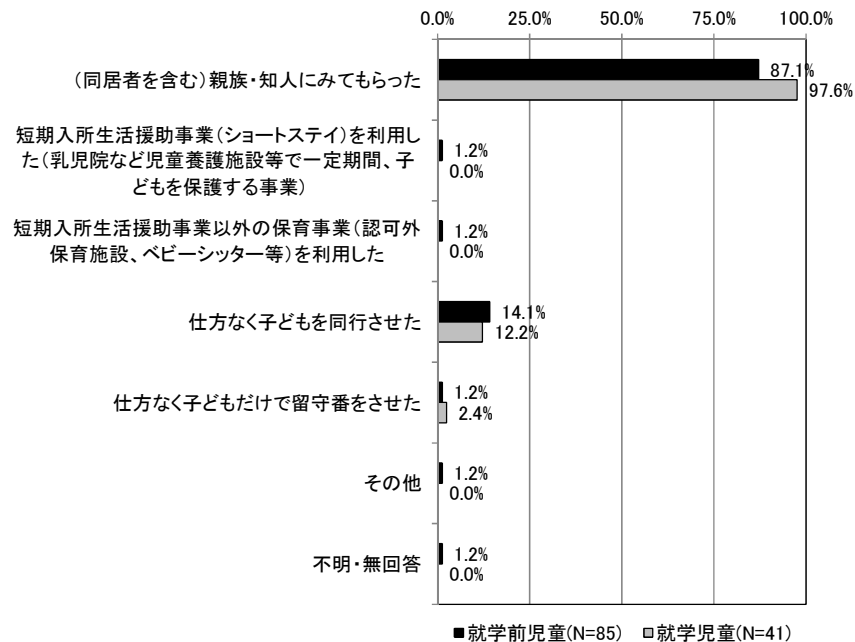
【問 25】 SA

この1年間に、保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族の病気など)により、あて名のお子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことの有無については、就学前児童で「あった」が 20.5%、「なかった」が 72.0%となっています。就学児童では「あった」が 18.9%、「なかった」が 67.3%となっています。



【問 25】 MA・N

また、家族以外にみてもらわなければならなかったことがあった方の対処方法としては「(同居者を含む)親族・知人にみてもらった」が就学前児童、就学児童ともにもっとも多くそれぞれ 87.1%、97.6%となっています。対処日数については比較的短期間が多い傾向にあります。



【対処した日数】

	(同居者を含む)親族・知人にみてもらった				短期入所生活援助事業(ショートステイ)を利用した(乳児院など児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業)			
	就学前児童		就学児童		就学前児童		就学児童	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1～2日	26	35.1	17	42.5	0	0.0	0	0.0
3～5日	17	23.0	10	25.0	1	100.0	0	0.0
6～10日	11	14.9	5	12.5	0	0.0	0	0.0
11～20日	4	5.4	3	7.5	0	0.0	0	0.0
21～30日	2	2.7	1	2.5	0	0.0	0	0.0
31日以上	1	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	13	17.6	4	10.0	0	0.0	0	0.0
サンプル数(%ベース)	74	100.0	40	100.0	1	100.0	0	0.0

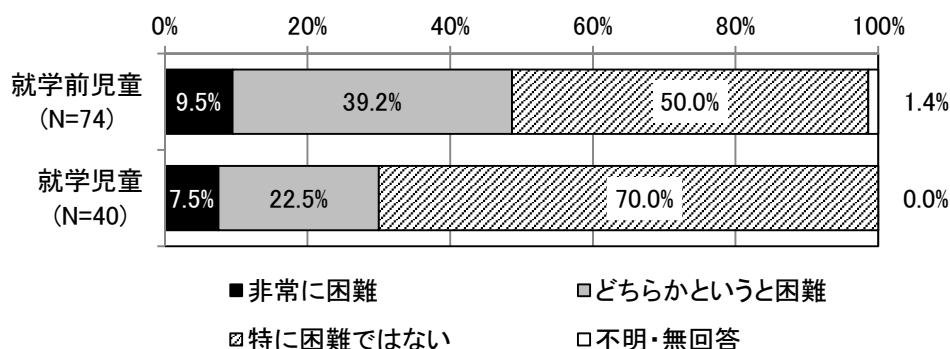
	短期入所生活援助事業以外の保育事業(認可外保育施設、ベビーシッター等)を利用した				仕方なく子どもを同行させた			
	就学前児童		就学児童		就学前児童		就学児童	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1～2日	1	100.0	0	0.0	6	50.0	3	60.0
3～5日	0	0.0	0	0.0	1	8.3	0	0.0
6～10日	0	0.0	0	0.0	1	8.3	0	0.0
11～20日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	20.0
21～30日	0	0.0	0	0.0	1	8.3	0	0.0
31日以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	3	25.0	1	20.0
サンプル数(%ベース)	1	100.0	0	0.0	12	100.0	5	100.0

	仕方なく子どもだけで留守番をさせた				その他			
	就学前児童		就学児童		就学前児童		就学児童	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1～2日	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0
3～5日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6～10日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
11～20日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
21～30日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
31日以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	1	100.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0
サンプル数(%ベース)	1	100.0	1	100.0	1	100.0	0	0.0

(48) で「あった（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」に○をつけた方のみ
(49) その場合の困難度について

【問 25-1】 SA

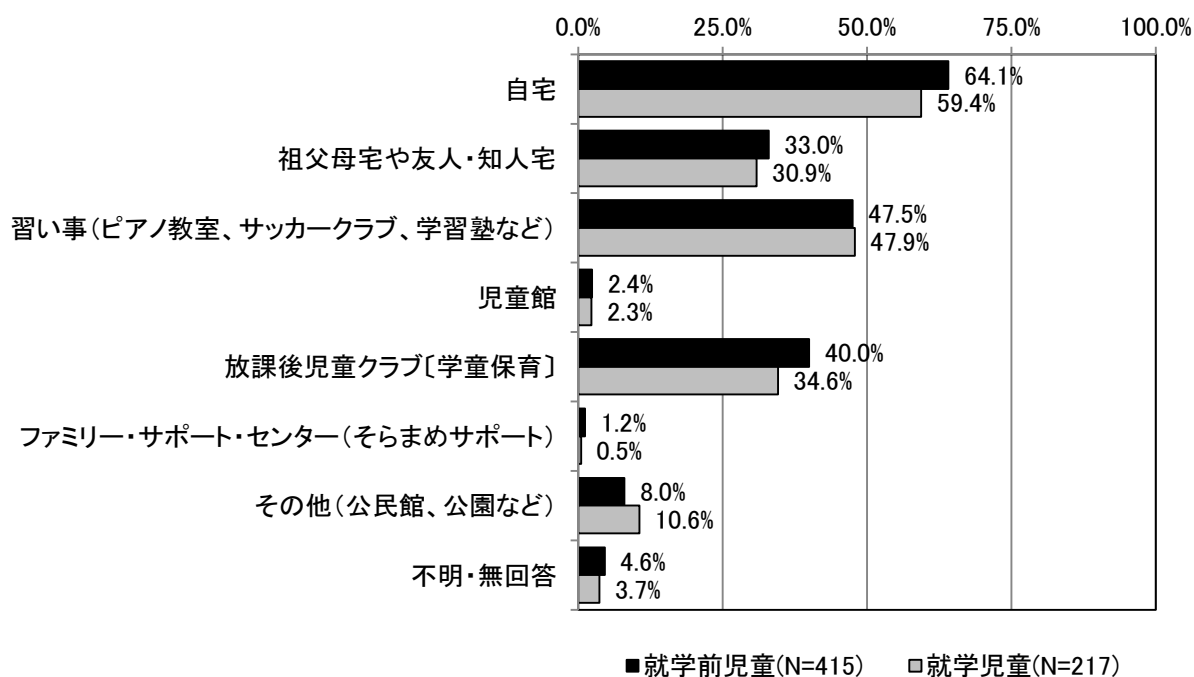
その場合の困難度についてでは、就学前児童、就学児童ともに「特に困難ではない」がそれぞれ 50.0%、70.0%と最も多く、次いで「どちらかという困難」がそれぞれ 39.2%、22.5%となっています。



(50) 小学校低学年(1～3年生)での放課後(平日の小学校終了後)の過ごし方について

【問 26】 MA

小学校低学年(1～3年生)での放課後(平日の小学校終了後)の過ごし方(就学前児童については想定で記入)についてでは、就学前児童、就学児童ともに「自宅」がそれぞれ 64.1%、59.4%と最も多く、次いで「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」がそれぞれ 47.5%、47.9%、「放課後児童クラブ[学童保育]」がそれぞれ 40.0%、34.6%となっています。



【問 26】 N

また、その際の週当たりの日数について、就学前児童では「自宅」が「5日」、「祖父母宅や友人・知人宅」が「2日」、「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」が「2日」、「児童館」が「1日」、「放課後児童クラブ〔学童保育〕」が「5日」、「ファミリー・サポート・センター(そらまめサポート)」が「1日」ともっとも多くなっています。

就学児童では「自宅」が「2日」、「祖父母宅や友人・知人宅」が「1日」、「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」が「2日」、「児童館」が「1日」、「5日」、「放課後児童クラブ〔学童保育〕」が「5日」、「ファミリー・サポート・センター(そらまめサポート)」が「1日」ともっとも多くなっています。

	自宅				祖父母宅や友人・知人宅			
	就学前児童		就学児童		就学前児童		就学児童	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1日	10	3.8	11	8.5	33	24.1	22	32.8
2日	40	15.0	28	21.7	34	24.8	20	29.9
3日	52	19.5	23	17.8	17	12.4	3	4.5
4日	28	10.5	14	10.9	3	2.2	2	3.0
5日	69	25.9	26	20.2	17	12.4	9	13.4
6日以上	9	3.4	8	6.2	1	0.7	1	1.5
不明・無回答	58	21.8	19	14.7	32	23.4	10	14.9
サンプル数(%ベース)	266	100.0	129	100.0	137	100.0	67	100.0

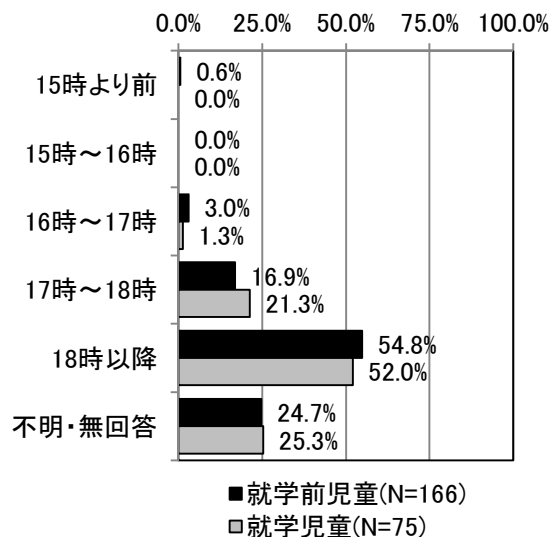
	習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)				児童館			
	就学前児童		就学児童		就学前児童		就学児童	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1日	58	29.4	26	25.0	3	30.0	1	20.0
2日	99	50.3	40	38.5	2	20.0	0	0.0
3日	15	7.6	21	20.2	0	0.0	0	0.0
4日	3	1.5	6	5.8	0	0.0	0	0.0
5日	0	0.0	5	4.8	1	10.0	1	20.0
6日以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	22	11.2	6	5.8	4	40.0	3	60.0
サンプル数(%ベース)	197	100.0	104	100.0	10	100.0	5	100.0

	放課後児童クラブ〔学童保育〕				ファミリー・サポート・センター(そらまめサポート)			
	就学前児童		就学児童		就学前児童		就学児童	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1日	3	1.8	3	4.0	3	60.0	1	100.0
2日	16	9.6	8	10.7	0	0.0	0	0.0
3日	29	17.5	5	6.7	1	20.0	0	0.0
4日	16	9.6	6	8.0	0	0.0	0	0.0
5日	86	51.8	45	60.0	1	20.0	0	0.0
6日以上	7	4.2	4	5.3	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	9	5.4	4	5.3	0	0.0	0	0.0
サンプル数(%ベース)	166	100.0	75	100.0	5	100.0	1	100.0

	その他(公民館、公園など)			
	就学前児童		就学児童	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1日	8	24.2	8	34.8
2日	8	24.2	3	13.0
3日	2	6.1	5	21.7
4日	1	3.0	1	4.3
5日	4	12.1	2	8.7
6日以上	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	10	30.3	4	17.4
サンプル数(%ベース)	33	100.0	23	100.0

【問 26】 N

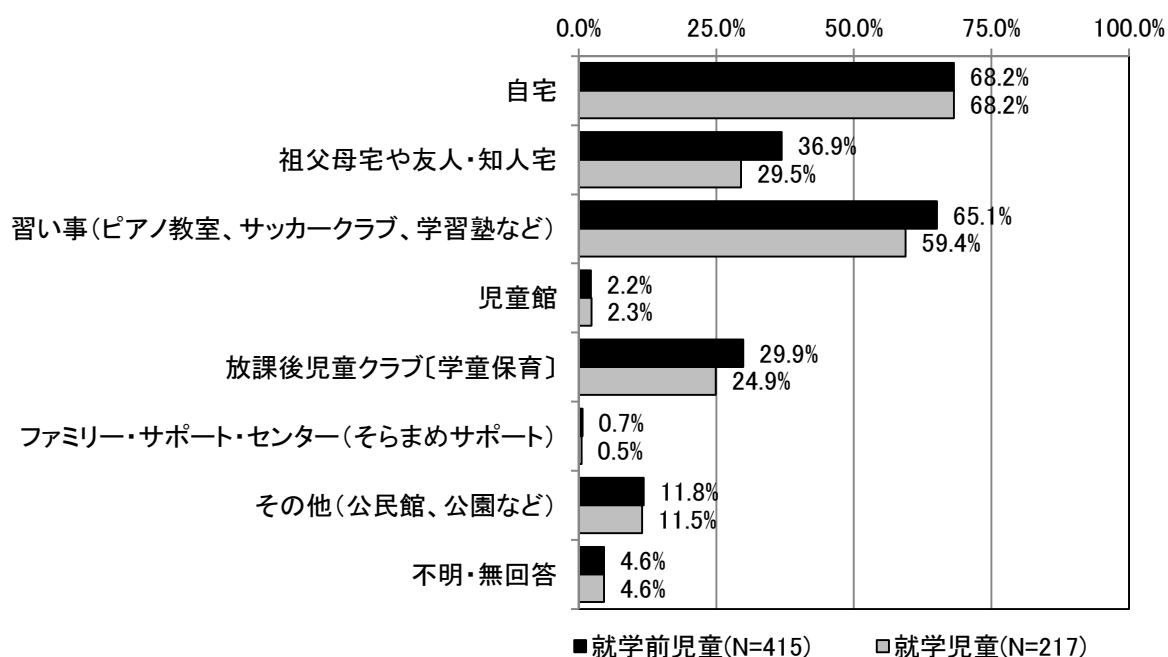
また、放課後児童クラブ〔学童保育〕を選ばれた方の中で、その利用時間についてみると「18 時以降」がもっとも多くなっています。



(51) 小学校高学年(4～6年生)での放課後(平日の小学校終了後)の過ごし方について

【問 27】 MA

小学校高学年(4～6年生)での放課後(平日の小学校終了後)の過ごし方についてでは、就学前児童、就学児童ともに「自宅」がともに 68.2%と最も多く、次いで「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」がそれぞれ 65.1%、59.4%、「祖父母宅や友人・知人宅」がそれぞれ 36.9%、29.5%となっています。



【問 27】 N

また、それぞれの週当たりの利用日数(就学前児童、低学年児童は希望)を見ると、就学前児童では「自宅」が「5日」、「祖父母宅や友人・知人宅」が「1日」、「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」が「2日」、「児童館」が「1日」、「放課後児童クラブ〔学童保育〕」が「5日」、「ファミリー・サポート・センター(そらまめサポート)」が「1日」ともっとも多くなっています。

就学児童では「自宅」が「3日」、「祖父母宅や友人・知人宅」が「1日」、「2日」、「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」が「2日」、「児童館」が「3日」、「放課後児童クラブ〔学童保育〕」が「5日」、「ファミリー・サポート・センター(そらまめサポート)」が「1日」ともっとも多くなっています。

	自宅				祖父母宅や友人・知人宅			
	就学前児童		就学児童		就学前児童		就学児童	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1日	10	3.8	11	8.5	33	24.1	22	32.8
2日	40	15.0	28	21.7	34	24.8	20	29.9
3日	52	19.5	23	17.8	17	12.4	3	4.5
4日	28	10.5	14	10.9	3	2.2	2	3.0
5日	69	25.9	26	20.2	17	12.4	9	13.4
6日以上	9	3.4	8	6.2	1	0.7	1	1.5
不明・無回答	58	21.8	19	14.7	32	23.4	10	14.9
サンプル数(%ベース)	266	100.0	129	100.0	137	100.0	67	100.0

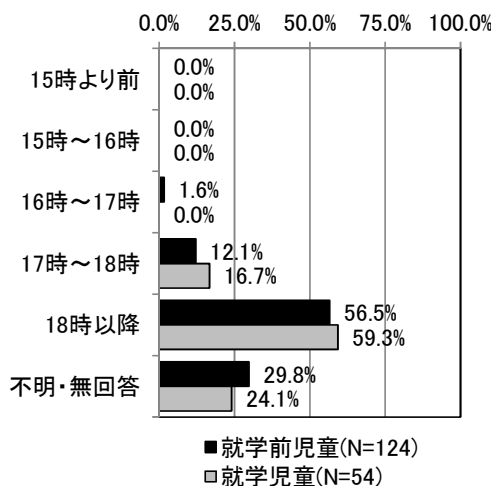
	習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)				児童館			
	就学前児童		就学児童		就学前児童		就学児童	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1日	58	29.4	26	25.0	3	30.0	1	20.0
2日	99	50.3	40	38.5	2	20.0	0	0.0
3日	15	7.6	21	20.2	0	0.0	0	0.0
4日	3	1.5	6	5.8	0	0.0	0	0.0
5日	0	0.0	5	4.8	1	10.0	1	20.0
6日以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	22	11.2	6	5.8	4	40.0	3	60.0
サンプル数(%ベース)	197	100.0	104	100.0	10	100.0	5	100.0

	放課後児童クラブ〔学童保育〕				ファミリー・サポート・センター(そらまめサポート)			
	就学前児童		就学児童		就学前児童		就学児童	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1日	3	1.8	3	4.0	3	60.0	1	100.0
2日	16	9.6	8	10.7	0	0.0	0	0.0
3日	29	17.5	5	6.7	1	20.0	0	0.0
4日	16	9.6	6	8.0	0	0.0	0	0.0
5日	86	51.8	45	60.0	1	20.0	0	0.0
6日以上	7	4.2	4	5.3	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	9	5.4	4	5.3	0	0.0	0	0.0
サンプル数(%ベース)	166	100.0	75	100.0	5	100.0	1	100.0

	その他(公民館、公園など)			
	就学前児童		就学児童	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%
1日	8	24.2	8	34.8
2日	8	24.2	3	13.0
3日	2	6.1	5	21.7
4日	1	3.0	1	4.3
5日	4	12.1	2	8.7
6日以上	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	10	30.3	4	17.4
サンプル数(%ベース)	33	100.0	23	100.0

【問 27】 N

また、放課後児童クラブ〔学童保育〕を選ばれた方の中で、その利用時間についてみると「18 時以降」がもっとも多くなっています。



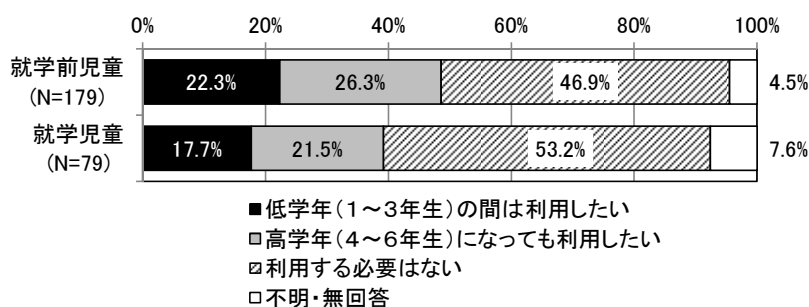
(50) または (51) で「放課後児童クラブ〔学童保育〕」に○をつけた方のみ

(52) 土曜日と日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用希望について

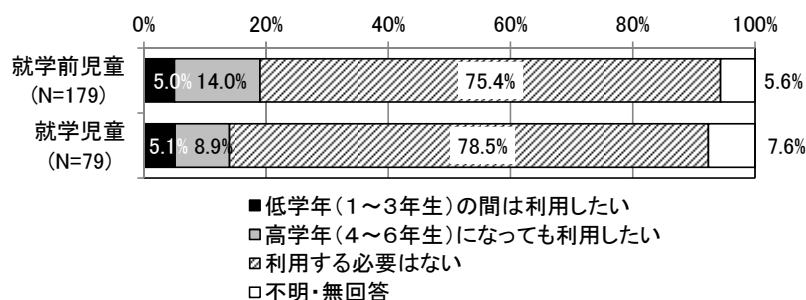
【問 28】 SA

土曜日と日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用希望についてでは、就学前児童、就学児童ともに「利用する必要はない」が土曜日、日曜日・祝日ともにもっとも多くなっています。土曜日は就学前児童で「低学年(1～3年生)の間は利用したい」が 22.3%、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」が 26.3%となっており、就学児童でも同様の傾向を示していますが、日曜日・祝日では利用希望が土曜日に比べ半減している傾向が見られます。

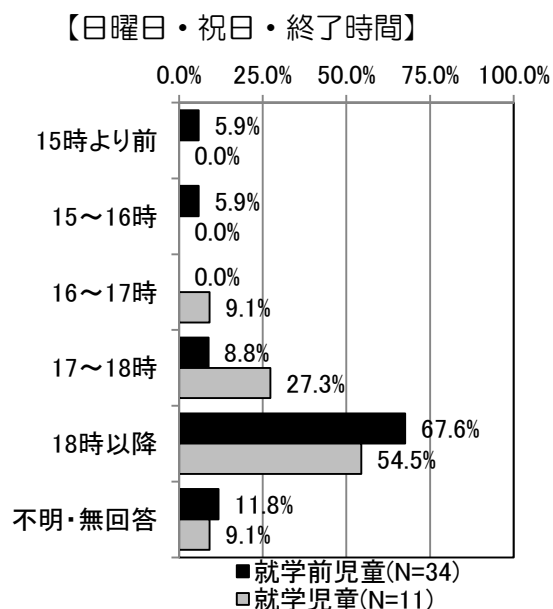
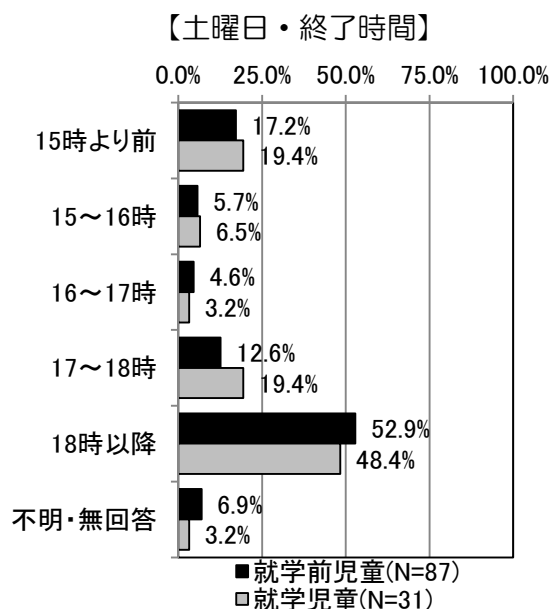
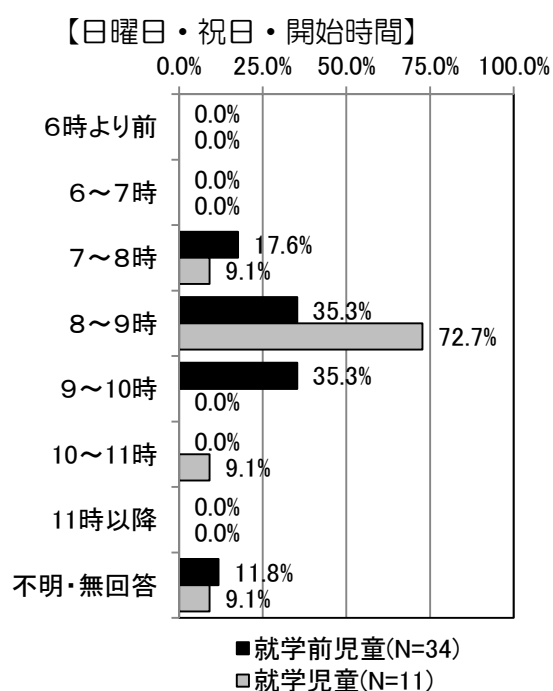
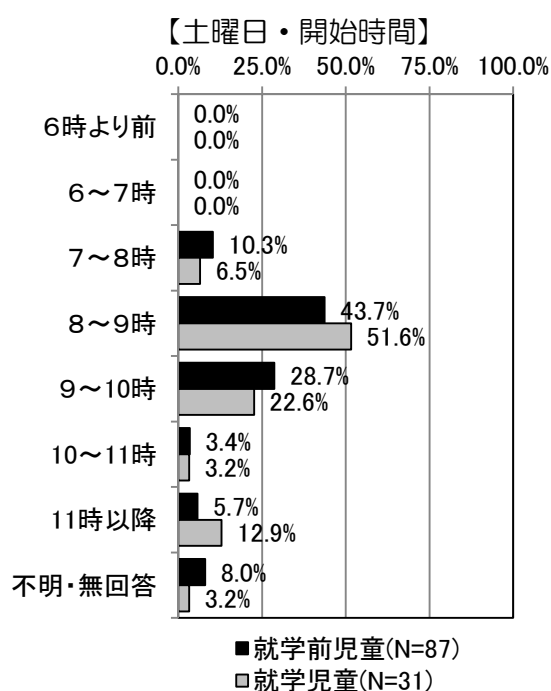
【土曜日】



【日曜日・祝日】



土曜日と日曜日・祝日のそれぞれの開始時間、終了時間については、土曜日では「8時～9時」の開始、「18時以降」の終了がもっとも多く、日曜日・祝日も同様の傾向が見られます。

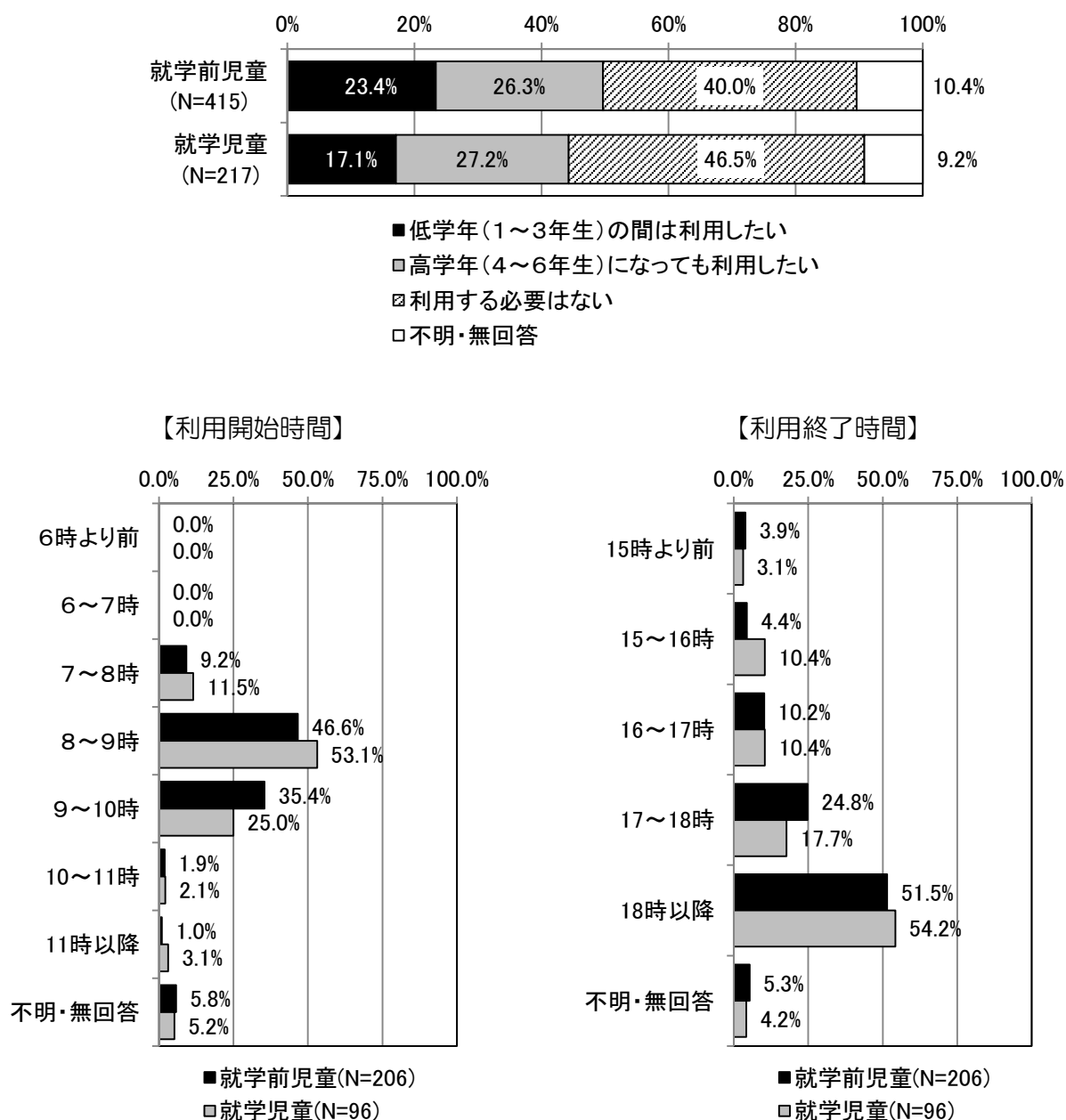


(53) 長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望について

【問 29】 SA・N

長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望についてでは、就学前児童、就学児童ともに「利用する必要はない」がそれぞれ 40.0%、46.5%ともっとも多く、次いで「高学年(4～6年生)になっても利用したい」がそれぞれ 26.3%、27.2%となっています。

また、その際の利用開始時間及び終了時間については、就学前児童、就学児童ともに開始時間は「8～9時」、終了時間は「18 時以降」がもっとも多くなっています。

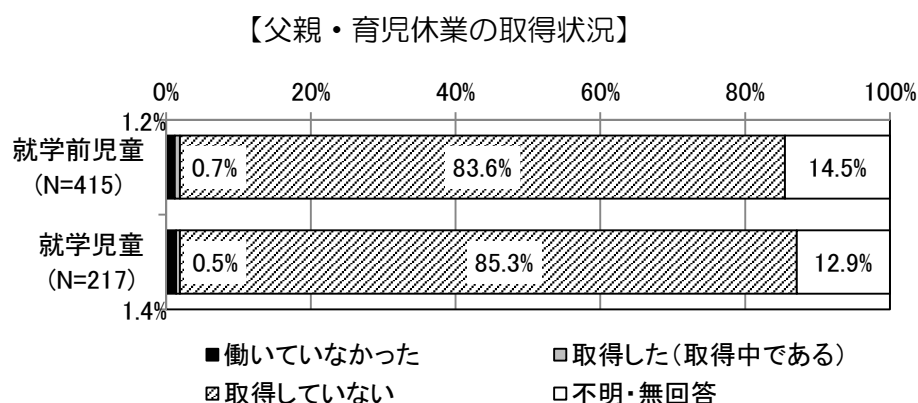
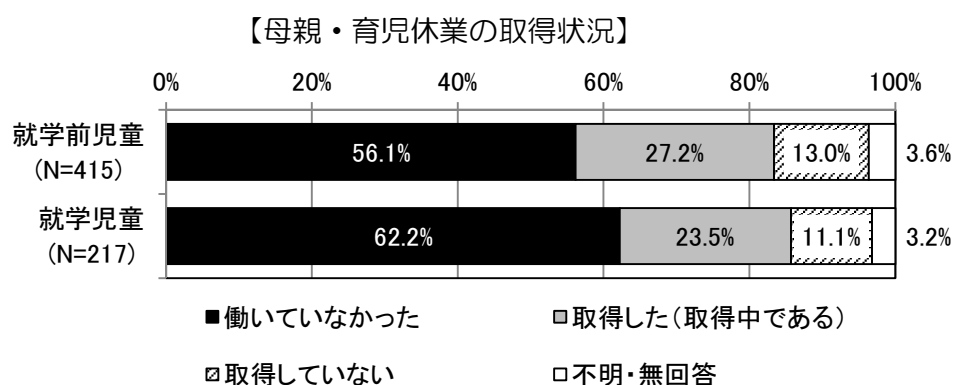


(54) 子どもが生まれた時の育児休業の取得について

【問 30】 SA

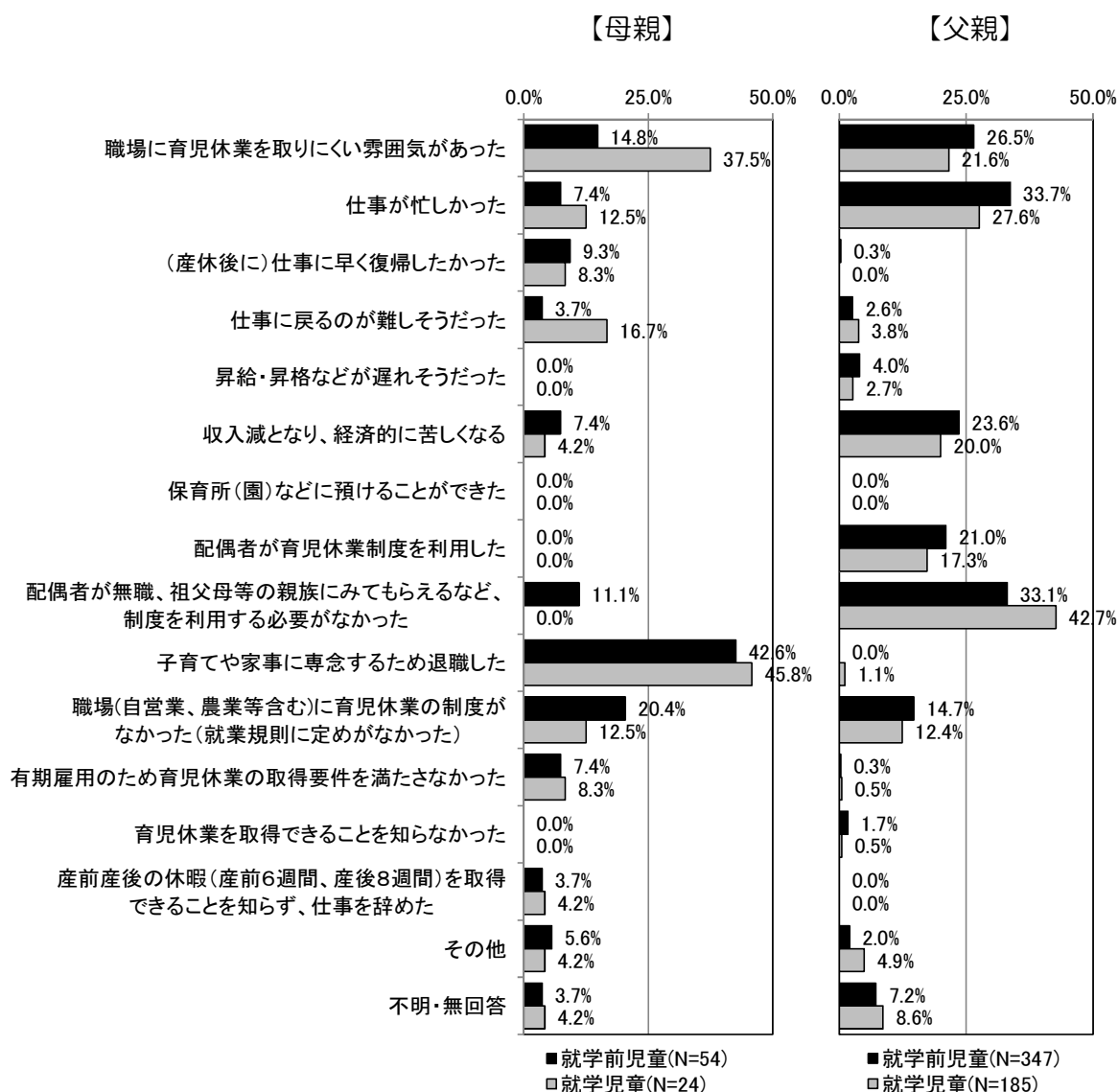
育児休業の取得については、母親では就学前児童、就学児童ともに「働いていなかった」がそれぞれ56.1%、62.2%と最も多く、次いで「取得した(取得中である)」がそれぞれ27.2%、23.5%となっています。

父親では就学前児童、就学児童ともに「取得していない」がそれぞれ83.6%、85.3%と最も多くなっています。



【問 30】 MA

取得していないと答えた方の理由について就学前児童の母親では「子育てや家事に専念するため退職した」、父親では「仕事が忙しかった」がもっとも多く、就学児童の母親では「子育てや家事に専念するため退職した」、父親では「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」がもっとも多くなっています。



【問 30-1】 SA

A horizontal bar chart comparing the awareness of childcare leave and insurance exemption between preschool children (N=415) and school children (N=217). The x-axis represents the percentage of awareness, ranging from 0.0% to 50.0%. The y-axis lists five categories of awareness. For each category, there are two bars: a black bar for preschool children and a gray bar for school children. The exact percentage for each bar is labeled at its end.

Category	就学前児童(N=415)	就学児童(N=217)
育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた	31.8%	26.3%
育児休業給付のみ知っていた	27.2%	24.4%
保険料免除のみ知っていた	1.0%	0.5%
育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった	34.0%	43.8%
不明・無回答	6.0%	5.1%

(56) 育児休業取得後の職場への復帰について

【問 30-2】 SA

【母親】

Category	就学前児童(N=113)	就学児童(N=51)
育児休業取得後、職場に復帰した	67.3%	96.1%
現在も育児休業中である	23.0%	2.0%
育児休業中に離職した	5.3%	2.0%
不明・無回答	4.4%	0.0%

【父親】

Category	就学前児童(N=3)	就学児童(N=1)
育児休業取得後、職場に復帰した	66.7%	100.0%
現在も育児休業中である	0.0%	0.0%
育児休業中に離職した	0.0%	0.0%
不明・無回答	33.3%	0.0%

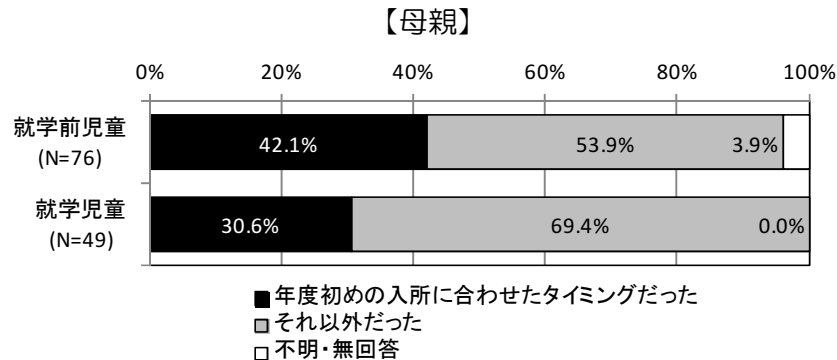
(56) で「育児休業取得後、職場に復帰した」に○をつけた方のみ

(57) 育児休業から職場に復帰したタイミングについて

【問 30-3】 SA

育児休業から職場に復帰したタイミングについて、母親では就学前児童で「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が42.1%、「それ以外だった」が53.9%となっています。就学児童では「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が30.6%、「それ以外だった」が69.4%となっています。

父親では、「それ以外だった」に就学前児童で2名、就学児童で1名の回答がありました。

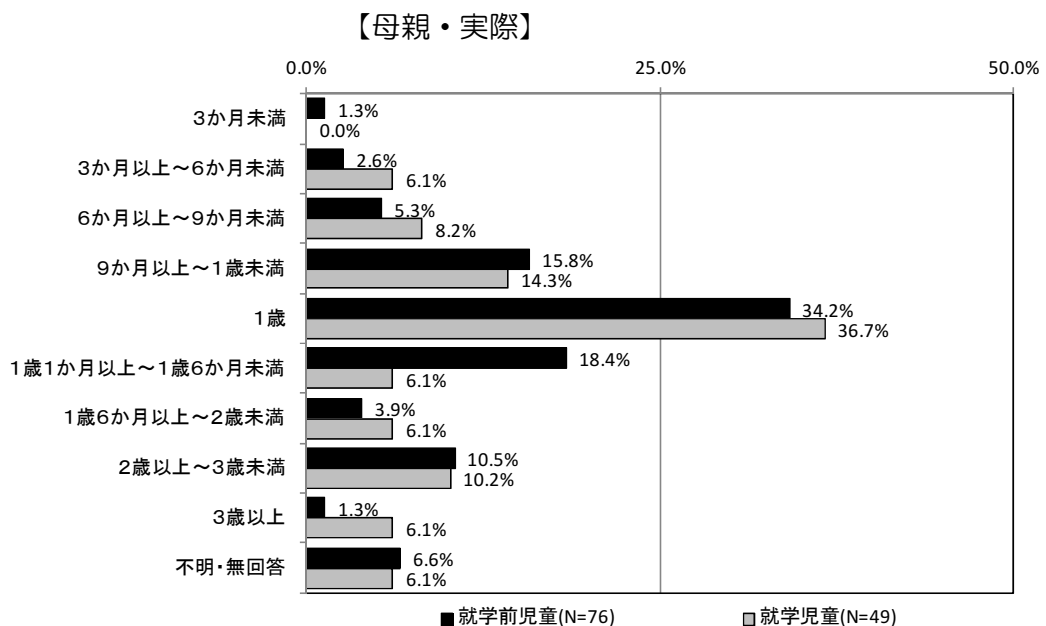


(58) 育児休業の実際の取得と希望について

【問 30-4】 N

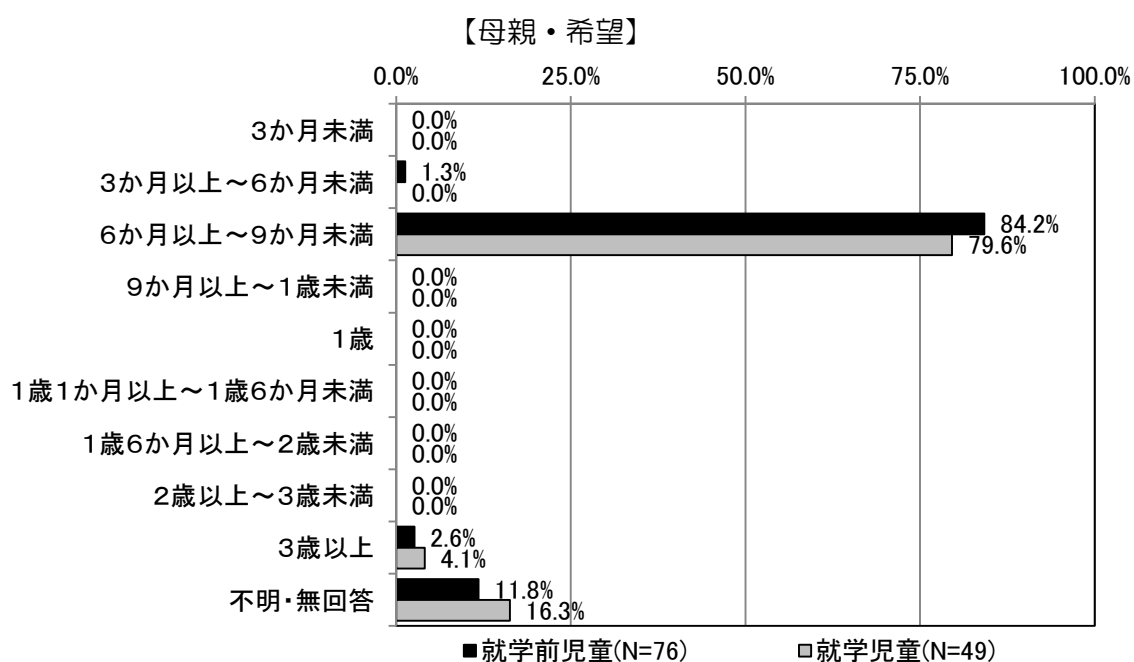
母親の育児休業の実際の取得についてでは、就学前児童、就学児童ともに「1歳」がそれぞれ34.2%、36.7%と最も多く、次いで就学前児童では「1歳1か月以上～1歳6か月未満」が18.4%、「9か月以上～1歳未満」が15.8%、就学児童では「9か月以上～1歳未満」が14.3%、「2歳以上～3歳未満」が10.2%となっています。

父親では、就学前児童で2名、就学児童で1名の回答を得ており、就学前児童で「3か月未満」、「3か月以上～6か月未満」にそれぞれ1名、就学児童で「3か月未満」に1名の回答がありました。



母親の育児休業の取得の希望についてでは、就学前児童、就学児童ともに「6か月以上～9か月未満」がそれぞれ 84.2%、79.6%ともっとも多くなっています。

父親では、「3か月未満」に就学前児童で1名、就学児童で1名の回答を得ています。



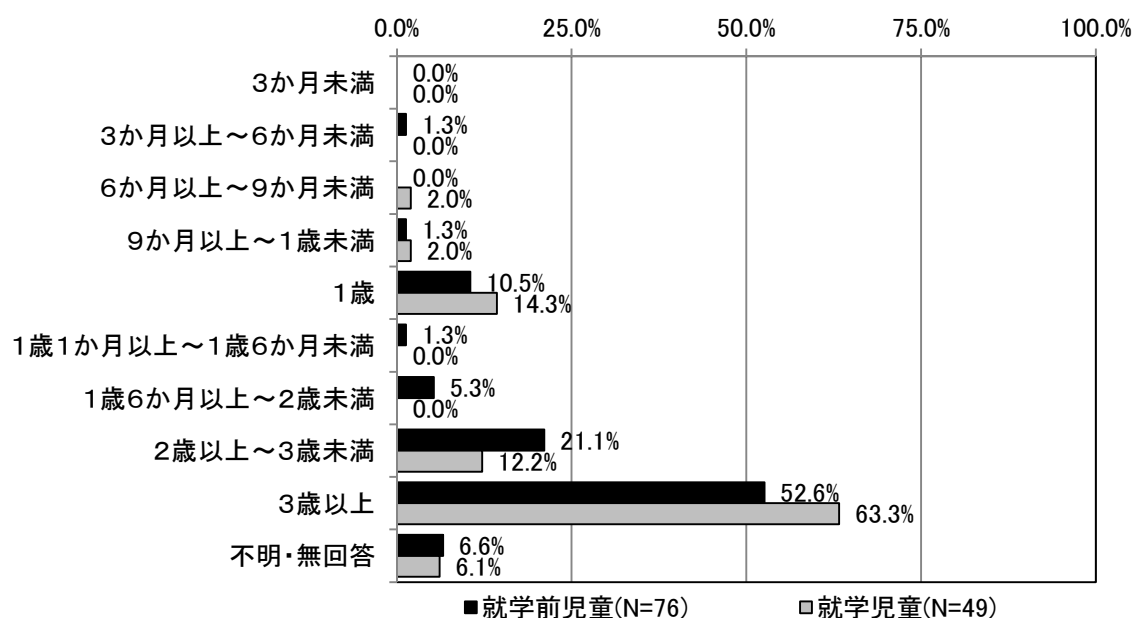
(59) 勤め先に育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、取得したい希望の期間について

【問 30-5】 N

母親の勤め先に育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、取得したい希望の期間についてでは、就学前児童、就学児童ともに「3歳以上」がそれぞれ 52.6%、63.3%ともっとも多く、次いで就学前児童では「2歳以上～3歳未満」が 21.1%、「1歳」が 10.5%となっており、就学児童では「1歳」が 14.3%、「2歳以上～3歳未満」が 12.2%となっています。

父親では、就学前児童で2名の回答が得られ、「6か月以上～9か月未満」、「2歳以上～3歳未満」にそれぞれ1名の回答がありました。就学児童では有効な回答が得られませんでした。

【母親】



(58) で実際の復帰と希望が異なる方のみ

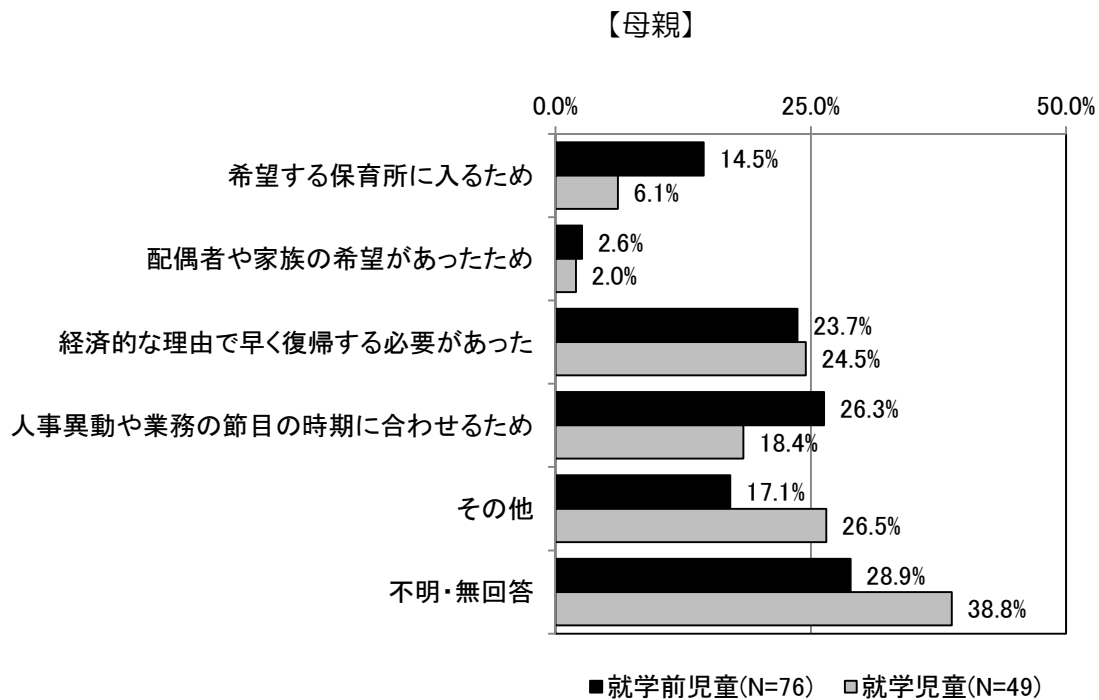
(60) 希望より早く復帰した理由について

【問 30-6(1)】 MA

希望より早く復帰した理由については、母親では就学前児童で「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が 26.3%ともっとも多く、次いで「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が 23.7%、「その他」が 17.1%となっています。就学児童では「その他」が 26.5%ともっとも多く、次いで「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が 24.5%、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が 18.4%となっています。

その他については「1年以上取得している前例がなかった」、「1年しか育児休業がないから」、「職員数が少ないため」、「職場の上司から早期復帰を促された」などの意見が多く挙げられています。

父親では就学前児童で「経済的な理由で早く復帰する必要があった」に1名の回答がありました。



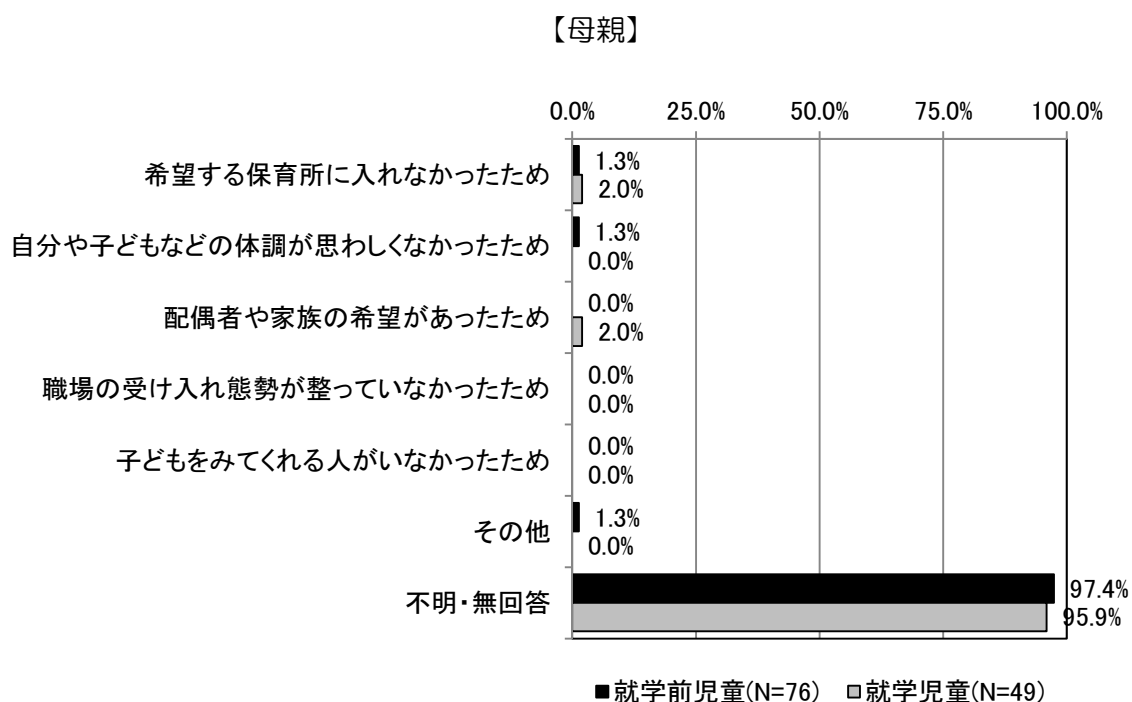
(58) で実際の復帰と希望が異なる方のみ

(61) 希望より遅く復帰した理由について

【問 30-6(2)】 MA

希望より遅く復帰した理由については、母親では以下のグラフのようにあまり有効な回答が得られていませんが、「希望する保育所に入れなかったため」、「自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため」、「配偶者や家族の希望があったため」などの理由が挙げられています。

これは実際に「遅く復帰した」方があまりおられないため、不明・無回答が多くなったと考えられます。父親では、有効な回答が得られませんでした。



(56) で「育児休業取得後、職場に復帰した」に○をつけた方のみ

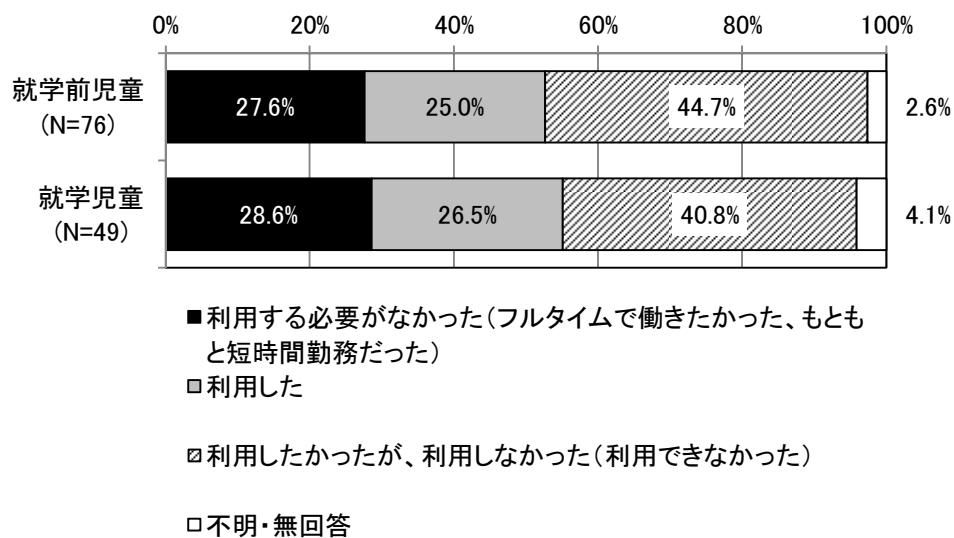
(62) 育児休業からの職場復帰時の短時間勤務制度の利用について

【問 30-7】 SA

育児休業からの職場復帰時の短時間勤務制度の利用については、母親では就学前児童、就学児童ともに「利用したかったが、利用しなかった(利用できなかった)」がそれぞれ 44.7%、40.8%ともっとも多く、次いで「利用する必要がなかった(フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった)」がそれぞれ 27.6%、28.6%となっています。

父親では、「利用する必要がなかった(フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった)」に就学前児童で2名、就学児童で1名の回答がありました。

【母親】



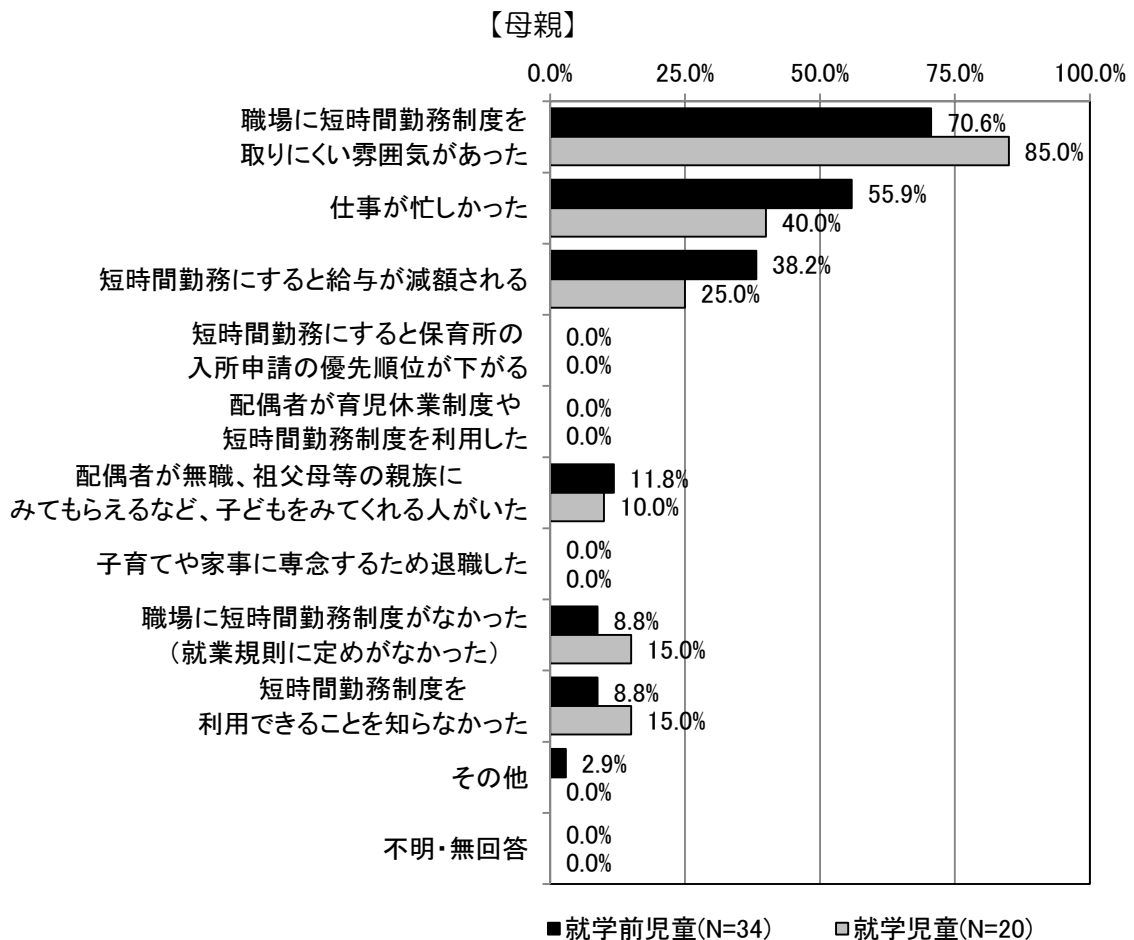
(62) で「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」に○をつけた方のみ

(63) 短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由について

【問 30-8】 MA

短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由についてでは、母親では就学前児童、就学児童ともに「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」がそれぞれ 70.6%、85.0%ともっとも多く、次いで「仕事が忙しかった」がそれぞれ 55.9%、40.0%、「短時間勤務にすると給与が減額される」がそれぞれ 38.2%、25.0%となっています。

父親では回答がありませんでした。

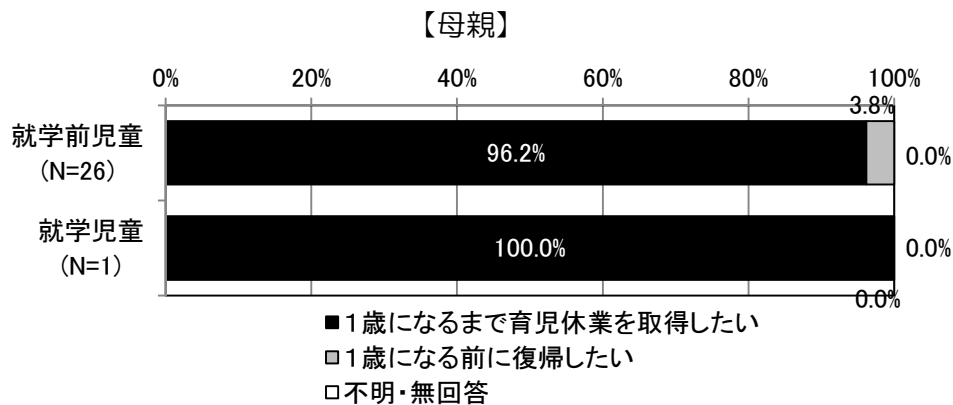


(56) で「現在も育児休業中である」に○をつけた方のみ

(64) 子どもが1歳になるまでに必ず利用できる(預ける)事業があっても、1歳になるまで育児休業を取得するかについて

【問 30-9】 SA

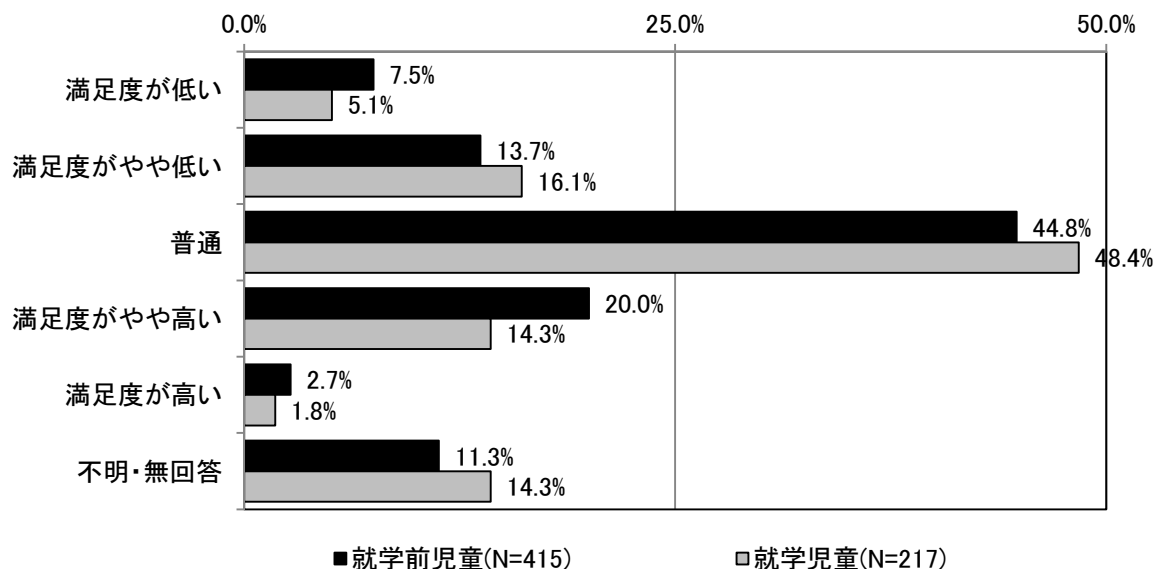
子どもが1歳になるまでに必ず利用できる(預ける)事業があっても、1歳になるまで育児休業を取得するかについて、母親では就学前児童で「1歳になるまで育児休業を取得したい」が96.2%、「1歳になる前に復帰したい」が3.8%となっています。就学児童では「1歳になるまで育児休業を取得したい」に1名が回答されています。



(65) 地域における子育ての環境や支援への満足度について

【問 31】 SA

地域における子育ての環境や支援への満足度についてでは、就学前児童、就学児童ともに「普通」がそれぞれ44.8%、48.4%と最も多く、次いで就学前児童では「満足度がやや高い」が20.0%、「満足度がやや低い」が13.7%となっており、就学児童では「満足度がやや低い」が16.1%、「満足度がやや高い」が14.3%となっています。



(66) 自由記載について

子育て(教育を含む)をする上で、周囲(身近な人、行政担当者など)からどのようなサポートがあればよいと考えるか

【問 11】

「子育てに関する情報提供・相談」、「一時預かりの質と量の拡充」、「学童保育の質と量の拡充」、「病児保育の質と量の拡充」、「公園など子どもが安心して遊べる施設の拡充」を求めるなどの意見がありました。

教育・保育環境の充実など紀の川市の子育ての環境や支援に関する意見・希望

【問 32】

「公園など子どもが安心して遊べる施設の拡充」、「乳児保育・低年齢児保育・延長保育・一時保育・日曜保育などの保育サービスの量と質の拡充」、「学童保育の質と量の拡充」、「病児保育の質と量の拡充」、「医療費や教育費、保育料等の子育てに関する財政的な支援の拡充」を求めるなどの意見がありました。

参考資料

子ども・子育てニーズ調査票

お住まいの地域についてお伺いします。

問1 お住まいの地区として当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 打田地域	2. 柳河地域(新築地域除く)	3. 新築地域
4. 那賀地域	5. 森山地域	6. 新志川地域

お子さんご家族の状況についてお伺いします。

問2 あて名のお子さんの生年月月をご記入ください。(数字でご記入ください。) また、就学(小学校)しているかどうかあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

平成	年	月	生まれ	1. 就学している	2. 未就学である
----	---	---	-----	-----------	-----------

問3 あて名のお子さんのきょうだいは何人いらっしゃいますか。あて名のお子さんを含めた人数を数字でご記入ください。2人以上のお子さんがいらっしゃる場合は、末子の方の生年月月をご記入ください。

きょうだい数	人	末子の生年月	平成	年	月	生まれ
--------	---	--------	----	---	---	-----

問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。あて名のお子さんからみた関係でお答えください。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 母親	2. 父親	3. その他 ()
-------	-------	------------

問5 この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 配偶者がいる	2. 配偶者はいない
-----------	------------

問6 あて名のお子さんの子育て(教育を含む)を主にやっているのはどなたですか。お子さんからみた関係で当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 父母ともに	2. 主に母親	3. 主に父親
4. 主に祖父母	5. その他 ()	

子どもの育ちをめぐる環境についてお伺いします。

問7 現在、あて名のお子さんの子育て(教育を含む)に日常的に関わっている方はどなた(施設)ですか。お子さんからみた関係で当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 父母ともに	2. 母親	3. 父親
4. 祖父母	5. 幼稚園	6. 保育所
7. 認定こども園	8. 小学校	9. その他 ()

1

紀の川市

子ども・子育て支援に関する調査

平素は、紀の川市政にご協力いただきましてありがとうございます。

紀の川市では、子ども・子育て支援法(平成24年法律第65号)に基づく新たな子ども・子育て支援の制度(以下「子ども・子育て支援新制度」といいます。)の下で、教育・保育・子育て支援の充実を図るため、平成27年度から5年間を一期とする「紀の川市子ども・子育て支援事業計画」を作成し、計画的に給付・事業を実施します。

本調査は、この計画で確保を図るべき教育・保育・子育て支援の「量の見込み」を算出するため、住民の皆さんの教育・保育・子育て支援に関する「現在の利用状況」や「今後の利用希望」を把握するために行うものです。

今回、この調査票にご協力いただく方は、市内にお住まいの0歳から9歳までのお子さんの中から選ばせていただいております。調査結果は、すべて統計的に処理され、回答者個人が特定されたり、個々の回答内容が他にのれたり、他の目的に利用されたりすることは一切ございません。

また、ここで回答していただいた内容(施設や事業の利用希望等)は、施設や事業の具体的な利用の可否を確認・決定するものではありません。現在の率直なご希望やご意見を ご記入ください。

お忙しいところ、誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成26年2月 紀の川市長 中村慎司

【ご記入にあたってのお願い】

回答方法には、選択肢に○を付けていただく場合と数字などをご記入いただく場合がございます。
●選択肢の場合、お選びいただく数(数)が設問によって異なりますので、ご注意ください。
また「その他」をお選びいただいた場合は、その後にある()内に具体的な内容をご記入ください。
●数字で時間(時刻)をご記入いただく場合は、24時間制(例:午後6時→18時)でご記入ください。
設問によってご回答いただく方が限られる場合がございますので、ことわり書きや矢印に従ってご回答ください。特に、ことわりのない場合は、次の設問にお進みください。

提出方法: 同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにポストに投函してください。

回答期限: 平成26年 2月28日

紀の川市 子育て支援課

TEL 0736-77-0863

73

問8 あて名のお子さんの子育て（教育を含む）に、強く影響すると思われる環境すべてに○をつけてください。

1. 家庭	2. 地域	3. 幼稚園	7. その他（ ）
4. 保育所	5. 認定こども園	6. 小学校	

問9 日頃、あて名のお子さんを見てもらえる親族・知人はいませんか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	⇒問9-1へ
2. 緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	
3. 日常的に子どもを見てもらえる友人・知人がいる	⇒問9-2へ
4. 緊急時もしくは用事の際には子どもを見てもらえる友人・知人がいる	
5. いずれもない	⇒問10へ

問9で「1」または「2」に○をつけた方のみ

問9-1 祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる
2. 祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である
3. 祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である
4. 自分たち親の立場として、負担をかけていることが苦しい
5. 子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある
6. その他（ ）

問9で「3」または「4」に○をつけた方のみ

問9-2 友人・知人にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる
2. 友人・知人の身体的負担が大きく心配である
3. 友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である
4. 自分たち親の立場として、負担をかけていることが苦しい
5. 子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある
6. その他（ ）

問10 あて名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいませんか。また、相談できる場所がありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. いる／ある ⇒ 問10-1へ	2. いない／ない ⇒ 問11へ
-------------------	------------------

問10で「1」いる／ある」に○をつけた方のみ

問10-1 お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる人は、誰（どこ）ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 祖父母等の親族
2. 友人や知人
3. 近所の人
4. 子育て支援施設（子育て支援センター等）・NPO
5. 保健所・保健センター（紀の川市健康推進課等）
6. 保育士
7. 幼稚園教諭
8. 民生委員・児童委員
9. 小学校教諭
10. かかりつけの医師
11. 自治体の子育て関連担当窓口（紀の川市子育て支援課等）
12. その他 【例】ベビーマッサージ・学童保育指導員 等 （ ）

問11 子育て（教育を含む）をする上で、周囲（身近な人、行政担当者など）からどのようなサポートがあればよいとお考えでしょうか。ご自由にお書きください。

保護者の就労状況についてお伺いします。

問12 あて名のお子さんのお父さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。【問4で、「3. その他」と回答した方は回答不要】

（1）母親 【父子家庭の場合は記入不要】 当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
2. フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
3. パート・アルバイト等（フルタイム以外の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
4. パート・アルバイト等（フルタイム以外の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
5. 以前は就労していたが、現在は就労していない
6. これまで就労したことがない

《(1)で「1～4」(就労している)に○をつけた方のみ

(1) -1 連日当りの「就労日数」、1日当たりの「就労時間(就業時間を含む)」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いバターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。

1週当たり	日	1日当たり	時間
-------	---	-------	----

《(1)で「1～4」(就労している)に○をつけた方のみ

(1) -2 家を出る時刻と帰宅時刻をお答えください。時間が一定でない場合は、もっとも多いバターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。時間は、必ず08時～18時のように、24時間制でお答えください。

家を出る時刻	時	帰宅時刻	時
--------	---	------	---

(2) 父親 【母子看護の場合は記入は不要】 当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. フルタイム (1週5日程度・1日8時間程度の就労) で就労しており、育休・介護休業中ではない
2. フルタイム (1週5日程度・1日8時間程度の就労) で就労しているが、育休・介護休業中である
3. パート・アルバイト等 (フルタイム以外の就労) で就労しており、育休・介護休業中ではない
4. パート・アルバイト等 (フルタイム以外の就労) で就労しているが、育休・介護休業中である
5. 以前は就労していたが、現在は就労していない
6. これまで就労したことがない

《(2)で「1～4」(就労している)に○をつけた方のみ

(2) -1 1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間(就業時間を含む)」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いバターンについてお答えください。育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。

1週当たり	() 日	1日当たり	() 時間
-------	-------	-------	--------

《(2)で「1～4」(就労している)に○をつけた方のみ

(2) -2 家を出る時刻と帰宅時刻をお答えください。時間が一定でない場合は、もっとも多いバターンについてお答えください。育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。時間は、必ず (例) 08時～18時のように、24時間制でお答えください。

家を出る時刻	() 時	帰宅時刻	() 時
--------	-------	------	-------

問12の(1)または(2)で「3、4」(パート・アルバイト等で就労している)に○をつけた方のみ
該当しない方は、問14へお進みください。

問13 フルタイムへの転換希望はありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

(1) 母親

1. フルタイム (1週5日程度・1日8時間程度の就労) への転換希望があり、実現できる見込みがある
2. フルタイム (1週5日程度・1日8時間程度の就労) への転換希望はあるが、実現できる見込みはない
3. パート・アルバイト等 (フルタイム) 以外) の就労を続けることを希望
4. パート・アルバイト等 (フルタイム) 以外) をやめて子育てや家事に専念したい

(2) 父親

1. フルタイム (1週5日程度・1日8時間程度の就労) への転換希望があり、実現できる見込みがある
2. フルタイム (1週5日程度・1日8時間程度の就労) への転換希望はあるが、実現できる見込みはない
3. パート・アルバイト等 (フルタイム) 以外) の就労を続けることを希望
4. パート・アルバイト等 (フルタイム) 以外) をやめて子育てや家事に専念したい

問12の(1)または(2)で「5以前は就労していたが、現在は就労していない」または「6これまで就労したことがない」に○をつけた方のみ
該当しない方は、問15へお進みください。

問14 就労したいという希望はありますか。当てはまる番号・記号それぞれ1つに○をつけ、該当する数字をご記入ください (数字は1桁に1字)。

(1) 母親

1. 子育てや家事などに専念したい (就労の予定はない)
2. 1年より先、一番下の子どもが () 歳になったところに就労したい
3. すぐにも、もしくは1年以内に就労したい
→希望する就労形態 ア. フルタイム (1週5日程度・1日8時間程度の就労)
イ. パートタイム、アルバイト等 (「ア」以外) →1週当たり () 日 1日当たり () 時間

(2) 父親

1. 子育てや家事などに専念したい (就労の予定はない)
2. 1年より先、一番下の子どもが () 歳になったところに就労したい
3. すぐにも、もしくは1年以内に就労したい
→希望する就労形態 ア. フルタイム (1週5日程度・1日8時間程度の就労)
イ. パートタイム、アルバイト等 (「ア」以外) →1週当たり () 日 1日当たり () 時間

平日の定期的な教育・保育事業の利用状況についてお伺いします。

あて名のお子さんが小学生の場合は一問19へ
※ここていう「定期的な教育・保育事業」とは、月単位で定期的に利用している事業を指します。
具体的には、幼稚園や保育所など、問15-1に示した事業が含まれます。

問15 現在、あて名のお子さんは幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 利用している ⇒ 問15-1へ 2. 利用していない ⇒ 問15-5へ

■問15-1～問15-4は、問15で「1.利用している」に○をつけた方のみ

問15-1 あて名のお子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。年間を通じて「定期的」に利用している事業をお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 幼稚園（通常の就園時間の利用）
2. 幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）
3. 認可保育所（公立・私立含む）
（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの）
4. 認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）
※現在、紀の川市では実施していません。
5. 家庭的保育（育者の家庭等で子どもを保育する事業）
※現在、紀の川市では実施していません。
6. 事業所内保育施設（企業や病院等が、その従業員用に運営する施設）
7. 認可外保育施設（認可保育所ではないが、自治体が認証・認定した施設）
8. その他の認可外の保育施設（施設名： ）
※託児所等含む
9. 居宅訪問型保育（ベビーシッターのような保育者が子どもの家庭で保育する事業）
※現在、紀の川市では実施していません。
10. ファミリー・サポート・センター（子育て経験のある地域住民が子どもを預かる事業）
※紀の川市では、いわで・きのかわファミリー・サポート・センター「そらまめサポート」を実施しています。
11. その他（ ）

問15-2 平日に定期的に利用している教育・保育の事業について、どのくらい利用していますか。また、希望としてはどのくらい利用したいですか。1週当たり何日、1日当たり何時間（何時から何時まで）かを、具体的な数字でご記入ください。時間、分、秒（例）09時～18時のように24時間制でご記入ください。

(1) 現在

1週当たり（ ）日 1日当たり（ ）時間（ ）時～（ ）時

(2) 希望

1週当たり（ ）日 1日当たり（ ）時間（ ）時～（ ）時

問15-3 現在、利用している教育・保育事業の実施場所についてうかがいます。「1」「2」のいずれかに○をつけてください。

1. 紀の川市内
2. 紀の川市以外（市町村名： ）

問15-4 平日に定期的に教育・保育の事業を利用されている理由についてうかがいます。主な理由として当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 子どもの教育や発達のため
2. 子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している
3. 子育て（教育を含む）をしている方が就労予定がある／求職中である
4. 子育て（教育を含む）をしている方が家族・親族などを介護している
5. 子育て（教育を含む）をしている方が病氣や障害がある
6. 子育て（教育を含む）をしている方が学生である
7. その他（ ）

問15で「2. 利用していない」に○をつけた方のみ

問15-5 利用していない理由は何ですか。理由としてもっとも当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. （子どもの教育や発達のため、子どもの母親が父親が就労していないなどの理由で）利用する必要がない
2. 子どもの祖父祖母や親戚の人がみている
3. 近所の人や父母の友人・知人がみている
4. 利用したいが、保育・教育の事業に空きがない
5. 利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない
6. 利用したいが、延長・夜間等の時間帯の条件が含まない
7. 利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない
8. 子どもがまだ小さいため（ ）歳くらいになったら利用しようと考えている
9. その他（ ）

すべての方にお伺いします。

問 16 現在、利用している、利用していないにかかわらず、あて名のお子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担(利用料金)が発生します。認可保育所の場合は、世帯収入に応じた利用料が設定されています。

- | | |
|---|--|
| 1. 幼稚園(通常の就園時間の利用) | |
| 2. 幼稚園の預かり保育(通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ) | |
| 3. 認可保育所(公立・私立・私立含む) | |
| 4. 認定こども園(幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設) | |
| ※現在、記の川市では実施していません。 | |
| 5. 家庭的保育(育者の家庭等で子どもを保育する事業) | |
| ※現在、記の川市では実施していません。 | |
| 6. 事業所内保育施設(企業や病院等が、その従業員用に運営する施設) | |
| 7. 認可外保育施設(認可保育所ではないが、自治体が認証・認定した施設) | |
| 8. その他の認可外の保育施設(施設名:) | |
| ※託児所等含む | |
| 9. 周宅訪問型保育(ベビーシッターのような保育者が子どもを家庭で保育する事業) | |
| ※現在、記の川市では実施していません。 | |
| 10. ファミリー・サポート・センター(子育て経路のある地域住民が子どもを預かる事業) | |
| ※記の川市では、いわで・きのかわファミリリー・サポート・センター「そらまめサポート」を実施しています。 | |
| 11. その他() | |

問 16-1 教育・保育事業を利用したい場所についてうかがいます。「1」「2」のいずれかに○をつけてください。

- | | |
|----------|------------------|
| 1. 記の川市内 | 2. 記の川市以外(市町村:) |
|----------|------------------|

地域の子育て支援事業の利用状況についてお伺いします。

問 17 あて名のお子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業を利用していますか。次の中から、利用されているものすべてに○をつけてください。また、おおよその利用回数(頻度)を数字でご記入ください。

※「地域子育て支援拠点事業」とは、親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、「子育て支援センター」等と呼ばれています。

- | | |
|---|--|
| 1. 地域子育て支援拠点事業(預かり子育て支援センター又は桃山子育て支援センター) | |
| 1週当たり()回 もしくは 1ヶ月当たり()回程度 | |
| 2. ながやま子育て支援センター(ながやま保育園で実施している) | |
| 1週当たり()回 もしくは 1ヶ月当たり()回程度 | |
| 3. 利用していない | |

問 18 問 17 のような地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いませんか。当てはまる番号一つに○をつけて、おおよその利用回数(頻度)を数字でご記入ください。

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 1. 利用していないが、今後利用したい | |
| 1週当たり()回 もしくは 1ヶ月当たり()回程度 | |
| 2. すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい | |
| 1週当たり 更に()回 もしくは 1ヶ月当たり 更に()回程度 | |
| 3. 新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない | |

問 19 下記の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。①～⑦の事業ごとに、A～Cのそれぞれについて、「はい」「いいえ」のいずれかに○をつけてください。なお、事業によっては、お住まいの地域で実施されていないものもあります。

	A	B	C
	知っている	これまでに利用したことがある	今後利用したい
①桃山子育て支援センター	1. はい	1. はい	1. はい
	2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ
②赤ちゃん広場・子育て教室	1. はい	1. はい	1. はい
	2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ
③保健センター(保健師)の情報・相談事業	1. はい	1. はい	1. はい
	2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ
④家庭児童相談室(子育て支援課内)	1. はい	1. はい	1. はい
	2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ
⑤保育所や幼稚園の園庭等の開放	1. はい	1. はい	1. はい
	2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ
⑥教育相談員・スクールカウンセラー	1. はい	1. はい	1. はい
	2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ
⑦ファミリリー・サポート・センター	1. はい	1. はい	1. はい
	2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ
⑧和歌山県子ども・女性・障害者相談センターの相談事業	1. はい	1. はい	1. はい
	2. いいえ	2. いいえ	2. いいえ

※⑥教育相談員・スクールカウンセラーは、市内各小中学校で相談事業を行っています。
⑦ファミリリー・サポート・センターは、記の川市では「いわで・きのかわファミリリー・サポート・センター」(そらまめサポート)として実施しています。

土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望についてお伺いします。

※教育・保育事業とは、幼稚園、保育所、認可外保育施設などの事業を指しますが、親族・知人による預かりは含みません。

問 20 あて名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育事業の利用希望はありますか(一時的な利用は除きます)。希望がある場合は、利用したい時間帯(24時間制)をご記入ください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担(料金未定)が発生します。

(1) 土曜日

- | | |
|-------------------------|--|
| 1. 利用する必要はない | |
| 2. はほぼ毎週利用したい | |
| 3. 月に1～2回は利用したい | |
|] 利用したい時間帯 ()時から()時まで | |

(2) 日曜・祝日

1. 利用する必要はない	] 利用したい時間帯 () 時から () 時まで
2. ほぼ毎週利用したい	
3. 月に1～2回は利用したい	

問 20 の(1)もしくは(2)で、「3. 月に1～2回は利用したい」に○をつけた方のみ

問 20-1 毎週ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 月に数回仕事が入るため
2. 平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため
3. 親族の介護や手伝いが必要なため
4. 息抜きのため
5. その他 ()

「幼稚園」を利用されている方のみ

問 21 あて名のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。希望がある場合は、利用したい時間帯(24 時間制)をご記入ください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担(金額未定)が発生します。

1. 利用する必要はない	] 利用したい時間帯 () 時から () 時まで
2. 休みの期間中、ほぼ毎日利用したい	
3. 休みの期間中、週に数日利用したい	

問 21 で、「3. 週に数日利用したい」に○をつけた方のみ

問 21-1 毎日ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 週に数回仕事が入るため	2. 買い物等の用事をまとめて済ませるため
3. 親族の介護や手伝いが必要なため	4. 息抜きのため
5. その他 ()	

平日の定期的な教育・保育の事業を利用していると答えた保護者の方(問 15 で1に○をつけた方)のみ
〔利用していらっしゃる方以外は、問 23へ〕

問 22 この1年間に、あて名のお子さんが病氣やケガで通常の事業が利用できなかったことはありますか。

1. あった ⇒ 問 22-1へ	2. なかった ⇒ 問 23へ
------------------	-----------------

問 22-1 あて名のお子さんが病氣やケガで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法として当てはまる記号すべてに○をつき、それぞれの日数も数字でご記入ください(半日程度の対応の場合も1日とカウントしてください)。

1 年間の対処方法		日数
ア. 父親が休んだ		日
イ. 母親が休んだ		日
ウ. (同居者を含む) 親戚・知人に子どもをみてもらった		日
エ. 父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた		日
オ. 父親又は母親の保育を利用した		日
カ. 病児・病後児の保育(園)で実施しているサービスを含む		日
キ. ベビーシッターを利用した		日
ク. ファミリー・サポート・センターを利用した		日
ケ. 仕方なく子どもだけで留守番をさせた		日
コ. その他 ()		日

※「キ. ファミリー・サポート・センター」には、「病児・病後児緊急対応強化事業」による利用も含まれます。

問 22-1 で「ア」「イ」のいずれかに回答した方のみ

問 22-2 その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われしただけ、当てはまる番号1つに○をつけ、日数についても数字でご記入ください。なお、病児・病後児のための事業等の利用には、一定の利用料(例：1 時間800 円程度)がかかります。利用前にかかりつけ医の受診が必要となります。

1. できれば病児・病後児保育施設等を利用したい ⇒ () 日 ⇒ 問 22-3へ
2. 利用したいとは思わない ⇒ 問 22-4へ

問 22-2 で「1. できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」に○をつけた方のみ

問 22-3 上記の目的で子どもを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われるか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 他の施設(例：幼稚園・保育所等)に併設した施設で子どもを保育する事業
2. 小児科等病院に併設した施設で子どもを保育する事業
3. 地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業 (例：ファミリー・サポート・センター等)
4. その他 () ⇒ 問 23へ

問 22-2 で「利用したいとは思わない」に○をつけた方のみ

問 22-4 そう思われる理由について当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 病児・病後児を他人に頼ってもらうのは不安
2. 地域の事業の質に不安がある
3. 地域の事業の利便性(立地や利用可能時間日数など)がよくない
4. 利用料がかかる・高い
5. 利用料がわからない
6. 親が仕事を休んで対応する
7. その他 () ⇒ 問 23へ

問 22-1 で「ウ」から「ケ」のいずれかに回答した方のみ

問 22-5 その際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで書いた」と記入しましたが、
当てはまる番号 1 つに○をつけ、「ウ」から「ケ」の日数のうち仕事を休んで書
いた日数についても数字で記入ください。

1. できれば仕事を休んで書いた	⇒ () 日	⇒ 問 23へ
2. 休んで書くことは非常に難しい		⇒ 問 22-6へ

問 22-5 で「2. 休んで書くことは非常に難しい」に○をつけた方のみ

問 22-6 そう思われる理由について当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 子どもの負担を理由に休みがとれない	2. 自営業なので休めない
3. 休暇日数が足りないので休めない	4. その他 ()

不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用についてお伺いします。

問 23 あて名のお子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の
通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。ある場合
は、当てはまる番号すべてに○をつけ、1 年間の利用日数（おおよそ）を数字で記
入ください。

利用している事業・日数（年間）		日
1. 一時預かり （私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを保育する事業）		日
2. 幼稚園の預かり保育施設等 （通常の幼稚園時間を延長預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ）		日
3. フAMILYリー・サポート・センター（せまのサポート） （地域住民が子どもを預かる事業）		日
4. 夜間看護等事業：トワイライト （乳幼児など児童養護施設等で休日・夜間、子どもを保護する事業）		日
5. ベビーシッター		日
6. その他 ()		日
7. 利用していない		日

問 23 で「7. 利用していない」と回答した方のみ

問 23-1 現在利用していない理由は何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてくださ
い。

1. 特に利用する必要がない	
2. 利用したい事業が地域にない	
3. 地域の事業の質に不安がある	
4. 地域の事業の利便性（立地や利用可能時間・日数など）がよくない	
5. 利用料がかかる・高い	
6. 利用料がわからない	
7. 自分が事業の対象者になるのかどうかわからない	
8. 事業の利用方法（手続き等）がわからない	
9. その他 ()	

問 24 あて名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日
くらい事業を利用する必要があると思いますか。利用希望の有無について当てはま
る番号・記号すべてに○をつけ、必要日数を記入ください（利用したい日数の
合計と、目的別の内訳の日数を数字で記入ください）。なお事業の利用にあつま
ては、一定の利用料（時給：800 円程度と仮定）がかかることを前提とします。

1. 利用したい	計	日
ア. 私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、 リフレッシュ目的		日
イ. 親戚・近所、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や 親の通院等		日
ウ. 不定期の就労		日
エ. その他 ()		日
2. 利用する必要はない	⇒ 問 25へ	

問 24 で「1. 利用したい」に○をつけた方にかかいます。

問 24-1 問 24 の目的でお子さんを預ける場合、下記いずれの事業形態が望ましいと思
われますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 大規模施設で子どもを保育する事業（例：幼稚園・保育所等）	
2. 小規模施設で子どもを保育する事業（例：子育て支援センター等）	
3. 地域住民等が子育て支援施設等の近くの場所で保育する事業 （例：ファミリー・サポート・センター等）	
4. その他 ()	

問 25 この 1 年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、あて
名のお子さんを預けがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありません
でしたが、預け先がなかった場合はありますか。あった場合は、この 1 年間の対
処方法として当てはまる番号すべてに○をつけ、それぞれの日数も数字で記入く
ださい。

1 年間の対処方法		日	数
ア.（同居者を含む）祖父母・叔父・叔母にみてもらった		日	
イ. 短所入所生活援助事業（ショートステイ）を利用した 事業（乳幼児など児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する 事業）		日	
ウ.（ア以外）の保育事業（認可外保育施設、ベビーシッター等）を 利用した		日	
エ. 仕方なく子どもを同行させた		日	
オ. 仕方なく子どもだけで留守番させた		日	
カ. その他 ()		日	
2. なかった			

問 25 で「1. あった」ア（同居者を含む）祖父母・叔父・叔母にみてもらった」と答えた方のみ

⇒ア以外を選択した方は、問 26へ

問 25-1 その場合の困難度はどの程度でしたか。当てはまる番号 1 つに○をつけてくださ
い。

1. 非常に困難	2. どちらかというと困難	3. 特に困難ではない
----------	---------------	-------------

育児休業や短時間勤務制度など職場の面立支援制度についてお伺いします。

問 30 あて名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。母親、父親それぞれについて、当てはまる番号1つに○をつけ、該当する数字をご記入ください。また、取得していない方はその理由をご記入ください。

母親 (いづれかに○)	父親 (いづれかに○)
1. 働いていなかった	1. 働いていなかった
2. 取得した(取得中である)	2. 取得した(取得中である)
3. 取得していない(下の表から番号を選んで記入してください。複数回答可)	3. 取得していない(下の表から番号を選んで記入してください。複数回答可)
⇒ ()	⇒ ()

1. 職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった
2. 仕事で忙しかった
3. (産休後に) 仕事に早く復帰したかった
4. 仕事に戻るのが難しそうだった
5. 昇給・昇格などが遅れそうだった
6. 収入減となり、経済的に苦しくなる
7. 保育所(園)などに預けることができた
8. 配偶者が育児休業制度を利用した
9. 配偶者が無職、祖父母等の親族にのみももらえらるなど、制度を利用する必要がなかった
10. 子育てや家事に専念するため退職した
11. 職場(自営業、農業等含む)に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)
12. 有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった
13. 育児休業を申請できることを知らなかった
14. 産前産後の休暇(産前6週間、産後8週間)を取得できることを知らず、仕事を辞めた
15. その他 ()

問 30-1 子どもが原則1歳(保育所における保育の実施が行われないなど一定の要件を満たす場合は1歳6月)になるまで育児休業給付が支給される仕組み、子どもが満3歳になるまでの育児休業等(法定の育児休業及び企業が法定を上回る期間設けた育児休業に準ずる措置)期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みがありますが、そのことをご存じでしたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた
2. 育児休業給付のみ知っていた
3. 保険料免除のみ知っていた
4. 育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった

問 30で「2. 取得した(取得中である)」と回答した方のみ
⇒ 該当しない方は、問 31へ

問 30-2 育児休業取得後、職場に復帰しましたが、当てはまる番号1つに○をつけてください。

(1) 母親	(2) 父親
1. 育児休業取得後、職場に復帰した	1. 育児休業取得後、職場に復帰した
2. 現在も育児休業中である	2. 現在も育児休業中である
3. 育児休業中に離職した	3. 育児休業中に離職した

問 30-2で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方のみ

問 30-3 育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングでしたが、あるいはそれ以外でしたか。どちらか1つに○をつけてください。

(1) 母親	(2) 父親
1. 年度初めの入所に合わせたタイミングだった	1. 年度初めの入所に合わせたタイミングだった
2. それ以外だった	2. それ以外だった

※年度初めでの認可保育所入所を希望して、1月～2月頃復帰して一時的に認可外保育所に入所した場合、なども「1」に当てはまります。また、年度初めでの入所を希望して復帰したが、実際には希望する保育所に入所できなかったという場合も「1」を選択してください。

問 30-4 育児休業からは、「実際」にお子さんが何歳何ヶ月のときに職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取りだかったですか。数字をご記入ください。

(1) 母親		(2) 父親	
復帰の取得期間希望	歳 月 月 月	復帰の取得期間希望	歳 月 月 月

問 30-5 お勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何ヶ月のときまで取りだかったですか。数字をご記入ください。

(1) 母親	(2) 父親
歳 月 月 月	歳 月 月 月

問 30-4で実際の復帰と希望が異なる方のみ

問 30-6 希望の時期に職場復帰しなかった理由についてうかがいます。

(1)「希望」より早く復帰した方 ※当てはまる番号すべてに○をつけてください。

(1) 母親	(2) 父親
1. 希望する保育所に入るため	1. 希望する保育所に入るため
2. 配偶者や家族の希望があったため	2. 配偶者や家族の希望があったため
3. 経済的な理由で早く復帰する必要があった	3. 経済的な理由で早く復帰する必要があった
4. 人事異動や業務の節目の時期に合わせるため	4. 人事異動や業務の節目の時期に合わせるため
5. その他 ()	5. その他 ()

(2)「希望」より遅く復帰した方 ※当てはまる番号すべてに○をつけてください。

(1) 母親	(2) 父親
1. 希望する保育所に入らなかったため 2. 自分や子どもなどの体調が悪化したため 3. 配偶者や家族の希望があったため 4. 職場の受け入れ態勢が整っていないため 5. 子どもをみてくれる人がいなかったため 6. その他 ()	1. 希望する保育所に入らなかったため 2. 自分や子どもなどの体調が悪化したため 3. 配偶者や家族の希望があったため 4. 職場の受け入れ態勢が整っていないため 5. 子どもをみてくれる人がいなかったため 6. その他 ()

問 30-2で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方のみ

問 30-7 育児休業からの職場復帰時には、短時間勤務制度を利用しましたか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

(1) 母親	(2) 父親
1. 利用する必要がなかった (フルタイムで働きかけた、 もともと短時間勤務だった) 2. 利用した 3. 利用したが、利用しなかった (利用できなかった)	1. 利用する必要がなかった (フルタイムで働きかけた、 もともと短時間勤務だった) 2. 利用した 3. 利用したが、利用しなかった (利用できなかった)

問 30-7で「3.利用したが、利用しなかった(利用できなかった)」と回答した方がいます。

問 30-8 短時間勤務制度を利用しなかった(利用できなかった)理由は何ですか。当てはまる理由をすべてに○をつけてください。

(1) 母親	(2) 父親
1. 職場に短時間勤務制度を取りにくい 2. 雰囲気があった 3. 仕事が多かった 4. 短時間勤務にすると給与が減額される 5. 短時間勤務にすると保育所の入所申請の優先順位が下がる 6. 配偶者が育児休業制度や短時間勤務制度を利用した 7. 配偶者が無職、祖父母等が子育てをみてくれる人がいた 8. 子育てや家事に専念するため退職した 9. 職場に短時間勤務制度がなかった (就業規則に定めがなかった) 10. 短時間勤務制度を利用できなかった その他 ()	1. 職場に短時間勤務制度を取りにくい 2. 雰囲気があった 3. 仕事が多かった 4. 短時間勤務にすると給与が減額される 5. 短時間勤務にすると保育所の入所申請の優先順位が下がる 6. 配偶者が育児休業制度や短時間勤務制度を利用した 7. 配偶者が無職、祖父母等が子育てをみてくれる人がいた 8. 子育てや家事に専念するため退職した 9. 職場に短時間勤務制度がなかった (就業規則に定めがなかった) 10. 短時間勤務制度を利用できなかった その他 ()

問 30-2で、「2. 現在も育児休業中である」と回答した方がいます。

問 30-9 あて名のお子さんが1歳になるまでに必ず利用できる(預ける)事業があっても、1歳になるまで育児休業を取得しますか。または、利用できる(預ける)事業があれば、1歳になる前に復帰しますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

(1) 母親	(2) 父親
1. 1歳になるまで育児休業を取得したい 2. 1歳になる前に復帰したい	1. 1歳になるまで育児休業を取得したい 2. 1歳になる前に復帰したい

問 31 お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度について当てはまる番号に1つに○をつけてください。

満足度が低い	2	普通	3	4	満足度が高い
1					5

問 32 最後に、教育・保育環境の充実など紀の川市の子育ての環境や支援に関してご意見ご希望がございましたら、ご自由にご記入ください。

調査にご協力いただきまして、ありがとうございます。
切手は貼らずに同封の封筒に入れ、ご返函ください。

紀の川市
子ども・子育て支援事業計画における
ニーズ調査 結果報告書
平成 27 年3月
発行:紀の川市
編集:子育て支援課
和歌山県紀の川市西井 338 番地
0736-77-2511(代表)